

盛岡地区 救急医療体制 のあゆみ

2019

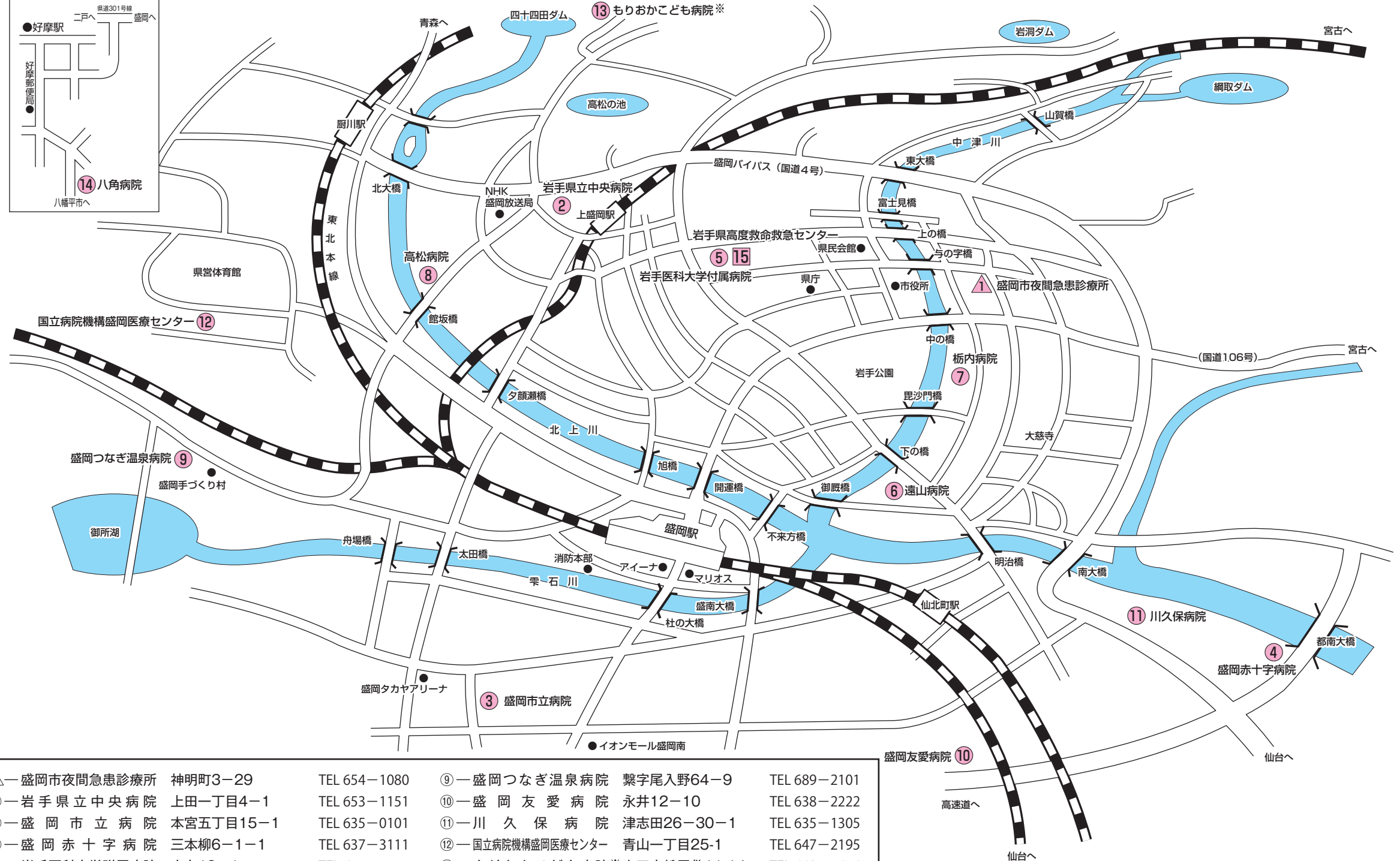
盛 岡 市

盛 岡 市 医 師 会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

盛岡地区救急医療施設配置図

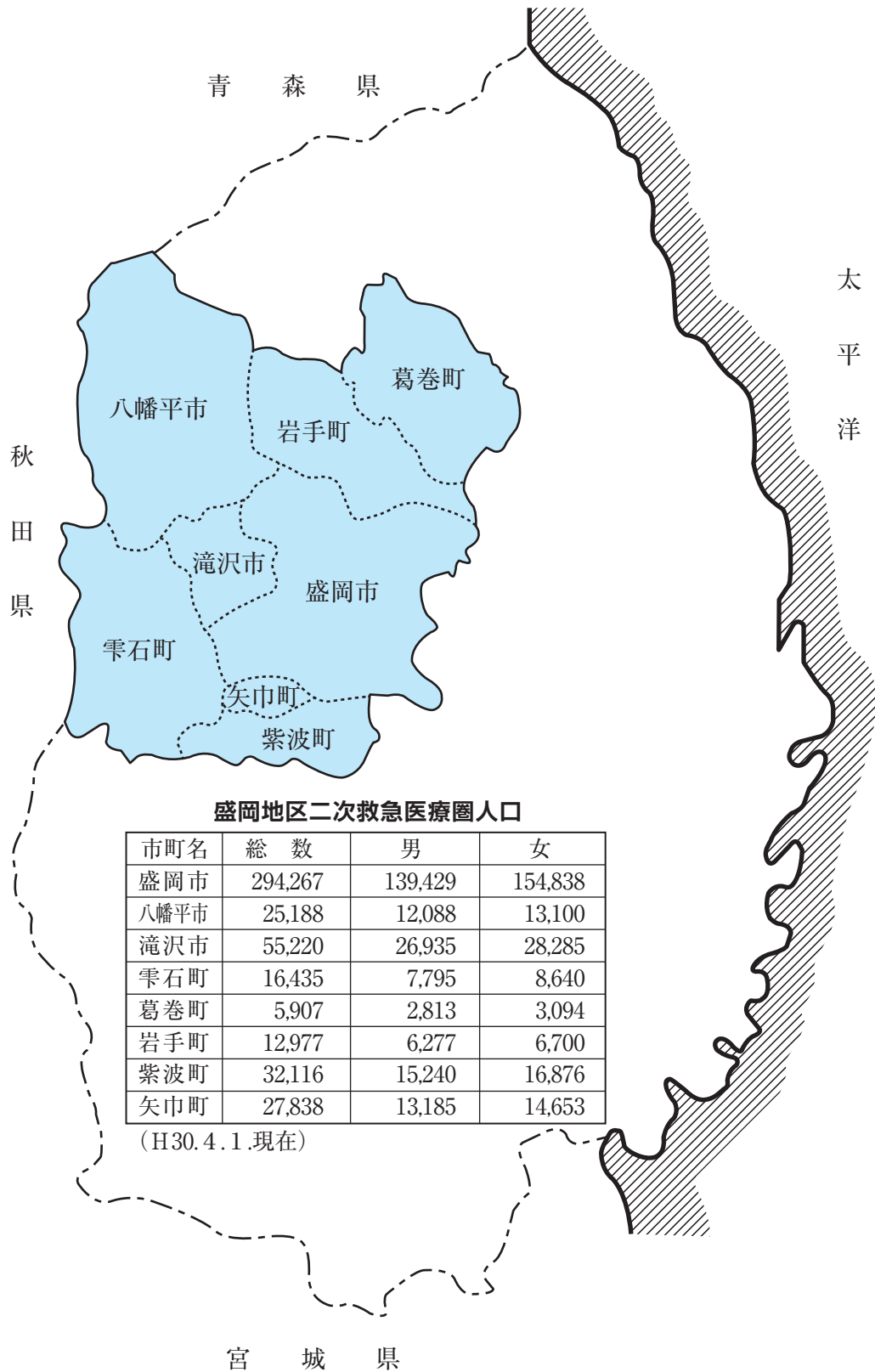
(平成30年12月現在)



△1—盛岡市夜間急患診療所	神明町3-29	TEL 654-1080	⑨—盛岡つなぎ温泉病院	繫字尾入野64-9	TEL 689-2101
②—岩手県立中央病院	上田一丁目4-1	TEL 653-1151	⑩—盛岡友愛病院	永井12-10	TEL 638-2222
③—盛岡市立病院	本宮五丁目15-1	TEL 635-0101	⑪—川久保病院	津志田26-30-1	TEL 635-1305
④—盛岡赤十字病院	三本柳6-1-1	TEL 637-3111	⑫—国立病院機構盛岡医療センター	青山一丁目25-1	TEL 647-2195
⑤—岩手医科大学附属病院	内丸19-1	TEL 651-5111	⑬—もりおかこども病院※	上田字松屋敷11-14	TEL 662-5656
⑥—遠山病院	下ノ橋町6-14	TEL 651-2111	⑭—八角病院	好摩字夏間木70-190	TEL 682-0201
⑦—栃内病院	肴町2-28	TEL 623-1316	⑮—岩手県高度救命救急センター	内丸19-1	TEL 651-5111
⑧—高松病院	館向町4-8	TEL 624-2250	※平成31年4月1日より「子どもは未来もりおかこどもクリニック」に名称変更(診療所化)		

盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2019年版

目 次

序	盛岡市医師会会長		
	盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長	和田利彦	6
挨拶	岩手県中央保健所 所 長	田名場 善 明	7
	盛岡地区広域消防組合 消防長	中 村 俊 行	8
I	盛岡市夜間急患診療所 42 年目のあゆみ		9
1.	実態報告		9
2.	経過報告・決算・予算		13
3.	診療所日誌から		14
4.	診療所の現状		20
①	出勤医名簿		20
②	役職員名簿		24
5.	薬品選定会議・運営協議会		25
	平成 29 年度盛岡市夜間急患診療所運営協議会		25
	平成 30 年度第 1 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会		28
6.	従事者打合せ会		
	平成 30 年度盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会		29
II	岩手県高度救命救急センター報告		31
1.	疾病傷別患者数（平成 30 年）		32
2.	来院時間帯別入院患者数		33
3.	地域別入院患者数		33
4.	搬入先・搬入方法別入院患者数		34
5.	主な手術件数および内視鏡的治療件数		34
III	お盆及び年末年始の救急医療		
1.	平成 30 年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告		35
2.	平成 30 年度年末年始外来患者実態調査報告		40
IV	盛岡地区二次救急医療体制 39 年目のあゆみ		48
1.	実態報告		48
2.	経過報告		96
3.	平成 30 年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議		97
4.	盛岡地区二次救急医療対策委員会		99

5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会	105
6. 第15回盛岡救急医療人のつどい	106
7. 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会	109
8. 二次救急病院事務長会議	113
9. 平成30年度盛岡市総合防災訓練	116
10. 岩手県小児救急電話相談事業（平成30年1月から12月までのまとめ）	123
V 救急医療年譜	129
VI 規程・協定書及び設置要項等資料	131
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	131
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	132
① 岩手県と岩手県医師会との協定書	133
② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	135
③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書	137
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	139
VII 編集後記	141



序 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」 2019 の発行にあたって

盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長

和田 利彦

「あゆみ 2019」発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

盛岡地区救急医療体制のあゆみは、昭和 51 年に「夜間急患診療所」が開設、昭和 54 年に「盛岡地区二次救急医療体制」の運用が開始、昭和 55 年に「高次救急センター」が開設、さらに平成 24 年 5 月よりドクターヘリの本格運行が開始されました。盛岡地区の初期、二次救急医療のみならず、岩手県全域の住民のために運営され続けられています。これまで、救急医療に関わってこられましたすべての関係者に心より感謝申し上げます。

今回の「あゆみ 2019」は、盛岡市夜間急患診療所 42 年目のあゆみ、岩手県高度救命救急センター報告、盛岡地区二次救急医療体制 39 年目のあゆみなどを報告致します。

40 年程になる盛岡地区救急医療体制のあゆみは、様々な課題を乗り越え全国的にも恵まれた状況の中運営されて参りました。本年 9 月の岩手医科大学附属病院矢巾移転に伴い、救急受け入れ体制の整備が必要となります。初期救急を効率よく対応できるように準備を行い、現在の二次救急医療体制を堅持する必要があります。

特に移転前後に一部の病院に多くの受診者が集中してしまうと、十分な診療機能を維持することが困難になります。盛岡地区の住民の皆様には適正受診について繰り返し周知を図り、また、岩手県立中央病院と盛岡赤十字病院には、重症患者を優先して受け入れ、その他の既存の医療機関でできるだけ多くの初期救急に対応していくことなどにより、今後も盛岡地区救急医療体制を維持してまいります。関係各位のより一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



「盛岡地区救急医療体制 のあゆみ—2019—」に寄せて

岩手県県央保健所

所 長 田名場 善 明

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ—2019—」の発刊に当たり、一言御挨拶申し上げます。

盛岡保健医療圏域の救急医療対策の推進につきましては、盛岡市、岩手西北、紫波郡の各医師会、管内の医療機関、そして消防機関および行政機関ならびに多くの関係団体の御協力と御支援のもと、当圏域の救急医療体制は円滑に推進されており、関係各位の御尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

盛岡保健医療圏域の救急医療体制は、昭和51年の「夜間救急診療所」設置から始まり、同54年には「盛岡地区二次救急体制」が運用を開始し、同55年には「高次救急センター」が岩手医科大学附属病院に併設されて現在の体制が出来上がり、さらに、平成24年からの「ドクターヘリ」本格運用によりますます充実してきました。これに伴い、当圏域では、一次・二次救急患者に加えて県下の三次救急患者を受け入れており、県全域での高度救急救命医療の提供に大きく貢献しています。関係各位の熱意と御努力に感謝申し上げます。

脳卒中や急性心筋梗塞は、発症から治療開始までの時間が短いほど治療の有効性が高いことから、発症後時間を置かず適切な治療を始める必要があります、本人や家族等患者の周囲にいる者が速やかに救急隊を要請しなければなりません。その一方で救急車の不要不急な利用は、消防機関の負担になるばかりか救急医療機関にも過分の負担となることから、本県では、平成20年度から「県民みんなで支える岩手の地域医療推進運動」を展開し、その中で救急車の適切な利用を促すとともに、適正受診の普及啓発に取り組んでいるところです。

本年9月、岩手医科大学附属病院が矢巾町に移転することから、盛岡保健医療圏域のみならず県全域で救急医療提供体制が変わっていきます。先輩諸先生方が築き、たゆまぬ努力で運営されてきた救急医療がこれからも適切に確保されますよう、保健所は地域の皆様に御理解をいただくよう努めてまいりますので、救急医療に携わる皆様方には、引き続き御支援賜りますようお願い申し上げます。

結びに、盛岡地区において救急医療体制の運営に携わる盛岡市医師会の諸先生をはじめ、関係各位の御活躍とますますの御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。



「盛岡地区救急医療体制 のあゆみ—2019—」に寄せて

盛岡地区広域消防組合

消防長 中 村 俊 行

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ—2019—」の発刊に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から当消防組合の救急業務の円滑な推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

盛岡地区の救急医療体制につきましては、盛岡市医師会、岩手西北医師会、紫波郡医師会及び関係医療機関のご尽力により、初期救急医療、二次救急医療及び三次救急医療の体制が確立されるとともに、二次救急病院及び小児救急病院の輪番体制が定着し、救急医療が円滑に行われておりますことに深く感謝を申し上げます。

さて、昨年は、札幌市で発生したスプレー缶爆発火災、多摩市で発生した工事中の建物火災、さらには、西日本を中心に広い範囲で発生した7月豪雨及び台風による災害、大阪府北部及び北海道胆振東部で発生した地震災害など、全国各地で住民の生活を脅かす大きな災害が発生しており、北海道胆振東部地震災害の際には、本県初の緊急消防援助隊が出動したところであります。

本年は、9月に釜石鵜住居復興スタジアムで開催される『ラグビーワールドカップ2019』、10月に盛岡市で開催される『いわて盛岡シティマラソン』等の県内外から多くの方が訪れるイベントを控えているほか、岩手医科大学附属病院が新病院へ移転するなど、安全・安心に対する住民の関心が高まるものと存じます。

全国的に救急出動件数は年々増加しており、当消防組合においても昨年の救急出動件数は、前年に比べて840件増の17,849件、本県の救急医療の重要な要である岩手県ドクターヘリにあっても、平成30年度の出動件数は385件となっております。

そのような状況の中、岩手県立中央病院ヘリポートが本年5月に開所しましたことは、病院収容時間の短縮及び医療機関での治療が早期に開始されることを可能とし、盛岡地区の救急医療体制が益々充実されるものと大きく期待しております。

また、当消防組合といたしましては、消防機関と医療機関の協議の場である「盛岡地域メディカルコントロール協議会」の結果に基づきまして、救急救命活動に係る要綱などの一部変更を行い、さらなる救命率の向上を図るとともに、救急隊員の教育訓練の充実、救急救命士及び指導救命士の養成、岩手県が策定した「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」の円滑な運用、岩手県ドクターヘリとの連携による救急体制の強化など、関係医療機関等のご理解とご協力をいただきながら、さらなる救急業務の高度化に積極的に取り組み、地域住民の信頼と負託に応えるよう一層努力する決意であります。

結びに、プレホスピタルケアの充実と社会的な要請に応えるため、引き続き、救急隊員に対するより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、盛岡市医師会のますますのご発展と皆様方の更なるご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

I 盛岡市夜間急患診療所 42 年目のあゆみ

1. 実態報告

盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

和田 利彦 ・ 金子 博純 ・ 吉田 耕太郎
金 濱 誠己 ・ 久保田 公宜 ・ 小林 有一
臼 井 由紀子 ・ 吉田 研一

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※ H30.12.31 現在

図 1 過去 5 年間の月別患者分布 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
26 年	582	751	1,058	672	651	402	454	559	404	410	490	1,016	7,449	20.4
27 年	1,014	583	520	481	610	410	459	461	453	352	421	479	6,243	17.1
28 年	563	823	736	641	609	437	472	469	468	442	477	771	6,908	18.9
29 年	635	495	518	459	606	455	409	497	418	443	382	589	5,906	16.2
30 年	941	872	666	630	587	462	458	519	450	377	345	512	6,819	18.7

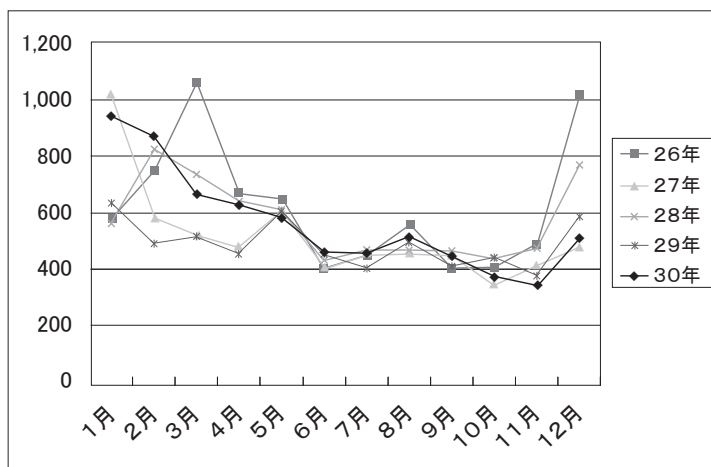


表 (1) 患者総数及び科別実績 (人)

月		30 年													合計	比率	前年	
区分		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		(%)	実績	増減	
患者総数		941	872	666	630	587	462	458	519	450	377	345	512	6,819	100.0	5,906	913	
一日患者数		(30.4)	(31.1)	(21.5)	(21.0)	(18.9)	(15.4)	(14.8)	(16.7)	(15.0)	(12.2)	(11.5)	(16.5)	(18.7)		(16.2)	(2.5)	
科	内科	463	398	299	285	240	155	162	172	133	123	110	201	2,741	40.2	2,156	585	
		(14.9)	(14.2)	(9.6)	(9.5)	(7.7)	(5.2)	(5.2)	(5.5)	(4.4)	(4.0)	(3.7)	(6.5)	(7.5)		(5.9)	(1.6)	
別	小児科	478	474	367	345	347	307	296	347	317	254	235	311	4,078	59.8	3,750	328	
		(15.4)	(16.9)	(11.8)	(11.5)	(11.2)	(10.2)	(9.5)	(11.2)	(10.6)	(8.2)	(7.8)	(10.0)	(11.2)		(10.3)	(0.9)	

表（２） 年齢別患者分布

(人)

年齢		月	30年													合計	比率 (%)	前年 実績	増減
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月						
年齢別	0	36	29	40	40	50	35	26	42	40	25	22	34	419	6.1	417	2		
	1～5	222	214	189	201	202	182	161	207	198	140	140	161	2,217	32.5	2,139	78		
	6～12	171	181	103	81	78	78	88	83	65	68	63	101	1,160	17.0	960	200		
	13～15	49	51	35	31	24	14	23	18	17	25	10	17	314	4.6	260	54		
	16～24	124	96	56	69	56	37	38	42	29	32	27	53	659	9.7	555	104		
	25～34	105	93	79	83	62	41	41	40	38	34	24	55	695	10.2	537	158		
	35～44	101	87	74	54	55	29	30	35	16	24	20	35	560	8.2	432	128		
	45～54	70	71	46	31	24	24	21	22	24	14	18	30	395	5.8	284	111		
	55～64	35	23	21	18	19	9	15	20	9	7	10	12	198	2.9	129	69		
	65～74	16	12	8	11	11	6	5	6	9	6	7	9	106	1.6	102	4		
	75～	12	15	15	11	6	7	10	4	5	2	4	5	96	1.4	91	5		
	計														6,819	100.0	5,906	913	

・年齢別では、1～5歳児が最も多く、全体の32.5%を占めている。

表（３） 地域別患者分布

(人)

地域	月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
地域別	盛岡市	732	658	509	431	434	371	357	332	319	278	253	392	5,066	74.3	4,360	706
	雫石町	6	10	9	10	13	9	8	4	11	6	5	7	98	1.4	85	13
	葛巻町	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.0	0	3
	岩手町	6	5	4	11	1	1	1	2	7	4	0	2	44	0.6	35	9
	八幡平市	9	4	12	11	5	6	4	7	10	4	10	2	84	1.2	82	2
	滝沢市	82	64	53	61	54	29	44	62	43	45	29	49	615	9.0	508	107
	紫波町	32	47	20	32	18	24	14	27	23	16	16	16	285	4.2	265	20
	矢巾町	38	56	42	47	33	14	19	32	21	16	22	21	361	5.3	307	54
	その他の県内	12	11	11	12	10	1	3	9	4	5	6	9	93	1.4	93	0
	県外	24	16	6	14	19	7	8	44	12	3	4	13	170	2.5	171	△ 1
計														6,819	100.0	5,906	913

・地域別で1番多いのは盛岡市の5,066人（全体比74.3%）。前年より706人増。

・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の615人（同9.0%）、3番目が矢巾町の361人（5.3%）。

表（４） 曜日別患者分布

(人)

曜日\月		30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
曜 日 別	月	123	117	61	92	56	55	77	73	70	61	34	81	900	13.2	776	124
	火	122	84	60	57	85	51	60	72	55	53	36	51	786	11.5	617	169
	水	151	83	95	85	102	59	52	78	55	52	40	47	899	13.2	778	121
	木	100	119	87	68	91	51	46	86	47	44	58	53	850	12.5	757	93
	金	65	84	82	64	72	60	51	54	39	39	59	52	721	10.6	654	67
	土	198	174	173	124	90	110	78	81	89	71	73	118	1,379	20.2	1,194	185
	日	182	211	108	140	91	76	94	75	95	57	45	110	1,284	18.8	1,130	154
計														6,819	100.0	5,906	913

・年齢別では、１～５歳児が最も多く、全体の 32.5% を占めている。

表（５） 時間帯別患者分布

(人)

月		30年																
時間帯		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減	
時間 帯 別	午後 7:00 ~	470	413	307	288	257	197	177	227	195	164	152	244	3,091	45.3	2,695	396	
	午後 8:00 ~	228	246	173	165	152	122	131	131	118	110	105	124	1,805	26.5	1,539	266	
	午後 9:00 ~	153	141	137	120	128	87	105	81	91	67	60	96	1,266	18.6	1,075	191	
	午後 10:00 ~	90	72	49	57	50	56	45	79	45	36	28	48	655	9.6	595	60	
	午後 11:00 ~								1	1				2	0.03	2	0	
計														6,819	100.0	5,906	913	

・時間帯別では、午後 7:00～9:00 までが多く、7 割を占めている。

表（６） 時間帯別有救急度患者分布

(人)

月		30年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時間 帯別	午後 7:00～	60	69	32	36	20	21	23	30	34	23	12	49	409	46.3	297	112	
	午後 8:00～	18	56	23	21	11	12	9	13	19	16	9	25	232	26.2	153	79	
	午後 9:00～	16	21	20	20	11	9	12	12	16	4	5	21	167	18.9	146	21	
	午後 10:00～	13	15	5	8	1	4	5	4	2	3	4	11	75	8.5	77	△ 2	
	午後 11:00～	0	0	0						1				1	0.1	0	1	
計														884	100.0	673	211	

・有救急度患者は患者全体の 12.9% を占め、時間帯別では、午後 7:00～8:00 までが多く、46.3% を占めている。

表（７） その他事項別人数

(人)

事項\月		30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
電話問合	医師指導			2										2	0.1	3	△ 1
	看護師等助言	348	323	281	267	317	260	265	312	251	194	239	283	3,340	97.1	2,867	473
救急車搬入														0	0	0	0
二次救急転送		2	7	4	8	9	9	13	11	9	7	7	12	98	2.8	90	8
計														3,440	100.0	2,960	480

・電話問合に対する看護師等の助言件数は 3,340 件で前年より 473 件増加した。

表（８） 転送先二次・三次救急病院別診療科別患者分布（平成 30 年 1 月～12 月）

診療科 救急病院	内科	小児科	外科	耳鼻科	泌尿器科	眼科	産婦人科	歯科	計
岩手県高度救命救急センター									0
岩手県立中央病院	16	20							36
盛岡市立病院									0
盛岡赤十字病院	1	4							5
岩手医科大学附属病院	34	22							56
遠山病院									0
栃内病院									0
高松病院									0
盛岡つなぎ温泉病院盛岡									0
友愛病院									0
川久保病院	1	4							5
国立盛岡病院									0
もりおかこども病院									0
計	52	50	0	0	0	0	0	0	102
比率（％）	51.0	49.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

・内科小児科が半々程度となっている。

表（９） 転送患者疾患別分類（平成 30 年 1 月～12 月）

疾 患 名	人	疾 患 名	人
上気道炎（急性他）	0	尿管結石	3
肺炎（急性他）	1	腎盂腎炎	0
気管支炎（急性・喘息様他）	9	クモ膜下出血・脳出血等（疑）	1
気管支喘息（発作含む）	9	中耳炎（急性他）	1
クループ（仮性含む）	1	蕁麻疹	1
気胸（左／右）	1	不明熱	3
扁桃炎（滲出性他）	1	食物アレルギー	0
インフルエンザ	3	高血圧症	0
胃・腸炎（急性・感冒性他）	9	脱水症	4
急性虫垂炎（疑）	10	めまい	3
急性腹症	6	その他	34
心臓病（心不全・狭心症他）	2	計	102

・呼吸器系が約 2 割、消化器系が約 2 割を占めている。

2. 経過報告・決算・予算

経過報告

平成 30 年 8 月 18 日

平成 30 年度第 1 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

平成 31 年 2 月 8 日

平成 30 年度第 2 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

予算・決算

歳 入

(円)

科 目	29 年度決算	30 年度予算	説 明
使 用 料	82,551,915	78,342,000	診療報酬収入
県 補 助 金	933,000	1,670,000	運営費補助金
雑 入	1,000	1,000	事務手数料等
合 計	83,485,915	80,013,000	

歳 出

(円)

科 目	29 年度決算	30 年度予算	説 明
報酬	48,691,810	49,264,000	管理者、医師、看護師報酬
共済費	846,804	954,000	社会保険料
賃金	0	226,000	臨時補助員賃金
報償金	96,000	173,000	運営協議会委員謝金
旅費	14,920	16,000	研修会参加旅費
需用費	8,440,676	7,766,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	381,608	387,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	8,606,893	8,599,000	医療事務委託料、連絡調整委託料等
使用料及び賃借料	1,938,778	1,928,000	タクシー使用料、医事会計システム借上料
備品購入費	408,240	410,000	機械器具購入費（H E P A フィルター付き空気清浄機 29 年度）
合 計	69,425,729	69,723,000	

3. 診療日誌から

内 科

診療日誌

平成 30 年 1 月 1 日（月） K.A

- 1) 29 才 ♂ インフルエンザの疑
急性上気道炎
- 2) 38 才 ♀ 急性上気道炎
- 3) 55 才 ♂ 急性上気道炎
- 4) 69 才 ♀ 急性上気道炎
- 5) 31 才 ♂ (S) インフルエンザ A
- 6) 31 才 ♂ (T) インフルエンザ
- 7) 22 才 ♂ 感染性胃腸炎
- 8) 24 才 ♂ 急性上気道炎
- 9) 22 才 ♂ インフルエンザ B + 感染性
胃腸炎
- 10) 55 才 ♂ 感染性胃腸炎
- 11) 24 才 ♂
- 12) 23 才 ♂ 感染性胃腸炎
- 13) 66 才 ♂ 急性上気道炎
- 14) 35 才 ♂ インフルエンザ

平成 30 年 2 月 1 日（木） K.K

本日 16 名でインフルエンザ抗原迅速テスト 11 名中 3 名のみ陽性、すべて B 型でした。16 → 17 → 25 と患者数が増加し、相当の覚悟して望みましたが、いささか片すかし。でも平日 16 名は私にとって最大でしたが…。

平成 30 年 2 月 6 日（火） T.S

本日、当夜間診療所に来て本当にインフルエンザが流行っているのだと実感しました。但し現在のインフルエンザ判定キットではごく初期の場合、陰性となる例もあり、発熱が続く 2 回目の検査で陽性になることも念頭に

おき、早期治療、効果を目指すことも大切です、と思います。

平成 30 年 2 月 14 日（水） T.O

今日でいよいよこの夜間診療所当番も最後である。

妻の入院や自分の加齢のことで疲れがきつくなって来たので医師会へ免除を申し出た。

思えば S55 年開業以来ずっとやらしてもらってましたが、当時は中の橋のたもとの青年会館を借りてやっていたようです。開業医も少なく、廻りがずい分早かったようで月 1 回位はあったのですが、先輩の先生から頼むと言われれば文句を言わず出勤したものでした。外科の先生も余裕があれば出勤してました。県医師会会長の石川先生等も出勤してくれたりしてました。耳鼻科、眼科、等の先生方は出ませんでした。

当時から、内科、小児科は分離しているようでしたが、当時内科・小児科の 2 つの標榜されてる先生方も居て、内科会によく顔をみせていた先生が小児科の椅子に座ってることが度々ありました。それだけですまず時に小児科のカルテが廻って来たりしました。本当に小児科の先生方には頭が下がります。内科患者の 3 ～ 4 倍は来ることも今もあります。思い出深いのは H 先生と言って中央病院の小児科にいた先生でした。カーテン 1 枚の隣りから小児のワンワン泣く声が聞こえて来ました。思わずウルサイナーとつぶやいたら先生が私の前に急に来了。“子供は泣くのはあたり前でしょう”ときつく怒られました。以後深く注意しております。

平成 30 年 2 月 18 日（日曜日） K.K

未だインフルエンザ猛威

A、B 同時罹患のお気の毒！様もいるらしい。

昨日、羽生結弦、今日、小平奈緒と 2 日連続の快挙！ //16 人中 11 人インフルエンザでした。

日本中で勝つことを期待されていてその通り勝ち切った 2 人は本当に素晴らしい。

平成 30 年 5 月 8 日（火） S.C

本日 9 名 でした。

胃腸炎が多かった。

平成 30 年 6 月 3 日（日） T.M

12 名うち 1 名 高度救命救急センターに搬送（意識障害）

平成 30 年 6 月 19 日（火） T.Y

1、50 才 M 咽頭炎

2、 M 神経症

3、49 才 F 副鼻腔炎

サッカーワールドカップ初戦 コロンビア戦 2：1 勝利！

平成 30 年 7 月 3 日（火） K.K

本日 4 名でした。

昨日 34℃ 台、本日 33℃ 台、早くも夏バテ気味

平成 30 年 7 月 17（火） T.C

1、46 才 F 急性大腸炎

2、69 才 M 発熱→救急センターへ紹介

3、20 才 M 急性胃腸炎

4、31 才 F 尿管結石

2、の患者さんは生体肝移植を受けている人。
数日前から 38℃ 台の発熱あり、本日担当医のいる病院を受診したが、検査（通常の）の

みで帰宅し、夜になってこちらを受診。救急センターへ紹介した。

専門化による笑えない話と思われた。

平成 30 年 8 月 1 日（水） M.K

① 37 才 ♂ 感染性腸炎・脱水

② 25 才 ♀ 急性上気道炎

③ 26 才 ♀ ヘルパンギーナ疑い（同居の子、同症状）

3 名でした。

さんさ 1 日目、思ったより少ない。

道路もすいていました。

平成 30 年 8 月 28 日（火） N.K

ZERO でした。

平成 30 年 9 月 30 日（日） Y.E

本日 3 名 台風が田辺市付近に上陸したとの事です。

平成 30 年 10 月 9 日（火） K.I

2 名が 23：00 直前の受診でした。

終了時間 23：15

平成 30 年 12 月 30 日（日） Y.K

22 人

インフルかなと思って検査するも（-）多かった。

平成 30 年 12 月 31 日（月） K.K

記念すべき平成最後の大晦日に当番という光栄に浴しました。

15 名でした。

それではよいお年を！

今年は雪が少なくて楽です。若い時は雪を待望していたのにこの変わり様です。自分でも驚いています。

小 児 科

平成 30 年 1 月 4 日（木）M.S

今年もよろしくお願いいたします。

15 名でした。

いずれも軽症です。

平成 30 年 1 月 27 日（土）Y.K

小児科 49 名

A 6 名

B 16 名

溶連菌 1 名

じんましん 1 名

胃腸炎 数名

インフルエンザ大ブレイクしていました。

平成 30 年 1 月 28 日（日）T.M

小児科 44 名

インフル A 5 人

インフル B 16 人

18:40 の出勤時、すでにあふれてました。

19 時来院の方は 20 時すぎにお呼びすることになってしまいました。

タミフル d.s の残が少なくなっていまい、後半はやむをえず 1 日分処方として、翌日にかかりつけへとお願ひしました。

平成 30 年 3 月 3 日（土）H.M

急患 33 名 flu A 1 名

flu B 21 名

平成 30 年 3 月 4 日（日）A.S

34 名

Flu A 3 名

B 13 名

平成 30 年 2 月 10 日（土）K.K

32 名でした

インフル A 5 名

B 10 名でした。

平成 30 年 2 月 11 日（日）T.M

患者：59 名

インフル検査 49 名 → A 13 人

B 14 人

平成 30 年 2 月 12 日（月）Y.K

インフルエンザも A・B ともに流行し、本日もかなりの混雑になると思ってやってきましたが、混雑は最初のみでした。

おそらく大部分の人は明日かかりつけを来院するので今日は控えたのでしょうか。

小児科計 37 名

インフルエンザ検査 29 名

A 7 名

B 10 名

平成 30 年 2 月 17 日（土）T.Y

患者数 25 名

ほとんど高熱、それも夕方からの症状。保育園・幼稚園・学校で流行しているという児。迅速テストは発熱後、短時間だと陽性に出ないことをも知っている。しかしやって欲しい人、こういう人ばかりでした。陰性であっても、インフルエンザではないと言えないとお話をし、今後の留意点をお話する。この作業に疲れました。どうにかならないでしょうか…。

この中でインフル迅速テスト（+）の児 2 人、家族内感染児でした。

久し振りにやりがいのある（？）夜間診療所

でした。

平成 30 年 2 月 25 日（日） Y.U

16 名

インフルエンザ迅速テスト 11 名施行

A 型 2

B 型 2

1 才 7 カ月男児

何かを誤飲し、口内が青くなって、下半身が麻痺して転倒する症例を二次救急の県立中央病院に紹介しました。

平成 30 年 3 月 1 日（木） T.K

Flu はどこへ行ったのでしょうか。

時に散発している様ですが、毎年のパターンを示しているのでしょうか？

平成 30 年 3 月 9 日（金） Y.K

小児科 8 名 インフル検査 0 名

37 ～ 38℃ の発熱 2 名

その他発進、腹痛、頻尿など

インフルの検査はしませんでした。

症状軽いので、あえて鼻グリグリしなくても、明日の受診で十分と判断しました。

平成 30 年 4 月 25 日（水） A.K

6 名でした。

アナフィラキシーで岩手医大に紹介

7 カ月

茶碗蒸し摂取後、嘔吐、持続する咳、発疹の全身への拡大

平成 30 年 5 月 13 日（日） Y.U

13 名

じんましん 3 名

肘内障 2 名

嘔吐、下痢（4 名）が南方面で流行中でしょうか

平成 30 年 6 月 29 日（金） Y.F

小児科 13 名

気管支ぜん息（小発作）・嘔吐の患者がめだちました。

平成 30 年 7 月 7 日（土） K.T

小児科受診者数：14 名

喘息発作：3 ～ 4 名

（記録的豪雨の影響か…？）

その他 特記事項なし。

平成 30 年 7 月 18 日（火） T.T

7 月なのに西日本、関東は猛暑、熱中症の報道多い

小児科 8 名

内科 4 名

平成 30 年 7 月 21 日（土） Y.K

小児科 14 名

発熱が多かった

熱中症を心配しての受診が何人かいた。

平成 30 年 7 月 31 日（火） T.Y

8 名来所

今日もとても暑い（熱いかな）1 日でした。

こども達も夏休みに入り、スポ少などの活動もはじまった様です。みんなうだっていた 1 日と思ったのですが、今日サッカーの練習に参加した 9 才男児です。まず Tel あり、今日 11 時～ 19 時まで外で練習していた。たぶん熱中症と思うのですが、てっとり早いのは点滴すればいいと思うので、点滴してもらえますか？という母から。以前姉も熱中症で来所したが、帰された。しかし軽快せず、再び来所して点滴してもらいました。え～、大変な患者かな～この児が来所。きくと“お昼も食べず、水分もとらず、だった”と言うが（母が）顔色良好、元気である。水分をとってみようとのませようとするが、母は「のまない

たべないのですよ」と。しかしゴクゴクとおいしそうにのむ。

……

点滴せずに、ポカリ 1 本のみ、元気そうに帰りましたが……。

有名なクラブチームの 1 人 3 年生です。今日は運動もやめましょうという報道があったのに……。

立派な有名な選手になるでしょうか？

平成 30 年 8 月 1 日（水）T.K

今日から 8 月、短い東北の夏の頂点です。

例年の如く「さんさ踊」が始まりました。

患者さん「じんましん」4 人来院しました。

平成 30 年 8 月 14 日（火）Y.M

急患 22 名

お盆期間中、耳鼻科、眼科も含めて小児科も公的病院は診療しているということを、知らない人が多い。

お盆中はどこの病院も休診だと思われて、休日当番医の問い合わせもある。

日中の診療なのだから公表してもいいのではと思う。

平成 30 年 8 月 28 日（火）Y.A

手足口病が散見されました。

9 名

平成 30 年 10 月 4 日（木）H.M

5 名でした。

RS（+）1 名

RSV 流行しています。

平成 30 年 10 月 6 日（土）K.T

小児科：17 名

・RSV 感染症：1 名

・喘息様気管支炎：3 名

・喘息発作：ベネトリン吸入で SpO2 正常化、

かつ、呼吸困難徴候（-）なので、処方にて経過観察とした。

・手足口病：4～5 名

・右耳介上部被髪頭部の癰（疑）～抗菌剤内服

・その他、特記事項なし。

平成 30 年 11 月 2 日（金）Y.U

5 人

きのう当院で、A 型インフルエンザでした。日曜日にイオン（どっちか確かめませんでした）に行った 7 才女兒。学校では流行していません。おそらく…。

平成 30 年 11 月 3 日（土）Y.C

15 人受診。

溶連菌が流行

ヘルパンギーナも数人。

インフルはいなかったです。

平成 30 年 11 月 8 日（木）T.T

11 月になったが暖かい日が続いている。インフルエンザが出はじめている。

小児科 6 名

内科 2 名

本日インフルエンザは 0 名

平成 30 年 12 月 8 日（土）K.K

12 名

インフル A 1 名

溶連菌 1 名

でした。

インフルは少しでてきている様です。

（12/2 の当番医のときも数人でした）

平成 30 年 12 月 26 日（水）T.T

雪の少ない年末。インフルエンザの流行も少ないようですが、これから増えるのか？

小児科 10 名

内科 10 名

輸液 1 名（下痢嘔吐）

水痘 2 名あり

早すぎる発熱の来院 2 名あり、明朝かかりつけ医でインフルエンザ検査勧めた。

平成 30 年 12 月 30 日（日） Y.K

内科 22 名

小児科 16 名

インフルエンザ A 4 名

溶連菌 1 名

盛岡でも、いよいよインフルエンザが流行しはじめたようです。

平成 30 年 12 月 31 日（月） Y.M

急患 18 名

Flu A 1 名

Appe susp 中央 H、紹介

先生深謝

今年もいろいろお世話になり有難うございました。来年もよろしくお願い致します。

夜間診療所の体制、なんとかあと 3 年は維持させたいと思います。

その後はかなり厳しい状況になるでしょう。

4. 診療所の現状

① 夜間急患診療所出動医名簿

平成 30 年 1 月 1 日～12 月 31 日

青 山 洋 二	向中野二丁目 54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
朝 倉 謙 輔	内丸 19-1	岩手医大 消化器肝臓内科
朝 倉 慎 一	茶畑一丁目 8-2	あさくらクリニック
朝 倉 賀 子	内丸 19-1	岩手医大 小児科
阿 部 弘 一	菜園二丁目 5-29	あべ菜園内科クリニック
阿 部 隆 志	肴町 6-6 熊長ビル 1 階	あべ神経内科クリニック
阿 部 佳 子	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
阿 部 礼 司	長橋町 17-45	あべ内科・消化器科クリニック
池 田 亘 政	上太田弘法清水 10-3	池田内科
池 田 富 好	本町通三丁目 19-32	真山池田医院
石 井 基 嗣	中ノ橋通一丁目 4-20 水晶堂ビル 4 階	いしい内科・糖尿病クリニック
石 井 基 弘	東緑が丘 23-26	石井内科消化器科医院
板 澤 正 明	中央通一丁目 7-25 1 階	ポランの内科クリニック
伊 藤 俊 一	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
白 井 由紀子	松園二丁目 2-10	白井循環器呼吸器内科
漆久保 順	内丸 19-1	岩手医大 消化管内科
永 塚 健	緑が丘四丁目 1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
江 村 洋 弘	城西町 7-33	江村胃腸科内科医院
遠 藤 昌 樹	大通三丁目 9-3	開運橋消化器内科クリニック
及 川 寛 太	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
及 川 慶 一	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
及 川 慶 介	内丸 19-1	岩手医大 小児科
及 川 剛	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
大 浦 雅 之	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
大久保 仁	内丸 19-1	岩手医大 糖尿病・代謝内科
大 坂 美和子	本宮一丁目 6-12	荻野病院
大 澤 宏 之	茶畑二丁目 8-3	大澤脳神経・内科・歯科クリニック
大 庭 英 樹	盛岡駅前通 13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
大 平 篤 志	梨木町 2-2	おおひら内科循環器科クリニック
大 屋 敬一郎	西青山一丁目 16-43	大屋内科胃腸科クリニック
岡 田 健 男	清水町 3-5	岡田消化器科内科医院
荻 野 義 信	本宮一丁目 6-12	荻野病院
小 田 淳 一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
小 田 翔 一	八幡平市田頭 22-79-1	八幡平市国民健康保険西根病院

小野寺	謙	内丸 19-1	岩手医大 糖尿病・代謝内科
桂	永 行	本宮字小板小瀬 13-2	かつら内科クリニック
桂	泰 鴻	本宮字小板小瀬 13-2	かつら内科クリニック
加 藤	歩	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
加 藤	隆 幸	盛岡市天神町 11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
加 藤	幸	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
金 澤	格	上堂一丁目 18-24	かなざわ内科クリニック
金 矢	宣 紀	津志田中央三丁目 7-7	循環器内科 金矢クリニック
金 山	広 海	浅岸一丁目 12-22	かなやま内科医院
金 子	博 純	乙部 13-135-3	金子胃腸科内科
金 子	能 人	月が丘一丁目 1-63	かねこ内科クリニック
金 濱	誠 己	向中野三丁目 10-6	杜のこどもクリニック
鎌 田	潤 也	大通二丁目 7-23	おおどおり鎌田内科クリニック
鎌 田	広 基	本宮二丁目 20-1	鎌田内科クリニック
上 原	充 郎	岩手郡雫石町八卦 1-16	上原小児科医院
川 村	光 郎	志家町 4-4	川村内科医院
川 村	みや子	紫波郡矢巾町大字煙山 24-1	みちのく療育園
菅 野	啓 一	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菅 野	恒 治	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菊 池	均	材木町 2-26-3 階	旭橋クリニック菊池循環器内科
草 野	修 司	内丸 19-1	岩手医大 小児科
工 藤	卓 次	前九年三丁目 16-15	くどう医院
工 藤	宏 紀	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
工 藤	真 大	中ノ橋通一丁目 7-13	工藤内科ハートクリニック
久保田	公 宜	大館町 26-3	久保田医院
郷 内	貴 弘	内丸 19-1	岩手医大 消化器肝臓内科
肥 田	龍 彦	菜園一丁目 4-7	菜園循環器内科医院
小 坂	崇	永井 19-258-1	小坂内科消化器科クリニック
児 島	陽 一	みたけ三丁目 11-36	児島内科小児科医院
後 藤	悠 輔	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
小 林	仁	盛岡駅西通二丁目 9-1	マリオス小林内科クリニック
小 林	有 一	三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
齋 藤	明 宏	月が丘二丁目 2-60	さいとう小児科クリニック
酒 井	秀 行	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
佐々木	透	高松二丁目 27-27	おはようクリニック
佐々木	正 孝	中野一丁目 27-10	ささき医院
佐々木	美 香	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐 藤	治	向中野一丁目 11-25	さとう胃腸科内科
佐 藤	公 也	大通三丁目 1-24	佐藤内科クリニック

佐 藤 まりの 内丸 19-1
 佐 藤 由香子 下ノ橋町 4-15
 佐 藤 陽 子 滝沢市穴口 377-1
 佐 藤 芳 行 本町通一丁目 12-7
 澤 田 哲 伸 上田一丁目 6-11
 小豆嶋 立 頼 永井 12-10
 白 倉 正 博 内丸 19-1
 菅 原 啓 司 内丸 19-1
 鈴 木 恒 男 大通一丁目 3-4
 鈴 木 知 己 八幡町 2-17
 鈴 木 昇 緑ヶ丘三丁目 2-34
 鈴 木 康 之 北松園二丁目 15-4
 清水 奈 央 内丸 19-1
 高 野 長 邦 三本柳 6-1-1
 高 橋 進 下米内二丁目 4-12
 高 橋 保 北飯岡三丁目 20-3
 滝 川 佐波子 西松園三丁目 22-1
 滝 沢 友里恵 内丸 19-1
 武 田 薫 花巻市東宮野目第 13 地割 112
 田 中 洋 永井 22-29-6
 谷 藤 幸 子 内丸 19-1
 田 村 悦 子 下ノ橋町 6-14
 田 村 茂 津志田 26-30-1
 千 田 明 紀 東安庭一丁目 23-60
 千 田 悠太郎 内丸 19-1
 千 葉 知 下ノ橋町 6-14
 千 葉 太 郎 永井 12-10
 千 葉 直 樹 中央通三丁目 1-10
 千 葉 芳 久 向中野三丁目 10-3
 寺 井 泰 彦 山王町 1-9
 栃 内 秀 貴 神明町 10-35
 富 澤 勇 貴 本町通一丁目 12-7
 豊 島 浩 志 内丸 19-1
 中 島 淳 月ヶ丘二丁目 8-30
 中 村 富 雄 上厨川字杉原 50-47
 中 村 義 明 若園町 2-5
 西 島 浅 香 上田一丁目 19-5
 二 宮 一 見 愛宕町 2-47
 橋 本 朋 子 内丸 19-1

岩手医大 糖尿病・代謝内科
 船山内科クリニック
 山口クリニック
 内丸病院 内科
 澤田内科医院
 盛岡友愛病院
 岩手医大 小児科
 岩手医大 小児科
 大通胃腸科内科
 鈴木内科医院
 緑ヶ丘消化器内科医院
 内科クリニックすずき
 岩手医大 小児科
 盛岡赤十字病院 小児科
 中津川病院
 もりおか往診ホームケアクリニック
 西松園内科医院
 岩手医大 小児科
 介護老人保健施設サンホーム
 田中循環器内科クリニック
 岩手医大 小児科
 遠山病院 内科
 川久保病院 内科
 ちだ内科・外科クリニック
 岩手医大 小児科
 遠山病院 内科
 盛岡友愛病院
 ちばクリニック
 本宮Cクリニック
 寺井小児科医院
 栃内内科医院
 内丸病院
 岩手医大 小児科
 中島内科クリニック
 中村こどもクリニック
 中村内科医院
 西島こどもクリニック
 二宮内科クリニック
 岩手医大 糖尿病・代謝内科

原 田 達 男	山岸三丁目 2-1	山岸中央ビル 1 階	原田内科脳神経機能クリニック
藤 井 裕	八幡平市柏台 2-8-2		東八幡平病院
藤 島 敏 智	愛宕町 4-18		藤島内科医院
星 野 健	永井 12-10		盛岡友愛病院
本 間 博	上田二丁目 20-13		本間内科医院
前 多 治 雄	盛岡駅前通 9-10	丸善ビル 5 階	前多小児科クリニック
蒔 苗 剛	津志田 26-30-1		川久保病院 小児科
松 嶋 大	仙北二丁目 1-20		なないろのとびら診療所
三 浦 義 孝	中野一丁目 16-10		みうら小児科
三 上 仁	上田一丁目 4-1		県立中央病院 小児科
水 沼 吉 美	中央通二丁目 11-12	明治生命館 1 階	水沼内科循環器クリニック
三 船 俊 英	天昌寺町 9-10		三船内科
宮 本 康 弘	上厨川字杉原 101-4		みやもと内科クリニック
武 者 毅 彦	北飯岡一丁目 2-70		たけ循環器内科クリニック
村 田 淳	紺屋町 3-4		村田小児科医院
村 田 望	北飯岡三丁目 20-3		もりおか往診ホームケアクリニック
森 田 順	緑が丘四丁目 1-50	アスティ緑が丘 1 階	森田小児科医院
森 田 友 明	緑が丘四丁目 1-50	アスティ緑が丘 1 階	森田小児科医院
森 谷 耕太郎	高松三丁目 11-29		森谷医院
八 木 千 栄	北飯岡三丁目 20-3		もりおか往診ホームケアクリニック
八 代 諭	内丸 19-1		岩手医大 糖尿病・代謝内科
山 口 淑 子	滝沢市穴口 377-1		山口クリニック
山 田 宏 之	津志田中央 2-18-31		やまだ胃腸内科クリニック
吉 田 絵里子	内丸 19-1		岩手医大 糖尿病・代謝内科
吉 田 研 一	梨木町 2-13		吉田小児科
吉 田 信 一	西仙北一丁目 30-50		よしだクリニック
吉 田 太 郎	内丸 19-1		岩手医大 小児科
吉 田 俊 巳	東見前 8-20-16		吉田消化器科内科
米 澤 美 希	内丸 19-1		岩手医大 消化器肝臓内科
渡 邊 活 見	高松三丁目 9-8		わたなべ内科・神経内科クリニック

② 役 員 名 簿

(平成 30 年 12 月 31 日現在)

開設者	盛岡市長	谷 藤 裕 明
管理者	盛岡市医師会会長	和 田 利 彦
運営協議会		
会長	盛岡市保健所長	高 橋 清 実
副会長	盛岡市医師会副会長	金 子 博 純
委員	盛岡市医師会理事	本 間 博
〃	〃	金 濱 誠 己
〃	〃	久保田 公 宜
〃	〃	小 林 有 一
〃	盛岡市医師会小児科医会会長	臼 井 由紀子
〃	盛岡市医師会小児科医会幹事	吉 田 研 一
〃	盛岡薬剤師会副会長	畑 澤 昌 美
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 宣 好
〃	岩手県看護協会会長	及 川 吏智子
〃	盛岡市保健福祉部長	村 上 秀 樹
事務局	盛岡市医師会事務局長	及 川 敬一郎
	盛岡市医師会事務局次長	水 本 達 彦
	盛岡市医師会事務局係長	谷 藤 慎 治
	盛岡市保健所次長兼企画総務課長	藤 井 優 子
	盛岡市保健所企画総務課長補佐	佐々木 一 憲
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係長	鈴 木 佳 子
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係主査	向 田 瑠 夏
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係主事	大 澤 優 也

5. 薬品選定会議・運営協議会

平成 29 年度 盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木） 午後 7 時
場 所：盛岡市保健所 5 階 第一会議室



最初に運営協議会会長の盛岡市保健所・高橋清実所長から、次いで夜間急患診療所管理者の盛岡市医師会・和田利彦会長から挨拶があった。

次に、以下の議題について意見が交わされた。

【議題】

(1)報告事項

平成 29 年度利用状況及び収入状況について（平成 29 年 4 月～平成 30 年 1 月までの集計）

①診療科別・年齢別患者数の状況

・今年度の患者総数は 5,199 人と前年度の 5,421 人を下回っていた。ただし、平成 30 年 1 月については 941 人と前年度の 1.5 倍と多く、今年度中最も多い人数であった。また同月は内科が多く小児科と同程度の人数であった。

・年齢別受診者数の割合では 1～5 歳が 1,882 人（36.2%）と最も多かった。

②曜日・時間帯別患者数の状況

- ・曜日別では土曜日が多かった。
- ・時間帯別では 7～9 時までの時間帯が 7 割を占めていた。

③地域別患者数の状況

- ・盛岡が 7 割を占め、滝沢が約 1 割、次いで矢巾、紫波の順に多かった。県外の地域も 3%ほどいた。

④各種検査、処置の状況

- ・インフルエンザの検査が多く、1 月までで 1,263 件検査しており、特に平成 29 年 12 月から平成 30 年 1 月にかけて、208 件から 644 件と急増した。

⑤年間最多・最小の患者数

- ・平成 30 年 2 月 11 日(日)の患者数が総数でも内科小児科別でも最多で、総数 88 人、内科 29 人、小児科 59 人であった。
- ・最小は内科 0 人が年間で 6 日間あり、小児科は 1 人が年間で 2 日間あった。

⑥収入状況（診療月ベース）

- ・総収入は前年度と同等か上回る見込みである。

(2)協議事項

①薬品等の導入について

新規にメプチン吸入液ユニットとクイックナビ-Flu+RSV について要望があったが、協議した結果、ともに不採用となった。

不採用とした理由として、メプチン吸入液ユニットについては成人と小児の2つの規格を揃える必要がある事、吸入の適応が気管支喘息に限られること、従来のベネトリンの使用は特に手間ではないこと、などが挙げられた。クイックナビ-Flu+RSV については、キットの価格が高いこと、RSV 単独のキット自体の検査件数の実績が少ないことから使用頻度が低いと見込まれること、などが挙げら

れた。

② 看護師の「小児救急電話相談事業事例検討会」への参加について

「小児救急電話相談事業」から夜間急患診療所への紹介があることや、同じ質問内容の電話を両方にかける保護者がいることなど、業務の関連性が高いことから、看護師の「小児救急電話相談事業事例検討会」への参加が提案された。相互理解が深まること、信頼関係の構築につながることで、共通認識を得ることができ、研修会の少ない看護師のスキルアップにつながることで、等のメリットが挙げられ、承認となった。

③その他

インフルエンザ拡大体制について質問があり、流行拡大時の体制について確認した。

（小林有一）

出席者			
管理者	和田利彦	盛岡市医師会	会長
運営協議会 会長	高橋清実	盛岡市保健所	保健所長
運営協議会 副会長	金子博純	盛岡市医師会	副会長
運営協議会 委員	本間博		理事
	金濱誠己		理事
	久保田公宣		理事
	小林有一		理事
	臼井由紀子		小児科医会会長
	吉田研一		小児科医会幹事
	畑澤昌美	盛岡薬剤師会	副会長
	佐々木宣好		副会長
	及川吏智子	岩手県看護協会	会長
	村上秀樹	盛岡市	保健福祉部長
事務局	及川敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本達彦		次長
	佐藤泰之		係長
	藤井優子	盛岡市保健所	次長兼企画総務課長
	佐々木一憲		企画総務課長補佐
	清見則行		企画総務係長
	鈴木佳子		主査
	向田瑠夏		主任

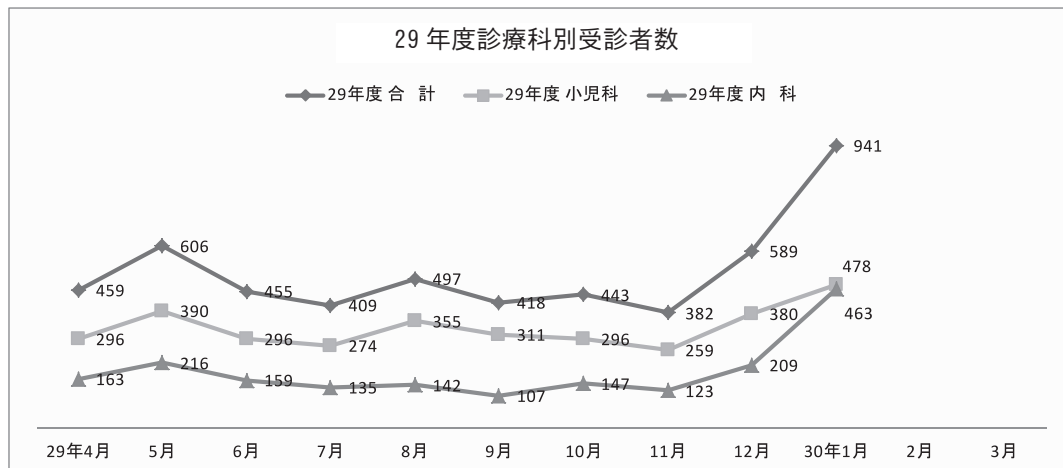
平成 29 年度夜間急患診療所利用状況

診療科別・年齢別の状況

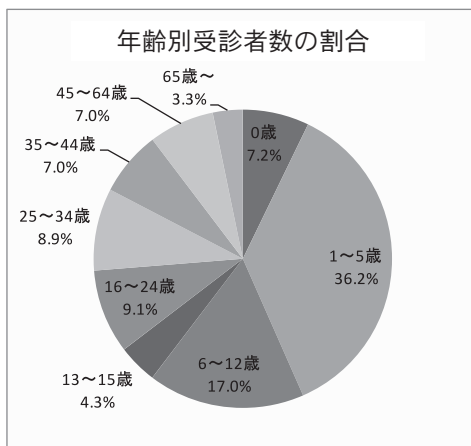
(人)

年/月	29年度			参考：28年度			平成 29 年度 年 齢 別 受 診 者 数											
	前年比	合 計	小児科	内 科	合 計	小児科	内 科	0歳	1～5歳	6～12歳	13～15歳	16～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳～
29年4月	71.6%	459	296	163	641	365	276	42	172	60	25	38	41	32	28	8	8	5
5月	99.5%	606	390	216	609	383	226	45	227	94	32	55	52	40	24	16	7	14
6月	104.1%	455	296	159	437	306	131	37	168	74	17	46	42	28	16	7	13	7
7月	86.7%	409	274	135	472	336	136	35	175	62	9	25	38	26	18	6	7	8
8月	106.0%	497	355	142	469	328	141	39	227	77	15	32	33	25	18	15	8	8
9月	89.3%	418	311	107	468	323	145	43	189	70	10	30	26	22	9	3	9	7
10月	100.2%	443	296	147	442	314	128	40	164	72	20	45	29	33	19	10	6	5
11月	80.1%	382	259	123	477	322	155	25	146	71	18	28	44	16	14	7	7	6
12月	76.4%	589	380	209	771	442	329	32	192	131	26	51	54	42	30	15	7	9
30年1月	148.2%	941	478	463	635	284	351	36	222	171	49	124	105	101	70	35	16	12
4～1月までの計	95.9%	5,199	3,335	1,864	5,421	3,403	2,018	374	1,882	882	221	474	464	365	246	122	88	81
2月	0.0%				495	284	211											
3月	0.0%				518	325	193											
合 計		5,199	3,335	1,864	6,434	4,012	2,422	374	1,882	882	221	474	464	365	246	122	88	81
構成比(%)		100.0	64.1	35.9	100.0	62.4	37.6	7.2	36.2	17.0	4.3	9.1	8.9	7.0	4.7	2.3	1.7	1.6

29 年度診療科別受診者数



年齢別受診者数の割合



平成 30 年度 第 1 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：平成 30 年 8 月 18 日（土） 午後 4 時 15 分
場 所：盛岡市保健所 7 階 大ホール



最初に会長及び副会長の選出があり、会長に高橋清実氏、副会長に金子博純氏が選出された。

1. 医師の欠勤と交代について

内科で 1 件、小児科で 1 件、当番医師の欠勤があり、代わりの医師が緊急的に出動する事例があった。

2. 薬品等の導入及び廃止について

新規に 8 種類の要望薬品について検討した。その結果、ゾフルーザ錠（10mg）、セチリジン塩酸塩 DS1.25%（1 包 0.2g）が採用され、インタール吸入液、クイックチェイサー RSV/ h MPV、ラピッドテストロタ - アデノ II、ラピッドテストノロ、オゼックスは不採用となった。ミダフレッサ静注 0.1% の導入については診療部会で検討してもらうこととなった。また、カシワドール、ピオクタニン、セチリジン塩酸塩 DS1.25%（1 包 0.4g）が廃止となった。

（小林有一）

6. 従事者打合せ会

平成30年度 盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会

日 時：平成30年8月18日（土） 午後4時15分
場 所：盛岡市保健所7階 大ホール

1. 平成30年度夜間急患診療所災害発生時緊急連絡体制について事務局から報告があり、確認した。

2. 平成29年度夜間急患診療所利用状況について報告があった。

平成29年度の総受診者数は6,737名で、前年度の6,434名を上回った。曜日別では週末の土日で約4割を占め、時間別では7-9時で7割を占めた。小児科の「救急度あり」は全体の5.4%で、ここ数年減少傾向である。地域別では、矢巾が少し増加した。各種検査、処置の状況は、インフルエンザ抗原迅速検査と溶連菌抗原迅速検査が増えていた。紹介状

は昨年度より内科が増加し、小児科が減少した。年間最多患者数は88人と前年度より多かった。1人当たりの収入単価12,253円で前年度を下回った。その他、夜間急患診療所への受診患者の受け入れ体制について検討し、原則今まで通りの対応で良いこととなった。受け入れるのが基本なので、当番医師は怒らないように周知することとした。また、「緊急度あり」の目安について、ばらつきの無いよう各医会で再確認することとなった。最後に、事務局から「看護師を募集中のため紹介してほしい」とお願いがあった。（小林有一）

平成29年度夜間急患診療所利用状況

診療科別・年齢別の状況

(人)

年/月	29年度			参考：28年度			平成29年度年齢別受診者数														
	前年比	合 計	小児科	内 科	合 計	小児科	内 科	0歳	1～5歳	6～12歳	13～15歳	16～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳～			
29年4月	71.6%	459	296	163	641	365	276	42	172	60	25	38	41	32	28	8	8	5			
5月	99.5%	606	390	216	609	383	226	45	227	94	32	55	52	40	24	16	7	14			
6月	104.1%	455	296	159	437	306	131	37	168	74	17	46	42	28	16	7	13	7			
7月	86.7%	409	274	135	472	336	136	35	175	62	9	25	38	26	18	6	7	8			
8月	106.0%	497	355	142	469	328	141	39	227	77	15	32	33	25	18	15	8	8			
9月	89.3%	418	311	107	468	323	145	43	189	70	10	30	26	22	9	3	9	7			
10月	100.2%	443	296	147	442	314	128	40	164	72	20	45	29	33	19	10	6	5			
11月	80.1%	382	259	123	477	322	155	25	146	71	18	28	44	16	14	7	7	6			
12月	76.4%	589	380	209	771	442	329	32	192	131	26	51	54	42	30	15	7	9			
30年1月	148.2%	941	478	463	635	284	351	36	222	171	49	124	105	101	70	35	16	12			
2月	176.2%	872	474	398	495	284	211	29	214	181	51	96	93	87	71	23	12	15			
3月	128.6%	666	367	299	518	325	193	40	189	103	35	56	79	74	46	21	8	15			
合 計		6,737	4,176	2,561	6,434	4,012	2,422	443	2,285	1,166	307	626	636	526	363	166	108	111			
構成比(%)		100.0	62.0	38.0	100.0	62.4	37.6	6.6	33.9	17.3	4.6	9.3	9.4	7.8	5.4	2.5	1.6	1.6			

会議資料より抜粋

出席者一覧			
運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	和田 利彦	盛岡市医師会	会長
委員	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	副会長
	金子 博純		副会長
	久保田 公宜		理事
	小林 有一		理事
	臼井 由紀子		小児科医会会長
	吉田 研一		小児科医会幹事
	畑澤 昌美	盛岡薬剤師会	副会長
	佐々木 宣好		副会長
	及川 吏智子	岩手県看護協会	会長
	村上 秀樹	盛岡市	保健福祉部長
	高橋 清実		保健所長
従事者	千葉 真喜子	夜間急患診療所	主任看護師
	長山 秋子		主任看護師
	佐藤 由美子		看護師
	大坪 めぐみ	(株)メディカルサポート	事務員
	植松 美衣		事務員
	高橋 恵美子		事務員
	須川 千穂		事務員
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本 達彦		次長
	谷藤 慎治		係長
	藤井 優子	盛岡市保健所	次長兼企画総務課長
	佐々木 一憲		企画総務課長補佐
	鈴木 佳子		企画総務係長
	向田 瑠夏		主査
	大澤 優也		主事

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(平成 30 年 1 月～12 月)

診療状況

1. 疾病別患者数
2. 来院時間帯別入院患者数
3. 地域別入院患者数
4. 搬入先・搬入方法別入院患者数
5. 主な手術件数

診 療 状 況

1. 疾病別患者数

1) 平成 30 年 1 月～ 12 月

全身疾患	患者数		患者数
感染症	38 (11)	栄養疾患	0 (0)
寄生虫病	0 (0)	代謝疾患	81 (25)
新生物	92 (6)	免疫異常	15 (10)
内分泌疾患	0 (0)		
小計			226 (52)

系統疾患	患者数		患者数
血液・造血器疾患	8 (2)	泌尿器生殖器疾患	106 (27)
精神障害	205 (7)	周産期	0 (0)
神経・感覚器疾患 (てんかんを含む)	384 (67)	皮膚皮下組織	29 (7)
心不全・不整脈など	240 (79)	筋骨格・結合組織	59 (15)
虚血性心疾患など	146 (7)	先天異常	0 (0)
(心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)		妊娠	2 (0)
脳血管障害	300 (132)	症状・徴候	66 (15)
呼吸器疾患	170 (77)	診断不明確	0 (0)
消化器疾患	445 (167)	その他	31 (1)
小 計			2,191 (603)

損傷・中毒	患者数
	小 計
骨折	400 (292)
関節脱臼	19 (5)
捻挫	26 (3)
頭蓋内損傷	167 (132)
内臓損傷	58 (51)
開放創	139 (22)
血管損傷	1 (1)
表在損傷	16 (1)
挫創	12 (4)
圧挫損傷	220 (35)
異物	12 (3)
熱傷	29 (18)
神経損傷	26 (19)
中毒・薬物中毒	119 (50)
毒作用	2 (1)
後遺症	0 (0)
その他・外因作用	46 (10)
外科・内科合併症	0 (0)
小 計	1,292 (647)
合 計	3,709 (1,302)

総患者数 3,709 人 () はセンター入院患者数 1,302 人 CPA (来院時心肺停止状態) 69 人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 平成 30 年 1 月～ 12 月

時間・性別 月	AM0 時～ AM6 時		AM6 時～ AM9 時		AM9 時～ PM5 時		PM5 時～ PM8 時		PM8 時～ PM12 時		小 計		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1 月	6	7	4	9	44	24	13	15	11	5	78	60	138
2 月	4	8	4	1	44	24	9	5	5	4	66	42	108
3 月	6	2	6	3	40	26	14	3	5	10	71	44	115
4 月	6	8	5	1	31	31	7	4	4	6	53	50	103
5 月	3	3	6	2	25	19	7	3	5	4	46	31	77
6 月	5	1	3	6	27	30	14	5	5	9	54	51	105
7 月	3	6	3	6	31	23	10	5	6	9	53	49	102
8 月	2	3	2	1	36	31	11	7	9	9	60	51	111
9 月	5	6	3	0	31	29	15	13	9	3	63	51	114
10 月	8	3	7	4	45	28	13	10	10	4	83	49	132
11 月	11	4	6	8	27	12	7	5	13	3	64	32	96
12 月	5	6	5	4	29	17	13	6	12	4	64	37	101
合 計	64	57	54	45	410	294	133	81	94	70	755	547	1,302

3. 地域別入院患者数

1) 平成 30 年 1 月～ 12 月

地域別	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛岡市		74	50	61	56	41	49	46	48	57	58	50	62	652	54.3	50.1%
滝沢市		7	7	9	9	0	6	11	8	9	8	7	6	87	7.3	6.7%
八幡平市・岩手郡		14	19	11	9	10	14	13	16	16	16	10	10	158	13.2	12.1%
紫波郡		11	6	6	10	6	11	8	12	8	8	10	5	101	8.4	7.8%
花巻市		3	6	3	5	10	3	6	4	3	2	5	3	53	4.4	4.1%
北上市・西和賀町		4	3	1	0	0	2	1	3	3	3	0	1	21	1.8	1.6%
奥州市・胆沢郡		2	1	3	0	1	1	2	0	1	3	2	3	19	1.6	1.5%
一関市・西磐井郡		1	3	1	2	0	2	2	1	1	5	0	2	20	1.7	1.5%
大船渡市・陸前高田市・気仙郡		0	1	2	0	1	2	0	0	3	1	0	2	12	1.0	0.9%
釜石市・遠野市・大槌町		4	0	2	3	3	5	1	1	3	5	1	0	28	2.3	2.2%
宮古市・下閉伊郡		4	2	2	2	1	1	2	1	0	6	3	1	25	2.1	1.9%
久慈市・九戸郡		4	1	0	0	0	1	2	1	0	2	1	1	13	1.1	1.0%
二戸市・二戸郡		1	1	2	0	1	0	2	1	1	3	1	0	13	1.1	1.0%
青森県		1	0	3	1	0	2	1	0	3	2	0	1	14	1.2	1.1%
秋田県		2	2	3	2	0	4	2	1	1	3	3	1	24	2.0	1.8%
宮城県		2	1	1	1	0	0	0	4	0	2	2	2	15	1.3	1.2%
その他の		4	5	5	3	3	2	3	10	5	5	1	1	47	3.9	3.6%
合 計		138	108	115	103	77	105	102	111	114	132	96	101	1,302	108.7	100.0%

4. 搬入先・搬入方法別入院患者数

1) 平成 30 年 1 月～ 12 月

搬入先 区分	初期救急医療施設			2 次救急医療施設			3 次救急医療施設			そ の 他			小 計		計
搬入先 区分	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	
1 月	17	11	28	13	18	31	4	0	4	62	13	75	96	42	138
2 月	23	9	32	16	7	23	2	0	2	42	9	51	83	25	108
3 月	21	2	23	9	10	19	1	0	1	61	11	72	92	23	115
4 月	16	4	20	6	9	15	2	0	2	52	14	66	76	27	103
5 月	8	3	11	6	12	18	2	0	2	40	6	46	56	21	77
6 月	10	5	15	7	8	15	3	0	3	60	12	72	80	25	105
7 月	15	4	19	9	7	16	2	0	2	52	13	65	78	24	102
8 月	18	3	21	9	7	16	0	0	0	66	8	74	93	18	111
9 月	20	7	27	7	14	21	2	1	3	51	12	63	80	34	114
10 月	17	6	23	18	12	30	1	0	1	63	15	78	99	33	132
11 月	7	2	9	7	10	17	1	0	1	61	8	69	76	20	96
12 月	13	2	15	12	9	21	0	0	0	58	7	65	83	18	101
合計	185	58	243	119	123	242	20	1	21	668	128	796	992	310	1,302

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 平成 30 年 1 月～ 12 月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎・脊髄損傷	内視鏡的治療 対象疾患	計
1 月	4	0	6	23	4	15	52
2 月	7	0	3	26	3	12	51
3 月	3	0	4	27	4	13	51
4 月	4	0	4	21	3	9	41
5 月	3	0	7	16	4	11	41
6 月	4	0	3	18	5	14	44
7 月	8	3	4	24	5	7	51
8 月	8	2	0	23	1	4	38
9 月	7	0	5	27	3	5	47
10 月	11	0	3	32	6	10	62
11 月	4	0	1	28	4	8	45
12 月	3	0	4	20	6	23	56
合 計	66	5	44	285	48	131	579

Ⅲ お盆及び年末年始の救急医療

1. 平成 30 年度お盆休み期間中の外来患者数 実態調査報告

平成30年のお盆期間中（8月13日(月)～16日(木)）に受診した外来患者数の調査結果を報告いたします。

アンケート回収率（表 1）

対象医療機関は28病院、218診療所、計246機関で、回収率は100％でした。

表 1. アンケート回収率（盛岡市）

	医療機関数	回収数	回収率
病 院	28	28	100%
診療所	218	218	100%
合 計	246	246	100%

診療科別診療所及び病院数（表 2）

表 2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内 科	94	218
	外 科	42	
	産 婦 人 科	13	
	小 児 科	13	
	眼 科	20	
	皮膚・泌尿器科	20	
	耳 鼻 咽 喉 科	15	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	12	28
	その 他 の 病 院	16	

表 3. お盆中休診状況（245医療機関）

	8月13日 (月)	8月14日 (火)	8月15日 (水)	8月16日 (木)
全日休診	201	219	224	216
半日休診	9	1	3	3
診 療	35	25	18	26
当 番 医	0	0	0	0

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

病院及び診療所の来院患者数（表 4）

4 日間の患者総数は13,850名でした。病院受診12,528名、診療所受診は1,322名の内訳でした。

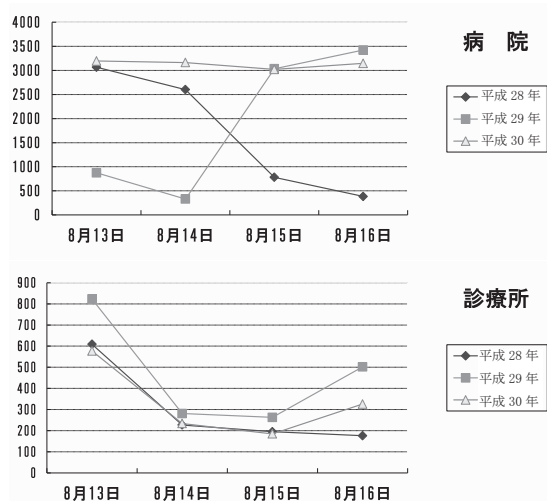
表 4. 病院及び診療所（平成30年 8月13日～ 8月16日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時間 機関	AM0時 ～ AM6時	AM6時 ～ AM9時	AM9時 ～ PM5時	PM5時 ～ PM8時	PM8時 ～ PM12時	合計
8月13日	月	病 院	18	180	2,878	72	48	3,196
		診療所	0	5	524	30	18	577
		合 計	18	185	3,402	102	66	3,773
8月14日	火	病 院	31	141	2,864	72	56	3,164
		診療所	0	5	183	24	22	234
		合 計	31	146	3,047	96	78	3,398
8月15日	水	病 院	28	115	2,771	64	43	3,021
		診療所	0	7	152	17	9	185
		合 計	28	122	2,923	81	52	3,206
8月16日	木	病 院	24	119	2,918	49	37	3,147
		診療所	1	1	277	34	13	326
		合 計	25	120	3,195	83	50	3,473
総 計		病 院	101	555	11,431	257	184	12,528
		診療所	1	18	1,136	105	62	1,322
		総 計	102	573	12,567	362	246	13,850

お盆中外来患者実態調査（図 1）

過去 3 年間の患者数を折れ線グラフで示しました。病院は 4 日間とも 3,000 人を超えました。

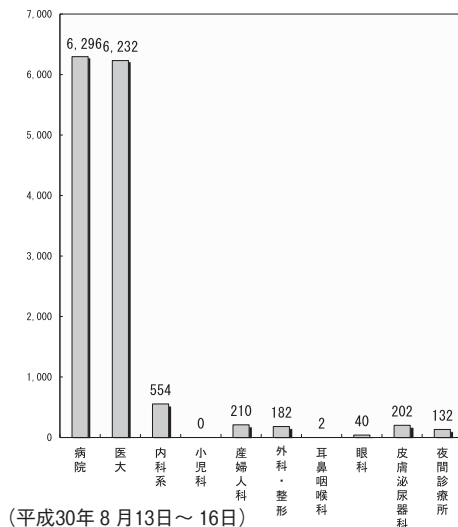
図 1. お盆中外来患者実態調査（3 年間）



各科別の外来患者状況（図 2）

病院受診者6,296名、岩手医大受診者6,232名でした。診療所受診者の内訳は、内科系554名、外科182名などでした。期間中の夜間急患診療所の受診者数は132名でした。

図 2. 各科別の外来患者状況



病院及び診療所来院患者比率

(図3、図4、図5、図6、図7、図8)

13日～16日の時間帯別の患者総数を岩手医大、二次救急病院、その他の病院、診療所、

夜間急患診療所に分け、図3～8の円グラフに示しました。今年度も同様に、多くの受診者を岩手医大の二次救急病院で診ていただきました。

図3. 病院および診療所来院患者比率

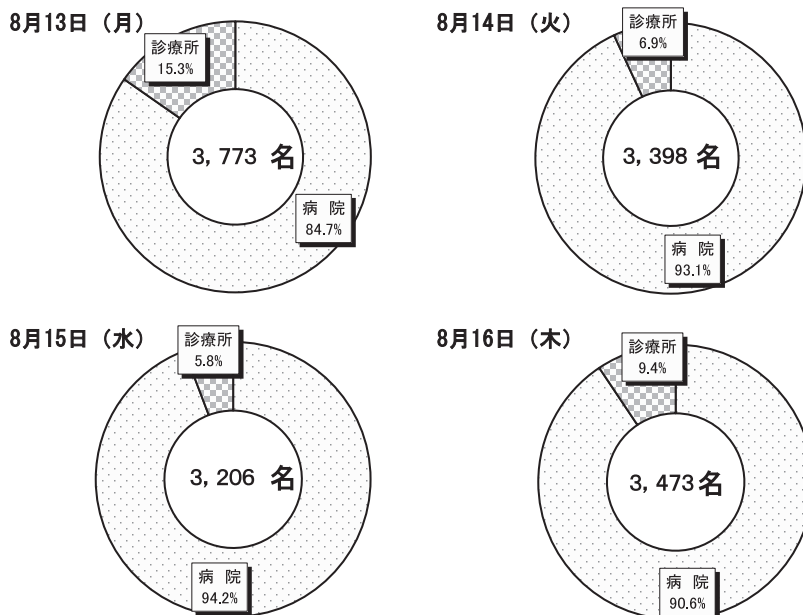


図4. 深夜 (AM0:00～AM6:00) の来院患者比率

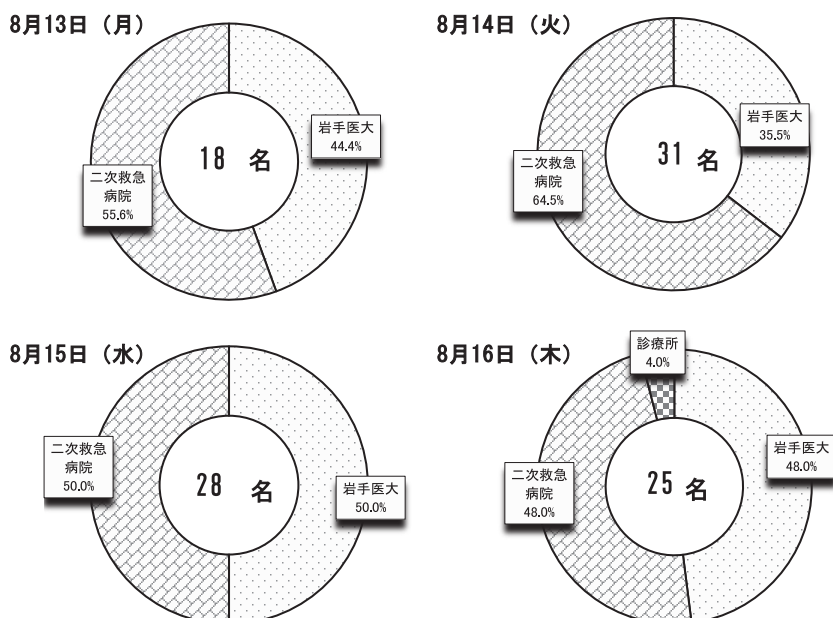


図 5. 時間外 A (AM6:00～AM9:00)の来院患者比率

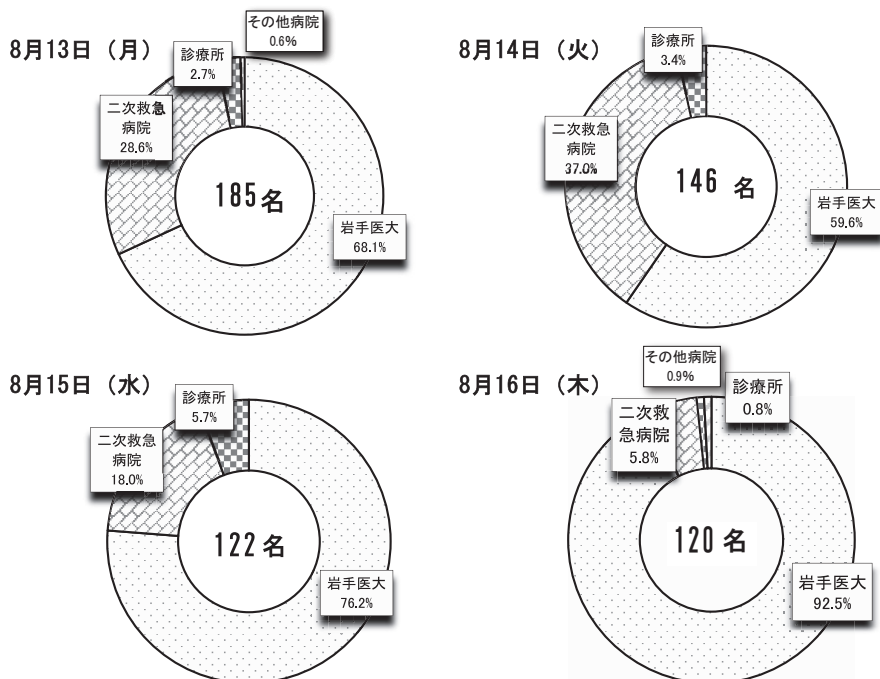


図 6. 日中 (AM9:00～PM5:00) の来院患者比率

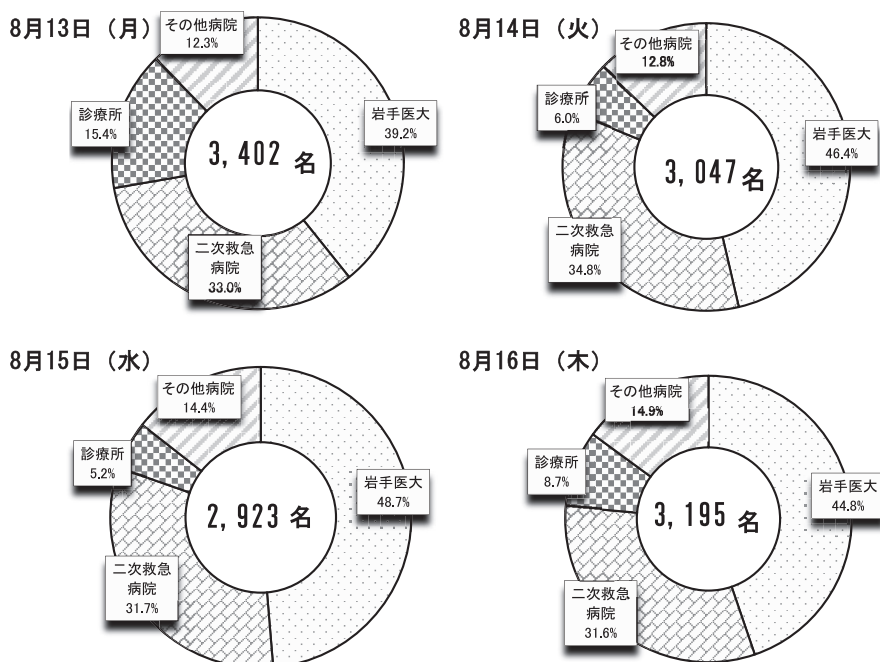


図 7. 時間外 B (PM5:00～PM8:00) の来院患者比率

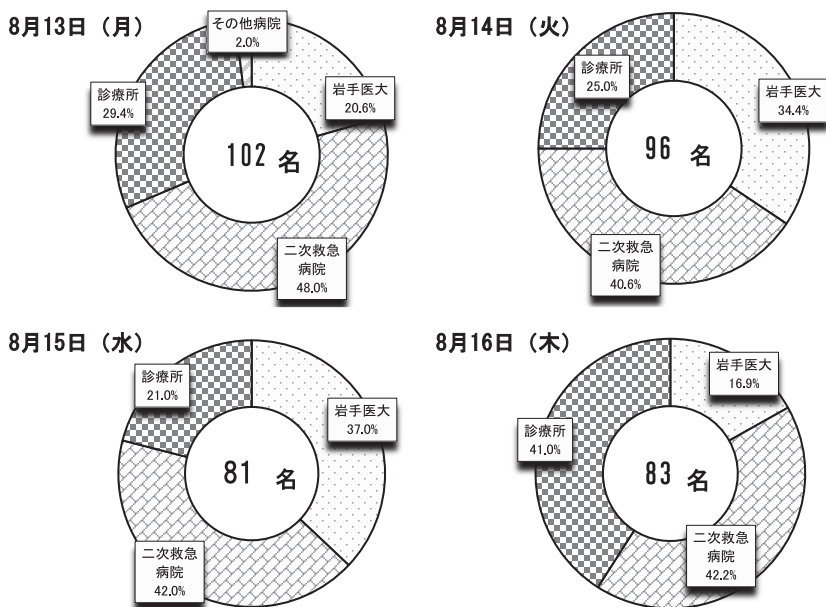
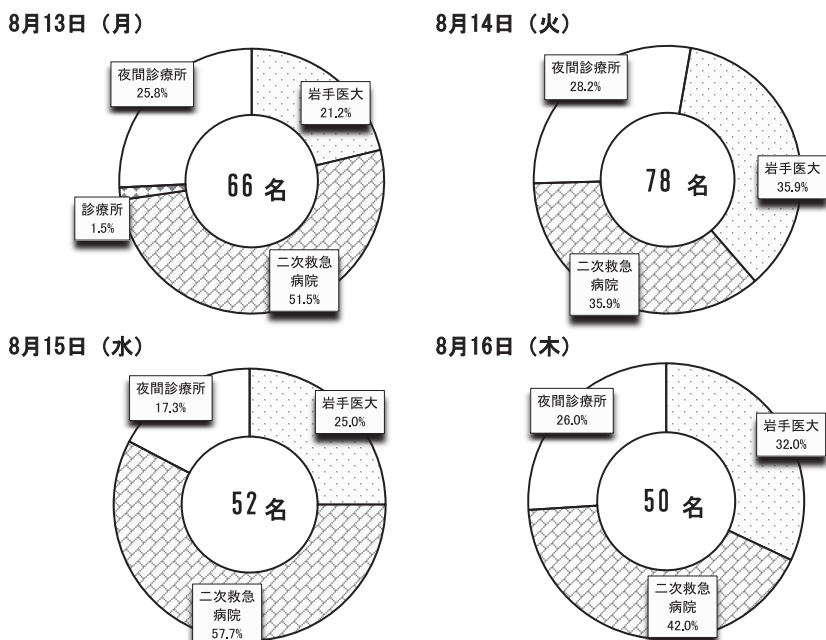


図 8. 夜間診療時間 (PM8:00～PM12:00) の来院患者比率



※夜間急患診療所のみ現行時間 (PM7:00～PM11:30) とする。

以上、平成30年度のお盆期間中の外来患者数実態調査を報告いたします。本アンケートの調査に当たりましては、お忙しい中、各医

療機関の皆様にご協力いただきました。誌上をもちまして、感謝申し上げます。

(鈴木知己)

2. 平成 30 年度年末年始外来患者実態調査報告

— 245 医療機関アンケート集計結果 —

平成30年12月29日～平成31年1月3日までの外来患者アンケート調査について報告します。アンケートは病院28施設、診療所217施設の合計245施設に依頼し100%の回収率でした（表1）。

表1. アンケート回収率（盛岡市）

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	217	217	100%
合計	245	245	100%

診療科別診療所及び病院数の内訳を示します。医療機関総数は245施設でした。内訳は診療所217、病院は28でした（表2）。年末年始の診療状況については表3の通りです。

病院及び診療所の来院患者数を時間帯別に示しました。来院患者数は6日間で病院2,317名、診療所4,037名で6,354名でとなり、前年

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	93	217
	外科	43	
	産婦人科	13	
	小児科	13	
	眼科	20	
	皮膚/泌尿器科	19	
	耳鼻咽喉科	15	
病院	夜間診療所	1	28
	二次救急病院	12	
	その他の病院	16	

との比較で3,693名の減少となりました。これは過去4年館で最も少ない数字でした。減少の理由としては、インフルエンザの流行が本格化する前であったこと、また12月29日、30日は土日だったこともあり、28日(金)までに受診を済ませる人が多かったのではないかと推察されます（表4）。

表3. 年末年始休診状況（244 医療機関）

	12月29日 (土)	12月30日 (日)	12月31日 (月)	1月1日 (火)	1月2日 (水)	1月3日 (木)
全日診療	5	2	1	1	1	2
午前診療	45	1	0	0	0	0
休診	182	208	209	208	208	207
当番医	4	4	4	4	4	4

※盛岡市夜間急患診療所は除く

表 4. 病院及び診療所（平成30年12月29日～平成31年1月3日）の来院患者数（時間帯別）

月 日	曜日	時刻 機関	0 AM }	6 AM }	9 AM }	5 PM }	8 PM }	合 計
		6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM		
12月29日	土	病 院	16	26	493	43	33	611
		診療所	0	75	1,443	34	15	1,567
		合 計	16	101	1,936	77	48	2,178
12月30日	日	病 院	17	20	175	49	35	296
		診療所	3	2	480	21	23	529
		合 計	20	22	655	70	58	825
12月31日	月	病 院	23	35	273	36	45	412
		診療所	1	8	524	23	12	568
		合 計	24	43	797	59	57	980
1 月 1 日	火	病 院	26	28	207	55	44	360
		診療所	0	16	233	26	27	302
		合 計	26	44	440	81	71	662
1 月 2 日	水	病 院	19	18	236	43	43	359
		診療所	0	9	427	36	11	483
		合 計	19	27	663	79	54	842
1 月 3 日	木	病 院	15	20	183	44	17	279
		診療所	1	41	511	17	18	588
		合 計	16	61	694	61	35	867
総 計		病 院	116	147	1,567	270	217	2,317
		診療所	5	151	3,618	157	106	4,037
		総 計	121	298	5,185	427	323	6,354

(名)

過去5年間における年末年始の患者総数の
比較です（表5）。

夜間急患診療所の来院患者数は6日間で総
数216名でした（表6）。

表 5. 過去5年間における年末年始来院患者総数の比較

年度 月日	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
12月29日	9,632 (月)	6,395 (火)	6,344 (水)	5,119 (金)	2,178 (土)
12月30日	1,807 (火)	1,393 (水)	1,472 (金)	1,260 (土)	825 (日)
12月31日	1,415 (水)	850 (木)	992 (土)	821 (日)	980 (月)
1月1日	1,230 (木)	706 (金)	678 (日)	822 (月)	662 (火)
1月2日	1,413 (金)	687 (土)	1,091 (月)	1,059 (火)	842 (水)
1月3日	1,274 (土)	639 (日)	833 (火)	966 (水)	867 (木)
計	16,771	10,670	11,410	10,047	6,354

(人)

表 6. 夜間急患診療所来院患者数

月日 時間帯	12月29日(土)	12月30日(日)	12月31日(月)	1月1日(火)	1月2日(水)	1月3日(木)	計
7:00 P.M. ～ 8:00 P.M.	18	15	21	21	26	10	111
8:00 P.M. ～ 11:30 P.M.	15	23	12	27	11	17	105
計	33	38	33	48	37	27	216

(人)

夜間帯の診療時間の来院患者数は323名で、岩手医大が91名、二次救急病院（医大除く）が125人でした（表7）。

二次救急病院の全時間帯における来院総数は1,903名で、前年比1,547名減となりました

（表8）。

二次救急病院の来院患者数1,903名のうち、最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時の間でした（表9）。

表7. 夜間診療時間（8：00P.M.～12：00P.M.）の来院患者数

（ ）内%

	12月29日(土)	12月30日(日)	12月31日(月)	1月1日(火)	1月2日(水)	1月3日(木)	計
二次救急病院 (医大を除く)	20 (41.7)	14 (24.1)	31 (54.4)	26 (36.6)	25 (46.3)	9 (25.7)	125 (38.7)
岩 手 医 大	13 (27.1)	20 (34.5)	14 (24.6)	18 (25.4)	18 (33.3)	8 (22.9)	91 (28.2)
その他の病院	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)
診 療 所	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (0.3)
夜間急患診療所 (8:00～11:30)	15 (31.3)	23 (39.7)	12 (21.1)	27 (38.0)	11 (20.4)	17 (48.6)	105 (32.5)
計	48 (100)	58 (100)	57 (100)	71 (100)	54 (100)	35 (100)	323 (100)

(名)

表8. 二次救急病院各病院別来院患者数

（ ）内%

	12月29日(土)	12月30日(日)	12月31日(月)	1月1日(火)	1月2日(水)	1月3日(木)	合計
岩手医科大学	101 (31.4)	137 (52.7)	148 (43.3)	134 (47.5)	128 (44.3)	106 (41.7)	754 (43.1)
岩手県立中央病院	78 (24.2)	72 (27.7)	113 (33.0)	90 (31.9)	77 (26.6)	69 (27.2)	499 (28.5)
盛岡赤十字病院	46 (14.3)	26 (10.0)	45 (13.2)	42 (14.9)	57 (19.7)	30 (11.8)	246 (14.1)
盛岡市立病院	7 (2.2)	6 (2.3)	5 (1.5)	3 (1.1)	9 (3.1)	4 (1.6)	34 (1.9)
遠 山 病 院	7 (2.2)	3 (1.2)	6 (1.8)	3 (1.1)	8 (2.8)	3 (1.2)	30 (1.7)
高 松 病 院	3 (0.9)	0 (0.0)	2 (0.6)	3 (1.1)	0 (0.0)	1 (0.4)	9 (0.5)
栃 内 病 院	76 (23.6)	4 (1.5)	5 (1.5)	3 (1.1)	6 (2.1)	3 (1.2)	97 (5.5)
盛岡つなぎ温泉病院	3 (0.9)	3 (1.2)	2 (0.6)	1 (0.4)	2 (0.7)	3 (1.2)	14 (0.8)
盛岡友愛病院	1 (2.0)	7 (1.0)	8 (4.0)	2 (2.0)	2 (1.0)	6 (2.4)	26 (1.5)
川 久 保 病 院	0 (0.0)	9 (0.0)	15 (3.0)	30 (0.0)	17 (0.0)	9 (3.5)	80 (4.2)
国立病院機構盛岡病院	7 (1.0)	4 (1.0)	9 (0.0)	6 (1.0)	5 (1.0)	4 (1.6)	35 (1.8)
八 角 病 院	14 (4.1)	11 (3.9)	15 (4.0)	8 (2.5)	15 (4.6)	16 (6.3)	79 (4.2)
合 計	343 (101)	282 (95)	373 (98)	325 (91)	326 (95)	254 (100)	1,903 (100)

(名)

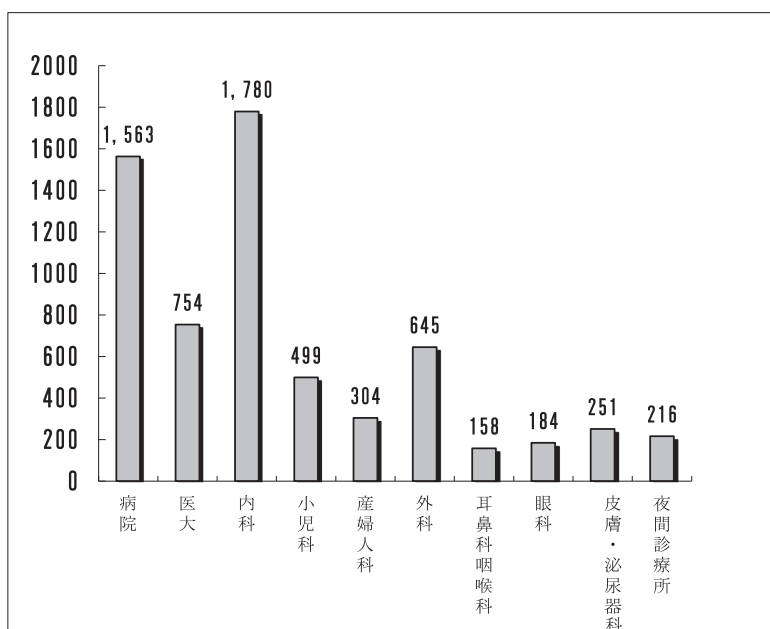
表9. 二次救急病院長来院患者数

時間 月日	AM 0 ～ AM 6	AM 6 ～ AM 9	AM 9 ～ PM 5	PM 5 ～ PM 8	PM 8 ～ PM 12	合 計
12月29日(土)	16	24	227	43	33	343
12月30日(日)	17	20	164	47	34	282
12月31日(月)	23	33	236	36	45	373
1月1日(火)	26	27	175	53	44	325
1月2日(水)	19	18	204	42	43	326
1月3日(木)	15	20	158	44	17	254
合 計	116	142	1,164	265	216	1,903

表10. 岩手県高度救命救急センター来院患者数（3次）

時間 月日	AM 0 ～ AM 6	AM 6 ～ AM 9	AM 9 ～ PM 5	PM 5 ～ PM 8	PM 8 ～ PM 12	合 計
12月29日(土)	2	1	4	2	1	10
12月30日(日)	0	1	3	0	0	4
12月31日(月)	0	0	3	0	0	3
1月1日(火)	0	1	5	1	0	7
1月2日(水)	1	1	0	1	1	4
1月3日(木)	0	0	0	0	0	0
合 計	3	4	15	4	2	28

図1. 病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数

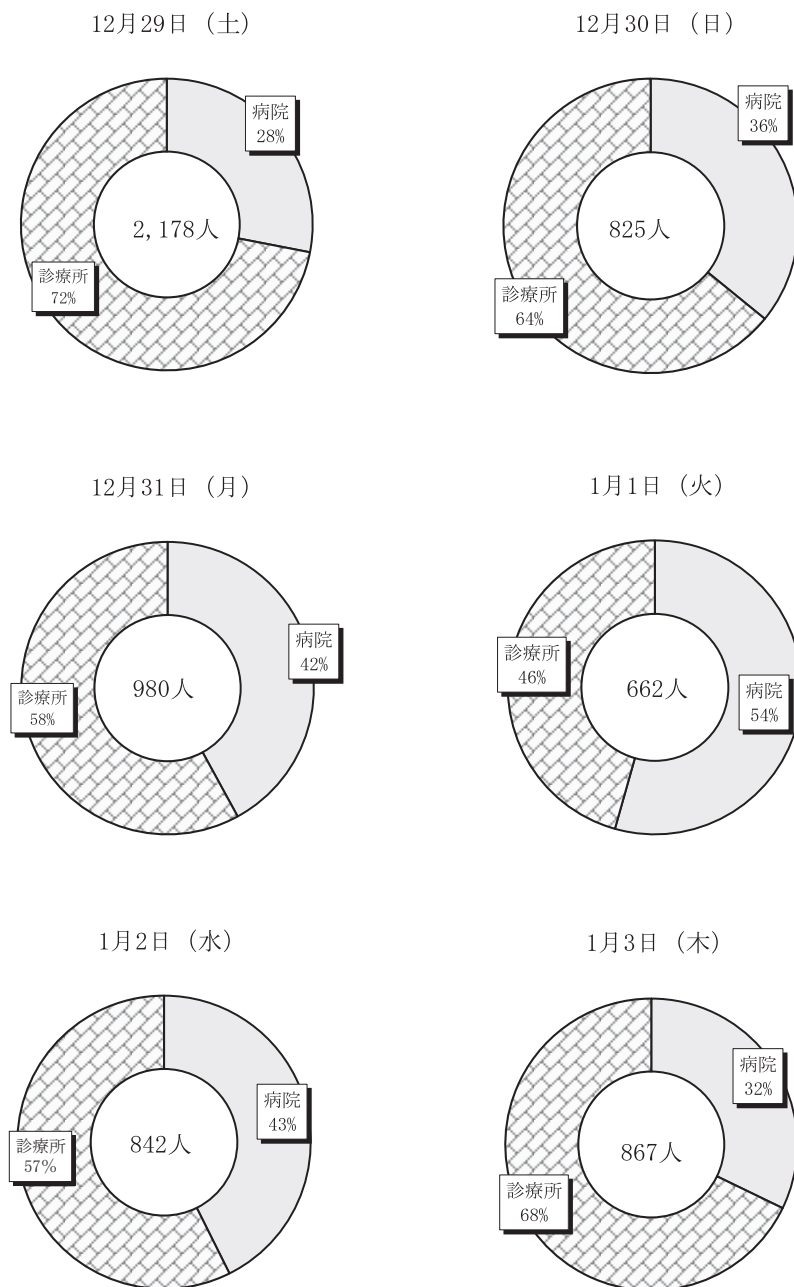


岩手県高度救命救急センターの来院患者数（3次）は28名でした。最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時でした（表10）。

病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数を棒グラフに表すと、内科が最も多い1,780名、続いてその他病院が1,563名でした。医大が前年2,036名でしたが今年は754名と減少しました（図1）。

病院及び診療所の来院患者比率は、例年と同じく診療所がやや上回る結果となりました（図2）。

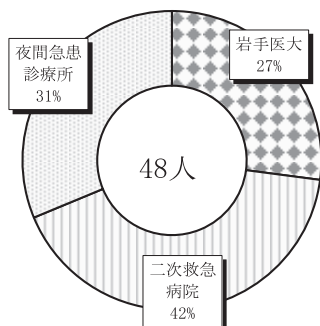
図2. 病院および診療所来院患者比率



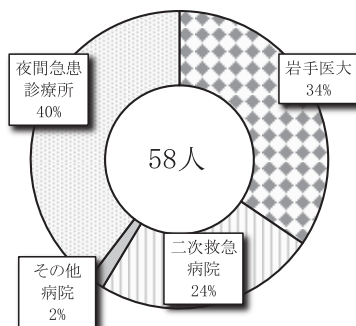
夜間診療時間帯（午後8時～午前0時）の来院比率をみると、29日と30日、3日を除いて岩手医大と二次救急病院で7割以上の患者を診ていただきました（図3）。

図3. 夜間診療時間（8：00 P.M.～12：00 P.M.）の来院患者数

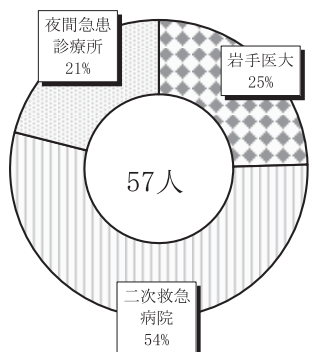
12月29日（土）



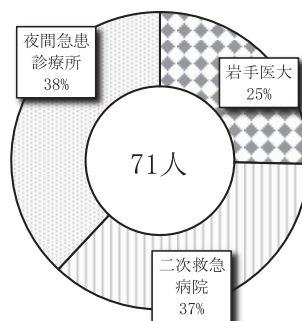
12月30日（日）



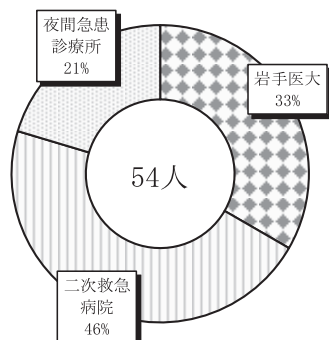
12月31日（月）



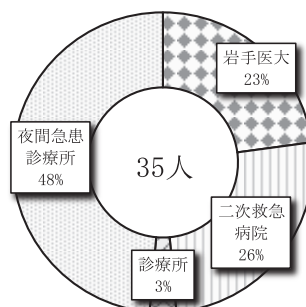
1月1日（火）



1月2日（水）

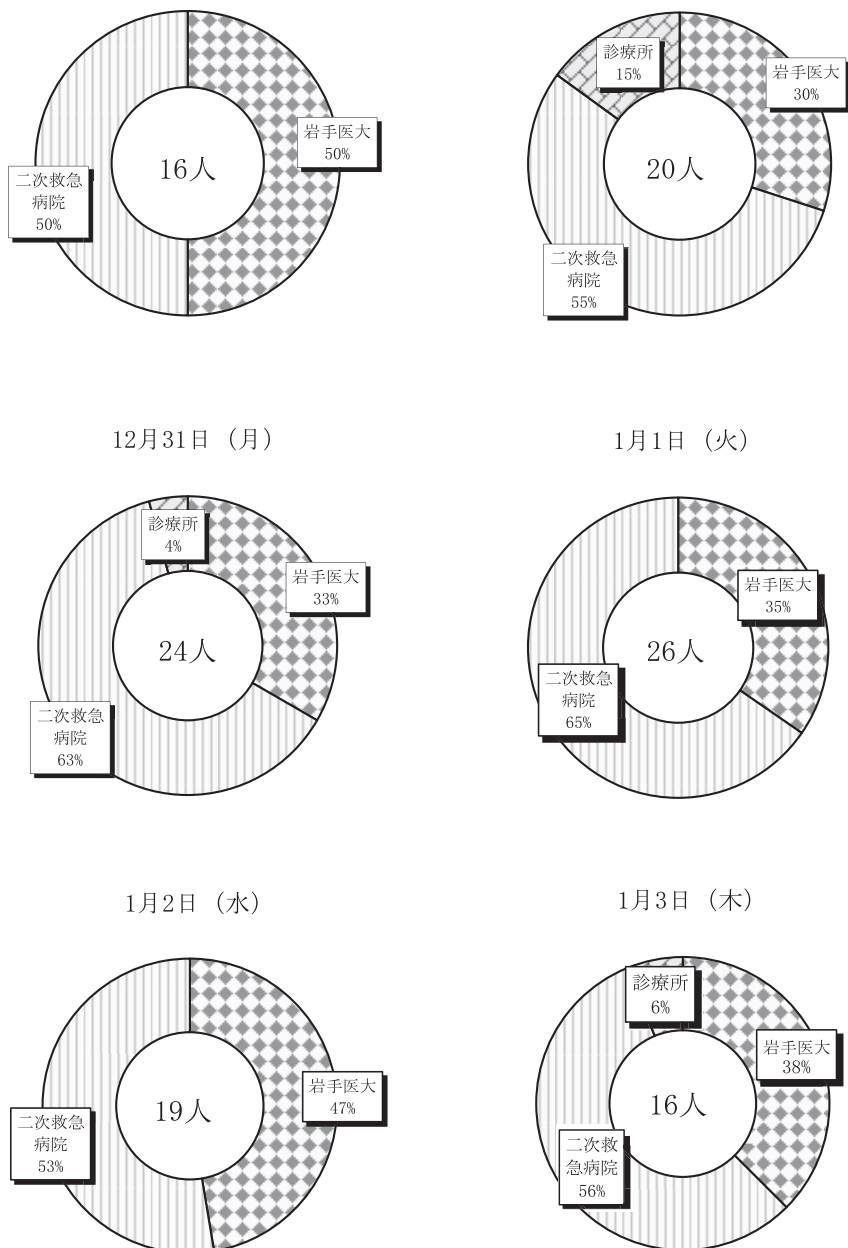


1月3日（木）



深夜（午前0時～午前6時）の来院比率をみると、6日間すべて、岩手医大と二次救急病院、その他病院で9割の患者を診て頂きました（図4）。

図4. 深夜（0：00 A.M.～6：00 A.M.）の来院比率



以上が平成30年度年末年始の外来患者実態調査の結果となります。毎年、岩手医大をはじめ二次救急病院の先生方には大変お世話になり、感謝申し上げます。今年は結果からも分

かる通り、比較的穏やかな年末年始となったようです。本アンケートはお陰様で毎回100%の回収率となっております。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。（鈴木知己）

Ⅳ 盛岡地区二次救急医療体制 39 年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

平成 30 年の二次救急医療体制について、表 1 から表 3 に示すような各病院の割当回数と日程により行われた。また、その報告については、二次救急は表 4 のように、小児救急については表 5 のように報告されている。表 6 には各病院毎の月別と総数を示す。平成 30 年は総数 50,937 であった。図 2 に来院患者総数月別分布を示す。2018 年は例年とほぼ同じ傾向であったが 11 月の患者数が少なかった。表 7、8 は来院患者の実態を年、月平均で示したものである。総数 50,937 人中救急車搬入数は 8,731 人でその 61.3% が県立中央病院へ搬送されている。総受診者数では岩手医大 18,995 人、県立中央病院 17,764 人、盛岡赤十字病院 6,054 人と、この 3 病院で 8 割以上の患者を診ている。表 9、10、図 4、5 には時間帯別救急車受け入れ状況を示すが、いずれの時間帯も県立中央病院が 60% 以上の患者を受け入れていた。また内科系が 45%、外科系が 40%、その他が 14% であった。表 11 に系別分類を示すが、県立中央病院は外科、内科ほぼ半々なのに対し、日赤、市立病院は外科系が多いなどその病院の医師の分布に関係があると思われた。以下病院別、系別、時間帯別分類を示す。

表 22 に平成 29 年との比較データを示す。外来、入院総数はほぼ変わらないが、救急車搬入 8,731 人と前年に比して 500 人増えた。病院別比では県立中央病院が 34.9% とやや増加した。

表1

二 次 救 急 病 院 当 番 表

平成30年 6月		1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	29 金	30 土										
二	県立中央病院	日直	※内外 脳循	内外 脳循						※内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	※内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	※内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	※内外 脳循										
		宿直	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循	内外 脳循										
次	盛岡市立病院	日直		※外	外					※外	内						※外	外						※内	外						※内										
		宿直	外	内	内	外	外	内	内	外	外	内	外	外	外	内	外	外	内	外	外	外	内	外	内	内	外	外	内	外	外										
救	盛岡赤十字病院	日直	※循 脳産	※外 産						※呼 整産	消泌 産						※循 脳産	総内 整産						※消 外産	内 外産		内	外				※循 脳産									
		宿直	循外 産	耳産	泌産	外産	総内 産	整産	循外 産	整産	耳産	循整 産	外産	外産	整産	外産	脳産	消外 産	整産	外産	呼泌 産	耳産	循産	外産	泌産	整産	循外 産	呼産	耳産	消外 産	泌産	外産									
院	若手医大病院	日直			内外 小歯					※内外 小歯	内外 小歯						※内外 小歯	内外 小歯							内外 小歯	内外 小歯						※内外 小歯									
		宿直	産婦人科・精神神経科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科はオンコールにて対応	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯	内外 小歯									
急	遠山病院	日直			内						内							内							内																
		宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	外	内	内	内	内	内	内									
病	市立内務院	日直			内						形成							形成							形成																
		宿直	整	内	内	整	脳	整	脳	内	整	形成	整	脳	整	脳	内	形成	形成	整	脳	整	脳	整	整	形成	整	脳	整	脳	整	形成									
院	高松病院	日直			整外						整外							整外							整外																
		宿直	整外	内	整外	内	整外	内	内	整外	内	整外	内	内	内	内	整外	内	整外	内	内	内	内	整外	内	整外	内	整外	内	内	整外	内									
病	重盛集つな病院	日直			内						内							内							内																
		宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	整	内	内	内	内	内	内	整	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内									
院	盛岡友愛病院	日直			外						内							内泌							外																
		宿直	泌	婦	外	外	内	整	整	内	内	内	神	内	整	整	外	外	泌	内	内	外	整	婦	内	外	外	内	整	整	神	神									
院	川久保病院	日直			外						内							外							内																
		宿直	内	内	内	眼	小	内	内	内	内	内	眼	小	内	内	内	内	内	眼	小	内	内	内	内	内	内	内	内	眼	内	小									
病	国立病院機構	日直	※整	整						※内	整							※整	内						※内	整						※整									
		宿直	整	整	内	内	内	整	内	内	整	整	内	内	内	内	整	整	内	整	内	内	内	整	内	整	整	内	内	整	整										
院	八角病院	日直			内						内							外							内																
		宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	外	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内									
受入終入院院		A	日	医	中	中	医	中	日	医	中	日	医	中	医	中	日	医	中	日	医	中	中	医	中	中	医	中	日	医	中	日	医	中							
		B	赤	大	央	央	大	央	赤	大	央	赤	大	央	大	央	赤	大	央	赤	大	央	央	大	央	赤	大	央	央	赤	大	央	央	赤	大	央					
			内	立	角	松	愛	な	山	立	内	立	角	松	愛	な	久	保	立	内	立	角	松	愛	な	久	保	立	内	立	角	松	愛	な	久	保	立	内	立	角	松

- 【注意事項】 1. 各病院の当直医(診療科)が変更されることがありますので、事前に電話で確認することをおすすめします。
- ※消防署(救急隊)は患者の状況により、直近または最も適していると考えられる二次救急病院を選定して連絡を入れますので、救急隊から受入を要請された場合は可能な限り受入をお願いします。
2. 最終入院受入病院とは、急患について他の病院が受け入れられない場合、最終調整及び責任をもつ病院です。
3. 小児の入院が必要と思われる場合は、小児救急入院受入病院当番表をご参照下さい。
4. ※印は、休日体制になっていますので、ご留意下さい。

表2 平成30年度(2018年4月～2019年3月)二次救急輪番病院年間回数

区 分 病 院	年 末 年 始	祝祭日	日曜日	土曜日	平 日	年 間 回 数	総回数
盛岡市立病院	0	1	6	6	27	40	47
八角病院	0	1	5	7	27	40	46
高松病院	1	1	7	5	26	40	49
盛岡つなぎ温泉病院	1	3	6	5	26	41	51
県立中央病院	2	8	20	18	94	142	172
岩手医大附属病院	2	4	20	19	97	142	168
盛岡赤十字病院	2	3	12	11	53	81	98
遠山病院	0	1	6	4	30	41	48
栃内病院	1	2	5	4	28	40	48
盛岡友愛病院	1	3	6	6	26	42	52
川久保病院	1	1	6	6	27	41	49
国立盛岡病院	1	2	5	5	27	40	48
計	12	30	104	96	488	730	876

平成30年度(2018年4月～2019年3月)小児救急各病院当番コマ数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中 央	14	15	14	15	15	15	15	14	16	15	14	16	178
日 赤	3	3	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	36
医 大	16	16	15	16	14	16	15	15	16	16	13	17	185
こども	4	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	3	50
川久保	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	37
合 計	40	41	39	41	39	42	40	39	43	43	37	42	486

表 3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表
(平成 30 年 4 月～6 月)

4 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 日	中 央 友 愛	医 大	医 大	
2 月	医 大 つ な ぎ	中 央		
3 火	医 大 遠 山	川 久 保		
4 水	中 央 川 久 保	医 大		
5 木	日 赤 栃 内	中 央		
6 金	医 大 国 立	医 大		
7 土	中 央 八 角	中 央	こども	
8 日	日 赤 高 松	医 大	医 大	
9 月	医 大 友 愛	中 央		
10 火	中 央 つ な ぎ	川 久 保		
11 水	中 央 川 久 保	日 赤		
12 木	医 大 遠 山	医 大		
13 金	中 央 市 立	中 央		
14 土	日 赤 国 立	中 央	こども	
15 日	医 大 八 角	日 赤	日 赤	
16 月	中 央 高 松	医 大		
17 火	日 赤 友 愛	川 久 保		
18 水	医 大 つ な ぎ	医 大		
19 木	中 央 川 久 保	中 央		
20 金	医 大 遠 山	医 大		
21 土	医 大 市 立	医 大	こども	
22 日	中 央 栃 内	中 央	中 央	
23 月	日 赤 八 角	医 大		
24 火	医 大 高 松	中 央		
25 水	中 央 友 愛	医 大		
26 木	日 赤 つ な ぎ	中 央		
27 金	医 大 川 久 保	医 大		
28 土	中 央 遠 山	中 央	こども	
29 日	中 央 市 立	医 大	医 大	
30 月	医 大 栃 内	中 央	中 央	

医 大 16
中 央 14
日 赤 3
こども 4
川 久 保 3
合 計 40

5 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 火	中 央 国 立	川 久 保		
2 水	日 赤 高 松	医 大		
3 木	医 大 友 愛	中 央	中 央	
4 金	中 央 つ な ぎ	日 赤	日 赤	
5 土	日 赤 川 久 保	医 大	こども	
6 日	医 大 遠 山	中 央	中 央	
7 月	中 央 市 立	医 大		
8 火	医 大 栃 内	川 久 保		
9 水	医 大 国 立	中 央		
10 木	中 央 八 角	医 大		
11 金	日 赤 友 愛	中 央		
12 土	医 大 つ な ぎ	医 大	こども	
13 日	中 央 川 久 保	中 央	中 央	
14 月	日 赤 遠 山	医 大		
15 火	医 大 市 立	川 久 保		
16 水	中 央 栃 内	中 央		
17 木	中 央 国 立	医 大		
18 金	医 大 八 角	中 央		
19 土	中 央 高 松	医 大	こども	
20 日	日 赤 つ な ぎ	医 大	医 大	
21 月	医 大 川 久 保	中 央		
22 火	中 央 遠 山	医 大		
23 水	日 赤 市 立	中 央		
24 木	医 大 栃 内	医 大		
25 金	中 央 国 立	日 赤		
26 土	医 大 八 角	医 大	こども	
27 日	医 大 高 松	中 央	中 央	
28 月	中 央 友 愛	医 大		
29 火	日 赤 川 久 保	中 央		
30 水	医 大 遠 山	医 大		
31 木	中 央 市 立	医 大		

医 大 16
中 央 15
日 赤 3
こども 4
川 久 保 3
合 計 41

6 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 金	日 赤 栃 内	中 央		
2 土	医 大 国 立	医 大	こども	
3 日	中 央 八 角	医 大	医 大	
4 月	中 央 高 松	中 央		
5 火	医 大 友 愛	川 久 保		
6 水	中 央 つ な ぎ	医 大		
7 木	日 赤 遠 山	中 央		
8 金	医 大 市 立	医 大		
9 土	中 央 栃 内	中 央	こども	
10 日	日 赤 国 立	医 大	医 大	
11 月	医 大 八 角	医 大		
12 火	中 央 高 松	川 久 保		
13 水	医 大 友 愛	日 赤		
14 木	医 大 つ な ぎ	医 大		
15 金	中 央 川 久 保	中 央		
16 土	日 赤 市 立	医 大	こども	
17 日	医 大 栃 内	中 央	中 央	
18 月	中 央 国 立	中 央		
19 火	日 赤 八 角	川 久 保		
20 水	医 大 高 松	医 大		
21 木	中 央 友 愛	中 央		
22 金	中 央 つ な ぎ	医 大		
23 土	医 大 川 久 保	日 赤	こども	
24 日	中 央 遠 山	中 央	中 央	
25 月	日 赤 栃 内	医 大		
26 火	医 大 国 立	中 央		
27 水	中 央 八 角	医 大		
28 木	日 赤 高 松	中 央		
29 金	医 大 友 愛	医 大		
30 土	中 央 つ な ぎ	中 央	こども	

医 大 15
中 央 14
日 赤 2
こども 5
川 久 保 3
合 計 39

(平成 30 年 7 月～9 月)

7 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 日	医 大	川 久 保	医 大	医 大
2 月	医 大	遠 山	中 央	
3 火	中 央	市 立	川 久 保	
4 水	日 赤	国 立	医 大	
5 木	医 大	八 角	中 央	
6 金	中 央	高 松	医 大	
7 土	日 赤	友 愛	中 央	こども
8 日	医 大	つ な ぎ	日 赤	日 赤
9 月	中 央	川 久 保	医 大	
10 火	中 央	遠 山	川 久 保	
11 水	医 大	市 立	医 大	
12 木	中 央	栃 内	医 大	
13 金	日 赤	八 角	中 央	
14 土	医 大	高 松	中 央	こども
15 日	中 央	友 愛	医 大	医 大
16 月	日 赤	つ な ぎ	中 央	中 央
17 火	医 大	遠 山	川 久 保	
18 水	中 央	川 久 保	日 赤	
19 木	医 大	市 立	中 央	
20 金	医 大	栃 内	医 大	
21 土	中 央	国 立	中 央	こども
22 日	日 赤	高 松	医 大	医 大
23 月	医 大	友 愛	中 央	
24 火	中 央	つ な ぎ	医 大	
25 水	日 赤	川 久 保	中 央	
26 木	医 大	遠 山	医 大	
27 金	中 央	市 立	中 央	
28 土	中 央	栃 内	医 大	こども
29 日	医 大	国 立	中 央	中 央
30 月	中 央	八 角	医 大	
31 火	日 赤	友 愛	中 央	

医 大 16
中 央 15
日 赤 3
こども 4
川久保 3
合 計 41

8 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 水	医 大	つ な ぎ	医 大	
2 木	中 央	川 久 保	中 央	
3 金	日 赤	遠 山	医 大	
4 土	医 大	市 立	中 央	こども
5 日	中 央	栃 内	医 大	医 大
6 月	医 大	国 立	中 央	
7 火	医 大	八 角	川 久 保	
8 水	中 央	高 松	医 大	
9 木	日 赤	つ な ぎ	中 央	
10 金	医 大	川 久 保	医 大	
11 土	中 央	遠 山	日 赤	こども
12 日	日 赤	市 立	医 大	医 大
13 月	医 大	栃 内	中 央	
14 火	中 央	国 立	川 久 保	
15 水	中 央	八 角	医 大	
16 木	医 大	高 松	中 央	
17 金	中 央	友 愛	医 大	
18 土	日 赤	川 久 保	中 央	こども
19 日	医 大	遠 山	中 央	中 央
20 月	中 央	市 立	医 大	
21 火	日 赤	栃 内	川 久 保	
22 水	医 大	国 立	中 央	
23 木	中 央	八 角	医 大	
24 金	医 大	高 松	中 央	
25 土	医 大	友 愛	中 央	こども
26 日	中 央	つ な ぎ	日 赤	日 赤
27 月	日 赤	遠 山	医 大	
28 火	医 大	市 立	中 央	
29 水	中 央	栃 内	中 央	
30 木	日 赤	国 立	医 大	
31 金	医 大	八 角	中 央	

医 大 14
中 央 15
日 赤 3
こども 4
川久保 3
合 計 39

9 月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 土	中 央	高 松	医 大	こども
2 日	中 央	友 愛	医 大	医 大
3 月	医 大	つ な ぎ	中 央	
4 火	中 央	市 立	川 久 保	
5 水	日 赤	川 久 保	中 央	
6 木	医 大	栃 内	医 大	
7 金	中 央	国 立	中 央	
8 土	日 赤	八 角	医 大	こども
9 日	医 大	高 松	中 央	中 央
10 月	中 央	友 愛	医 大	
11 火	医 大	つ な ぎ	川 久 保	
12 水	医 大	川 久 保	日 赤	
13 木	中 央	遠 山	中 央	
14 金	日 赤	栃 内	医 大	
15 土	医 大	国 立	中 央	こども
16 日	中 央	八 角	医 大	医 大
17 月	日 赤	高 松	中 央	中 央
18 火	医 大	友 愛	川 久 保	
19 水	中 央	つ な ぎ	医 大	
20 木	中 央	川 久 保	中 央	
21 金	医 大	遠 山	医 大	
22 土	中 央	市 立	中 央	こども
23 日	日 赤	国 立	医 大	医 大
24 月	医 大	八 角	中 央	中 央
25 火	中 央	高 松	医 大	
26 水	日 赤	友 愛	中 央	
27 木	医 大	つ な ぎ	医 大	
28 金	中 央	川 久 保	中 央	
29 土	医 大	遠 山	医 大	こども
30 日	医 大	市 立	日 赤	日 赤

医 大 16
中 央 15
日 赤 3
こども 5
川久保 3
合 計 42

(平成 30 年 10 月～ 12 月)

10月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 月	中 央	栃 内	医 大	
2 火	日 赤	八 角	川 久 保	
3 水	医 大	高 松	中 央	
4 木	中 央	友 愛	医 大	
5 金	日 赤	つ な ぎ	中 央	
6 土	医 大	川 久 保	医 大	こども
7 日	中 央	遠 山	中 央	医 大
8 月	中 央	市 立	中 央	中 央
9 火	医 大	栃 内	川 久 保	
10 水	中 央	国 立	中 央	
11 木	日 赤	高 松	医 大	
12 金	医 大	友 愛	中 央	
13 土	中 央	つ な ぎ	医 大	こども
14 日	日 赤	川 久 保	中 央	中 央
15 月	医 大	遠 山	医 大	
16 火	中 央	市 立	川 久 保	
17 水	医 大	栃 内	日 赤	
18 木	医 大	国 立	中 央	
19 金	中 央	八 角	医 大	
20 土	日 赤	友 愛	中 央	こども
21 日	医 大	つ な ぎ	医 大	医 大
22 月	中 央	川 久 保	中 央	
23 火	日 赤	遠 山	医 大	
24 水	医 大	市 立	中 央	
25 木	中 央	栃 内	医 大	
26 金	中 央	国 立	医 大	
27 土	医 大	八 角	中 央	こども
28 日	中 央	高 松	日 赤	日 赤
29 月	日 赤	つ な ぎ	医 大	
30 火	医 大	川 久 保	中 央	
31 水	中 央	遠 山	中 央	

医 大 15
中 央 15
日 赤 3
こども 4
川久保 3
合 計 40

11月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 木	日 赤	市 立	医 大	
2 金	医 大	栃 内	中 央	
3 土	中 央	国 立	医 大	こども
4 日	医 大	八 角	中 央	中 央
5 月	医 大	高 松	医 大	
6 火	中 央	友 愛	川 久 保	
7 水	日 赤	川 久 保	中 央	
8 木	医 大	遠 山	医 大	
9 金	中 央	市 立	中 央	
10 土	日 赤	栃 内	医 大	こども
11 日	医 大	国 立	医 大	医 大
12 月	中 央	八 角	中 央	
13 火	中 央	高 松	川 久 保	
14 水	医 大	友 愛	日 赤	
15 木	中 央	つ な ぎ	医 大	
16 金	日 赤	遠 山	中 央	
17 土	医 大	市 立	中 央	こども
18 日	中 央	栃 内	医 大	医 大
19 月	日 赤	国 立	中 央	
20 火	医 大	八 角	川 久 保	
21 水	中 央	高 松	中 央	
22 木	医 大	友 愛	医 大	
23 金	医 大	つ な ぎ	日 赤	日 赤
24 土	中 央	川 久 保	医 大	こども
25 日	日 赤	市 立	中 央	中 央
26 月	医 大	栃 内	医 大	
27 火	中 央	国 立	中 央	
28 水	日 赤	八 角	医 大	
29 木	医 大	高 松	中 央	
30 金	中 央	友 愛	医 大	

医 大 15
中 央 14
日 赤 3
こども 4
川久保 3
合 計 39

12月	二次救急		小児救急	
日曜日	A	B	宿直	日直
1 土	中 央	つ な ぎ	医 大	こども
2 日	医 大	川 久 保	中 央	中 央
3 月	中 央	遠 山	医 大	
4 火	日 赤	栃 内	川 久 保	
5 水	医 大	国 立	中 央	
6 木	中 央	八 角	医 大	
7 金	日 赤	高 松	中 央	
8 土	医 大	友 愛	医 大	こども
9 日	中 央	つ な ぎ	日 赤	日 赤
10 月	医 大	川 久 保	中 央	
11 火	医 大	遠 山	川 久 保	
12 水	中 央	市 立	医 大	
13 木	日 赤	国 立	医 大	
14 金	医 大	八 角	中 央	
15 土	中 央	高 松	医 大	こども
16 日	日 赤	友 愛	中 央	中 央
17 月	医 大	つ な ぎ	医 大	
18 火	中 央	遠 山	川 久 保	
19 水	中 央	川 久 保	医 大	
20 木	医 大	市 立	中 央	
21 金	中 央	栃 内	医 大	
22 土	日 赤	八 角	中 央	こども
23 日	医 大	高 松	医 大	医 大
24 月	中 央	友 愛	中 央	中 央
25 火	日 赤	つ な ぎ	医 大	
26 水	医 大	川 久 保	中 央	
27 木	中 央	遠 山	日 赤	
28 金	医 大	市 立	医 大	
29 土	医 大	栃 内	中 央	こども
30 日	中 央	国 立	医 大	医 大
31 月	日 赤	高 松	中 央	中 央

医 大 16
中 央 16
日 赤 3
こども 5
川久保 3
合 計 43

(平成 31 年 1 月～3 月)

1 月	二次救急				小児救急	
日 曜日	A	B	宿直	日直		
1	火	医 大 友 愛	川 久 保	川 久 保		
2	水	中 央 つ な ぎ	日 赤	日 赤		
3	木	日 赤 川 久 保	医 大	医 大		
4	金	医 大 遠 山	中 央			
5	土	中 央 市 立	医 大	こ ども		
6	日	中 央 栃 内	中 央	中 央		
7	月	医 大 立	医 大			
8	火	中 央 八 角	川 久 保			
9	水	日 赤 友 愛	中 央			
10	木	医 大 つ な ぎ	医 大			
11	金	中 央 川 久 保	中 央			
12	土	日 赤 遠 山	医 大	こ ども		
13	日	医 大 市 立	中 央	中 央		
14	月	中 央 栃 内	医 大	医 大		
15	火	医 大 国 立	川 久 保			
16	水	医 大 八 角	中 央			
17	木	中 央 高 松	医 大			
18	金	日 赤 つ な ぎ	中 央			
19	土	医 大 川 久 保	医 大	こ ども		
20	日	中 央 遠 山	日 赤	日 赤		
21	月	日 赤 市 立	中 央			
22	火	医 大 栃 内	中 央			
23	水	中 央 国 立	医 大			
24	木	中 央 八 角	中 央			
25	金	医 大 高 松	医 大			
26	土	中 央 友 愛	中 央	こ ども		
27	日	日 赤 川 久 保	医 大	医 大		
28	月	医 大 遠 山	中 央			
29	火	中 央 市 立	医 大			
30	水	日 赤 栃 内	中 央			
31	木	医 大 国 立	医 大			

医 大 16
中 央 15
日 赤 4
こ ども 4
川 久 保 4
合 計 43

2 月	二次救急				小児救急	
日 曜日	A	B	宿直	日直		
1	金	中 央 八 角	中 央			
2	土	医 大 高 松	医 大	こ ども		
3	日	医 大 友 愛	中 央	中 央		
4	月	中 央 つ な ぎ	医 大			
5	火	日 赤 遠 山	川 久 保			
6	水	医 大 市 立	中 央			
7	木	中 央 栃 内	医 大			
8	金	日 赤 国 立	中 央			
9	土	医 大 八 角	医 大	こ ども		
10	日	中 央 高 松	医 大	医 大		
11	月	中 央 友 愛	中 央	中 央		
12	火	医 大 つ な ぎ	川 久 保			
13	水	中 央 川 久 保	日 赤			
14	木	日 赤 市 立	医 大			
15	金	医 大 栃 内	中 央			
16	土	中 央 国 立	医 大	こ ども		
17	日	日 赤 八 角	中 央	中 央		
18	月	医 大 高 松	医 大			
19	火	中 央 友 愛	川 久 保			
20	水	医 大 つ な ぎ	中 央			
21	木	医 大 川 久 保	医 大			
22	金	中 央 遠 山	中 央			
23	土	日 赤 栃 内	医 大	こ ども		
24	日	医 大 国 立	日 赤	日 赤		
25	月	中 央 八 角	医 大			
26	火	日 赤 高 松	中 央			
27	水	医 大 友 愛	医 大			
28	木	中 央 つ な ぎ	中 央			

医 大 13
中 央 14
日 赤 3
こ ども 4
川 久 保 3
合 計 37

3 月	二次救急				小児救急	
日 曜日	A	B	宿直	日直		
1	金	中 央 川 久 保	医 大			
2	土	医 大 遠 山	中 央	こ ども		
3	日	中 央 市 立	医 大	医 大		
4	月	日 赤 国 立	中 央			
5	火	医 大 八 角	川 久 保			
6	水	中 央 高 松	医 大			
7	木	日 赤 友 愛	中 央			
8	金	医 大 つ な ぎ	医 大			
9	土	中 央 川 久 保	中 央	こ ども		
10	日	医 大 遠 山	医 大	医 大		
11	月	医 大 市 立	中 央			
12	火	中 央 栃 内	川 久 保			
13	水	日 赤 八 角	医 大			
14	木	医 大 高 松	日 赤			
15	金	中 央 友 愛	医 大			
16	土	日 赤 つ な ぎ	医 大	こ ども		
17	日	医 大 川 久 保	中 央	中 央		
18	月	中 央 遠 山	医 大			
19	火	中 央 市 立	川 久 保			
20	水	医 大 栃 内	中 央			
21	木	中 央 国 立	日 赤	日 赤		
22	金	日 赤 高 松	中 央			
23	土	医 大 友 愛	中 央	中 央		
24	日	中 央 つ な ぎ	医 大	医 大		
25	月	日 赤 川 久 保	中 央			
26	火	医 大 遠 山	医 大			
27	水	中 央 市 立	中 央			
28	木	医 大 栃 内	医 大			
29	金	医 大 国 立	中 央			
30	土	中 央 八 角	医 大	医 大		
31	日	日 赤 友 愛	中 央	中 央		

医 大 17
中 央 16
日 赤 3
こ ども 3
川 久 保 3
合 計 42

表 4 二次救急患者データ

月 日		1日 輪番日				2日				3日				4日 輪番日				5日				6日				7日 輪番日				
曜 日		日				月				火				水				木				金				土				
病 院 名		外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	
			救急車			救急車				救急車				救急車				救急車				救急車				救急車				救急車
深夜	AM0 ～ AM6	内科系	1			1				2		1	4		2	4	3	3	4							3			2	
		外科系		1		1			1	1			2	1	1		2	1	1							1				
		小児科				3	1	1									5	1		1						1		1		
		産 科		1						2																				
		その他															1		1	1						1				
時間外	AM6 ～ AM9	内科系	1			2	1	2	2	2			4			3		2								2	1			
		外科系	1			1			1				5			1									1	1				
		小児科	1						1				4																	
		産 科																											1	
		その他												1		1											1			
土曜日	AM9 ～ PM0	内科系																									2			
		外科系																									3		1	
		小児科																												
		産 科																												
		その他																											1	
土曜日	PM0 ～ PM5	内科系																									4	1	2	
		外科系																									10		2	1
		小児科																									2			
		産 科																												
		その他																												
日曜日	AM9 ～ PM5	内科系	11	5	3	1				8	1	2	2	15	2			10	4	2	4									
		外科系	12							12	5		2	10	1	2	1	9	1	1										
		小児科	7		4					1				11		1	2	3												
		産 科																												
		その他	3							4				1				4		1										
時間外	PM5 ～ PM8	内科系	3	1			2	1	3	1	7		1	5	1	1		2	2		5				1	3	1		1	
		外科系	3	1			3	1		1	4	1	1	4	1			2	4	1		4	1	1	4	5		1		
		小児科	2		2				1					8				1				4		1						
		産 科			1																									
		その他	1											2				1			2					1				
夜間	PM8 ～ PM12	内科系	4	1			4		2	5	1		2	4			2	2		1	5					3	1	1		
		外科系				1	5		2	5	1			1		1	1	2	1						2	2				
		小児科	5				1							6		1						3	1	1		1				
		産 科																										2		
		その他								1				1																
合 計		42	17	4	11	30	4	1	2	14	9	4	2	10	6	1	5	25	6	3	3	20	9	2	4	47	11	8	15	

二次救急患者（以下二次患者と略記す）データについては表4に示す通り、小児救急患者（以下小児患者と略記す）については表5に示す通りの資料を各二次救急医療病院より各病院事務長の責任において1ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表 5 小児救急患者データ

月 日		1日				2日 輪番日				3日				4日				5日 輪番日				6日				7日 輪番日				
曜 日		日				月				火				水				木				金				土				
病院名		外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	
			救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車	
深夜	AM0 ～ AM6					1												1		1							4			
	AM6 ～ AM9																										3			
時間外	AM9 ～ PM0																													
土曜日	PM0 ～ PM5																													
土曜日	PM5 ～ PM8																													
日曜日	PM8 ～ PM12					2	1				1							5									4	1	1	
時間外	PM12 ～ PM12					6												6				1					3			
時間外	PM12 ～ PM12																													
合 計		0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	0	1	0	1	0	0	0	14	1	1	0	0

表 6 に平成 30 年の月別の患者数を示した。患者数では昨年平成 29 年を 200 名下回った。

例年通り受診する患者数は岩手医大が 37.3%、中央病院が 34.9%、赤十字病院が 11.9%で全体の 84.1%を占めている。

表 7 には救急車搬入数を示している。中央病院が 5,348 件、岩手医大 465（三次：907 件）、赤十字病院は 1,460 件となっている。

（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2018年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中 央 病 院	1,750	1,451	1,414	1,471	1,494	1,415	1,671	1,650	1,535	1,308	1,234	1,371	17,764	1,480	34.9
日 赤 病 院	621	508	493	466	551	421	631	570	502	414	388	489	6,054	505	11.9
市 立 病 院	86	74	66	72	83	80	92	80	80	80	56	90	939	78	1.8
遠 山 病 院	28	15	14	57	42	17	19	19	27	39	8	28	313	26	0.6
八 角 病 院	300	248	139	180	205	148	178	196	169	149	129	158	2,199	183	4.3
岩 手 医 大	1,846	1,511	1,477	1,519	1,736	1,518	1,782	1,691	1,655	1,440	1,262	1,558	18,995	1,583	37.3
高 松 病 院	17	8	14	26	18	8	19	12	18	16	17	27	200	17	0.4
栃 内 病 院	40	25	50	30	50	31	38	94	40	26	31	56	511	43	1.0
つなぎ温泉病院	49	65	37	51	41	32	44	51	89	37	27	40	563	47	1.1
友 愛 病 院	81	57	53	56	62	43	56	68	50	39	48	61	674	56	1.3
川 久 保 病 院	358	115	106	252	137	124	223	134	230	73	100	226	2,078	173	4.1
国立盛岡病院	57	52	49	53	56	48	55	58	60	63	46	50	647	54	1.3
合 計	5,233	4,129	3,912	4,233	4,475	3,885	4,808	4,623	4,455	3,684	3,346	4,154	50,937	4,245	100

図 2 二次救急病院来院患者総数月別分布

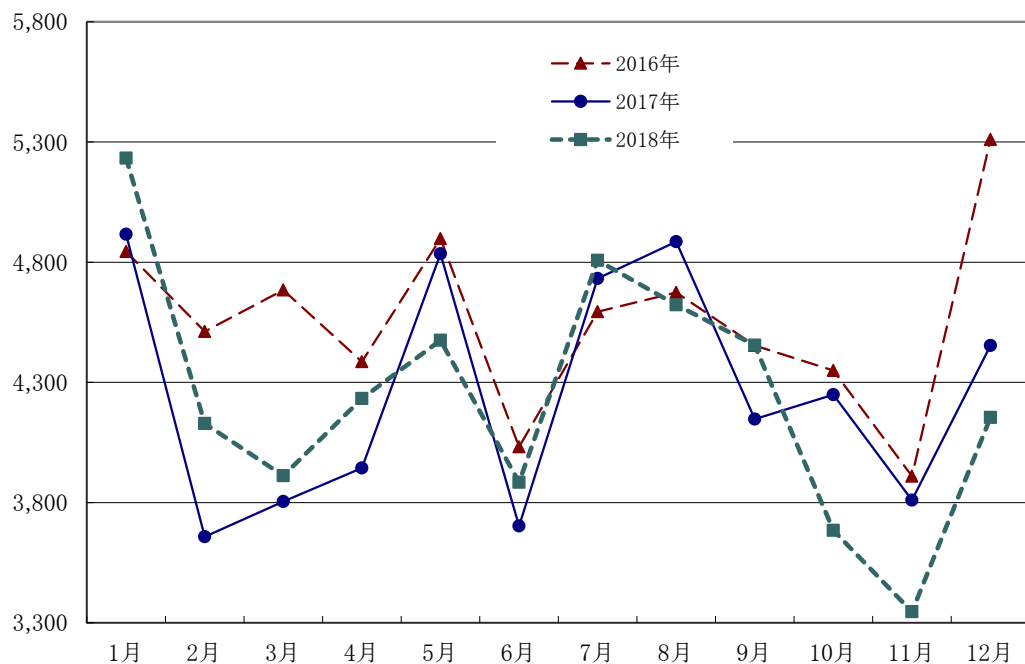


表 7 二次救急医療病院における来院患者の実態（年間総数）

2018 年 . 1 月 ～ 12 月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	13,848 ^名	32.1 [%]	3,916 ^名	50.3 [%]	5,348 ^名	61.3 [%]	17,764 ^名
日 赤 病 院	4,643	10.8	1,411	18.1	1,460	16.7	6,054
市 立 病 院	658	1.5	281	3.6	287	3.3	939
遠 山 病 院	236	0.5	77	1.0	61	0.7	313
八 角 病 院	2,061	4.8	138	1.8	164	1.9	2,199
岩 手 医 大	17,622	40.8	1,373	17.6	465	5.3	18,995
高 松 病 院	124	0.3	76	1.0	163	1.9	200
栃 内 病 院	472	1.1	39	0.5	112	1.3	511
つなぎ温泉病院	429	1.0	134	1.7	132	1.5	563
友 愛 病 院	611	1.4	63	0.8	109	1.2	674
川 久 保 病 院	1,943	4.5	135	1.7	191	2.2	2,078
国立盛岡病院	506	1.2	141	1.8	239	2.7	647
合 計	43,153	100.0	7,784	100.0	8,731	100.0	50,937

表 8 二次救急医療病院における来院患者の実態（月平均）

2018 年 . 1 月 ～ 12 月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	1,154 ^名	326 ^名	446 ^名	1,480 ^名
日 赤 病 院	387	118	122	505
市 立 病 院	55	23	24	78
遠 山 病 院	20	6	5	26
八 角 病 院	172	12	14	183
岩 手 医 大	1,469	114	39	1,583
高 松 病 院	10	6	14	17
栃 内 病 院	39	3	9	43
つなぎ温泉病院	36	11	11	47
友 愛 病 院	51	5	9	56
川 久 保 病 院	162	11	16	173
国立盛岡病院	42	12	20	54
合 計	3,596	649	728	4,245

図3 二次救急医療病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）

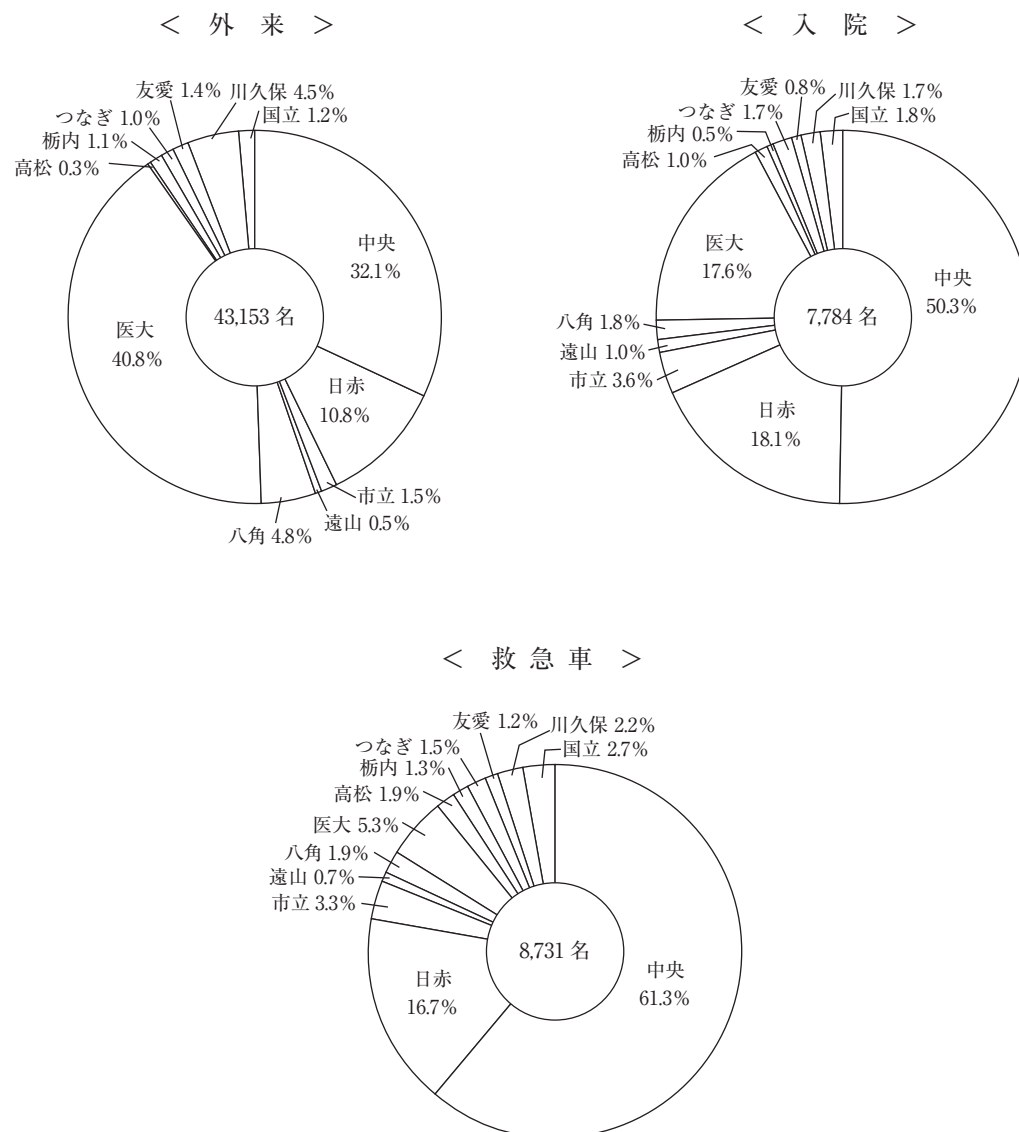


表 9 二次救急医療病院における救急車搬入患者内訳 (2018. 1 ～ 2018. 12) その 1

時 間 帯 (表 4 参照)	外 来		入 院		科 別	外 来		入 院	
	患者数	比 率	患者数	比 率		患者数	比 率	患者数	比 率
深 夜	924	18.6	607	16.1	内 科 系	2,283	45.9	1,911	50.8
時間外 A	726	14.6	502	13.4	外 科 系	2,009	40.4	1,552	41.3
土曜日 (1)	146	2.9	141	3.8	そ の 他	679	13.7	297	7.9
土曜日 (2)	283	5.7	218	5.8	計	4,971	(100)	3,760	(100)
日 祭 日	682	13.7	470	12.5					
時間外 B	1,037	20.9	1,012	26.9					
夜 間	1,173	23.6	810	21.5					
計	4,971	(100)	3,760	(100)					

図 4 二次救急医療病院における救急車搬入内訳

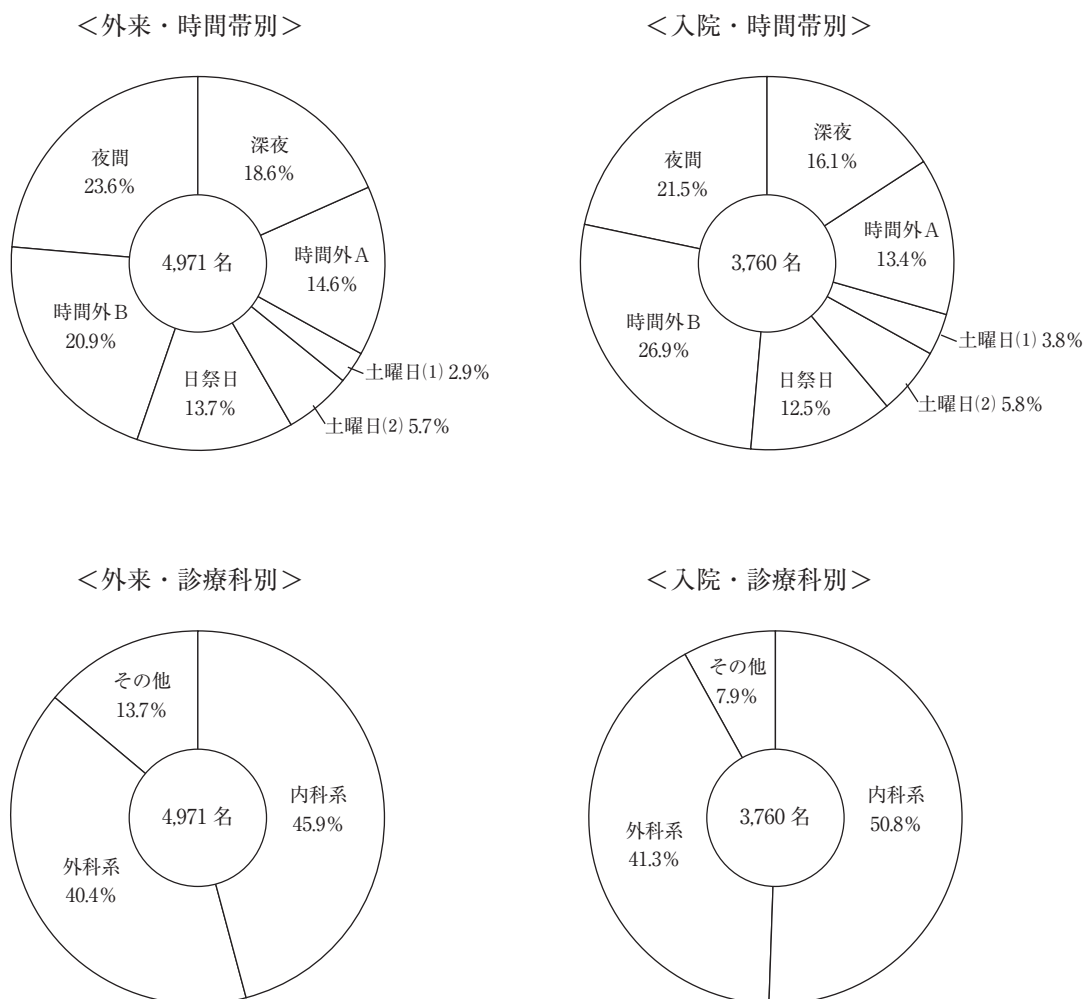
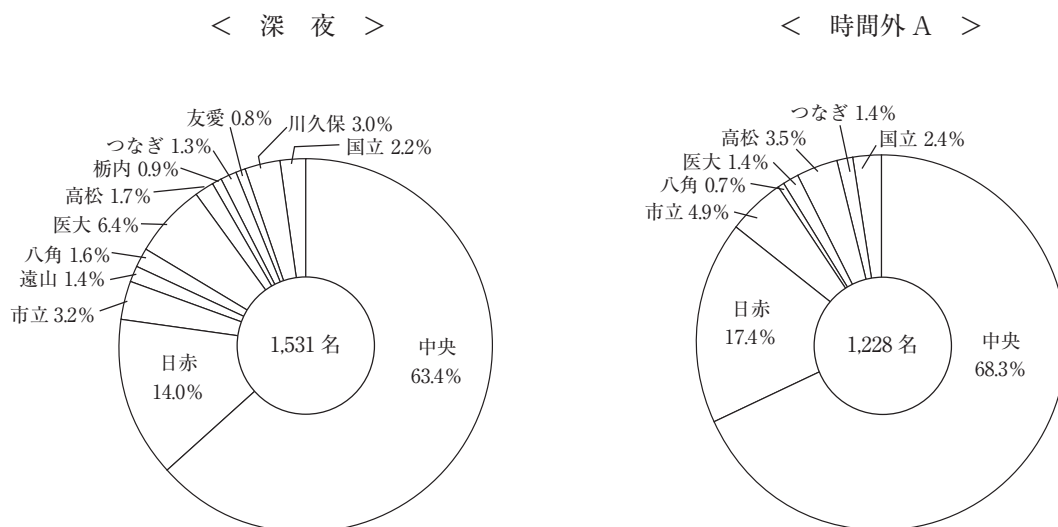


表 10 二次救急医療病院における病院別救急車搬入患者内訳 (2018. 1 ～ 2018. 12)

	深 夜		時間外A		土曜日 (1)		土曜日 (2)		日祭日		時間外B		夜 間		総 合	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央 病 院	971	63.4	801	68.3	196	68.3	301	60.1	647	56.2	1210	59.1	1,222	61.6	5,348	61.3
日 赤 病 院	215	14.0	190	17.4	50	17.4	103	20.6	191	16.6	381	18.6	330	16.6	1,460	16.7
市 立 病 院	49	3.2	32	4.9	14	4.9	15	3.0	43	3.7	69	3.4	65	3.3	287	3.3
遠 山 病 院	22	1.4	8	0.0	0	0.0	2	0.4	5	0.4	9	0.4	15	0.8	61	0.7
八 角 病 院	24	1.6	24	0.7	2	0.7	11	2.2	31	2.7	32	1.6	40	2.0	164	1.9
岩 手 医 大	98	6.4	45	1.4	4	1.4	9	1.8	55	4.8	123	6.0	131	6.6	465	5.3
高 松 病 院	26	1.7	14	3.5	10	3.5	11	2.2	39	3.4	40	2.0	23	1.2	163	1.9
栃 内 病 院	14	0.9	17	0.0	0	0.0	7	1.4	19	1.6	32	1.6	23	1.2	112	1.3
つなぎ温泉病院	20	1.3	20	1.4	4	1.4	13	2.6	14	1.2	28	1.4	33	1.7	132	1.5
友 愛 病 院	13	0.8	21	0.0	0	0.0	4	0.8	21	1.8	22	1.1	28	1.4	109	1.2
川久保病院	46	3.0	34	0.0	0	0.0	3	0.6	31	2.7	44	2.1	33	1.7	191	2.2
国立盛岡病院	33	2.2	22	2.4	7	2.4	22	4.4	56	4.9	59	2.9	40	2.0	239	2.7
合 計	1,531	(100)	1,228	(100)	287	(100)	501	(100)	1,152	(100)	2,049	(100)	1,983	(100)	8,731	(100)

図 5 二次救急医療病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳



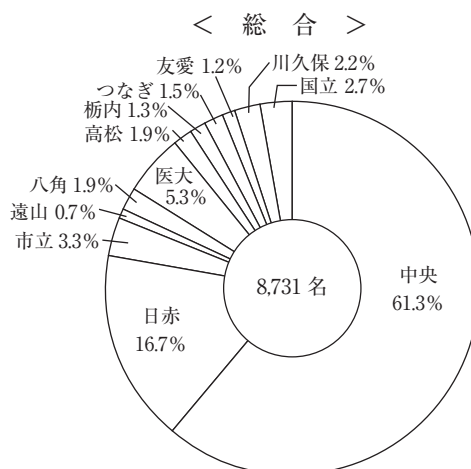
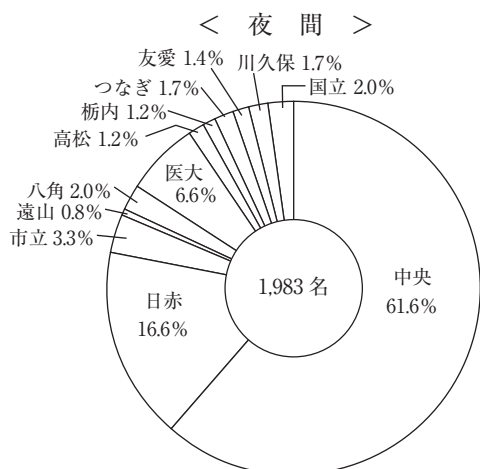
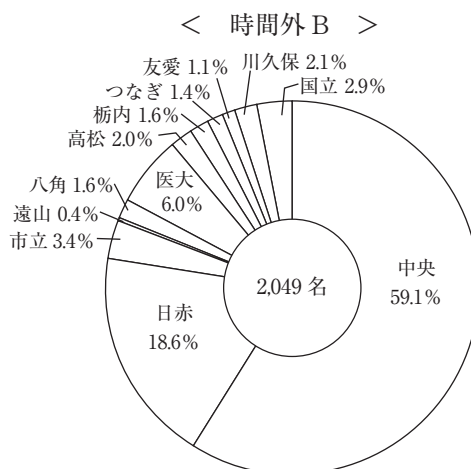
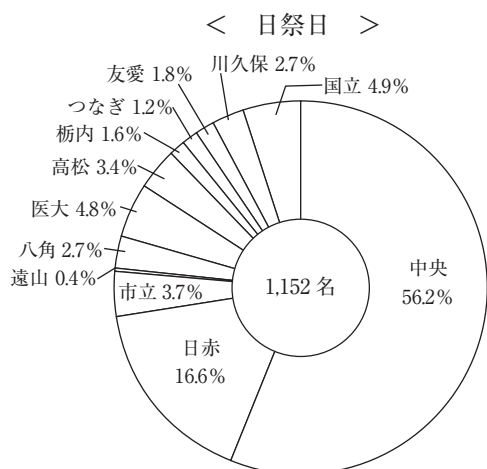
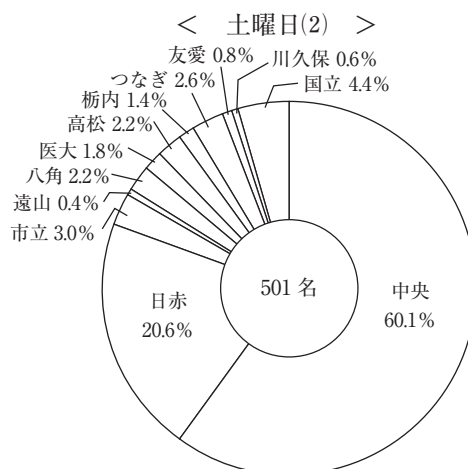
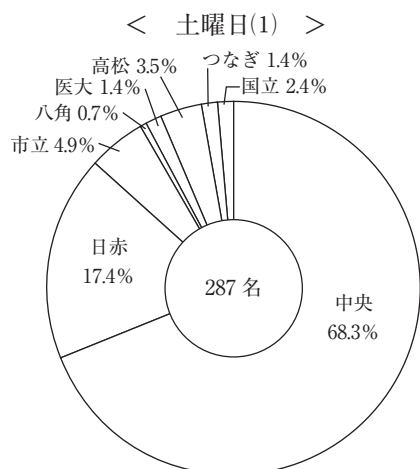


表 11 二次救急医療病院における外来・入院総合分布（系別による分類Ⅰ）

年 間 総 数		総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	5,821	2,103	7,924	485.1	175.3	660.3
	外 科 系	5,090	1,281	6,371	424.2	106.8	530.9
	そ の 他	2,937	532	3,469	244.8	44.3	289.1
日 赤 病 院	内 科 系	1,474	381	1,855	122.8	31.8	154.6
	外 科 系	2,458	869	3,327	204.8	72.4	277.3
	そ の 他	711	161	872	59.3	13.4	72.7
市 立 病 院	内 科 系	226	131	357	18.8	10.9	29.8
	外 科 系	418	145	563	34.8	12.1	46.9
	そ の 他	14	5	19	1.2	0.4	1.6
遠 山 病 院	内 科 系	152	69	221	12.7	5.8	18.4
	外 科 系	80	8	88	6.7	0.7	7.3
	そ の 他	4	0	4	0.3	0.0	0.3
八 角 病 院	内 科 系	1,660	124	1,784	138.3	10.3	148.7
	外 科 系	401	14	415	33.4	1.2	34.6
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	6,404	559	6,963	533.7	46.6	580.3
	外 科 系	7,336	303	7,639	611.3	25.3	636.6
	そ の 他	3,882	511	4,393	323.5	42.6	366.1
高 松 病 院	内 科 系	9	11	20	0.8	0.9	1.7
	外 科 系	115	65	180	9.6	5.4	15.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	31	6	37	2.6	0.5	3.1
	外 科 系	441	33	474	36.8	2.8	39.5
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	407	134	541	33.9	11.2	45.1
	外 科 系	22	0	22	1.8	0.0	1.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	458	54	512	38.2	4.5	42.7
	外 科 系	127	6	133	10.6	0.5	11.1
	そ の 他	26	3	29	2.2	0.3	2.4
川 久 保 病 院	内 科 系	960	123	1,083	80.0	10.3	90.3
	外 科 系	15	3	18	1.3	0.3	1.5
	そ の 他	968	9	977	80.7	0.8	81.4
国立盛岡病院	内 科 系	144	74	218	12.0	6.2	18.2
	外 科 系	362	67	429	30.2	5.6	35.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	17,746	3,769	21,515	1,478.8	314.1	1,792.9
	外 科 系	16,865	2,794	19,659	1,405.4	232.8	1,638.3
	そ の 他	8,542	1,221	9,763	711.8	101.8	813.6
総 合 計		43,153	7,784	50,937	3,596.1	648.7	4,244.8
				1 日 平 均	118.2	21.3	139.6

表 12 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中 央 病 院	7,924	36.8	6,371	32.4	3,469	35.5
日 赤 病 院	1,855	8.6	3,327	16.9	872	8.9
市 立 病 院	357	1.7	563	2.9	19	0.2
遠 山 病 院	221	1.0	88	0.4	4	0.04
八 角 病 院	1,784	8.3	415	2.1	0	0.0
岩 手 医 大	6,963	32.4	7,639	38.9	4,393	45.0
高 松 病 院	20	0.1	180	0.9	0	0.0
栃 内 病 院	37	0.2	474	2.4	0	0.0
つなぎ温泉病院	541	2.5	22	0.1	0	0.0
友 愛 病 院	512	2.4	133	0.7	29	0.3
川久保病院	1,083	5.0	18	0.1	977	10.0
国立盛岡病院	218	1.0	429	2.2	0	0.0
合 計	21,515	(100)	19,659	(100)	9,763	(100)

図 6 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類）

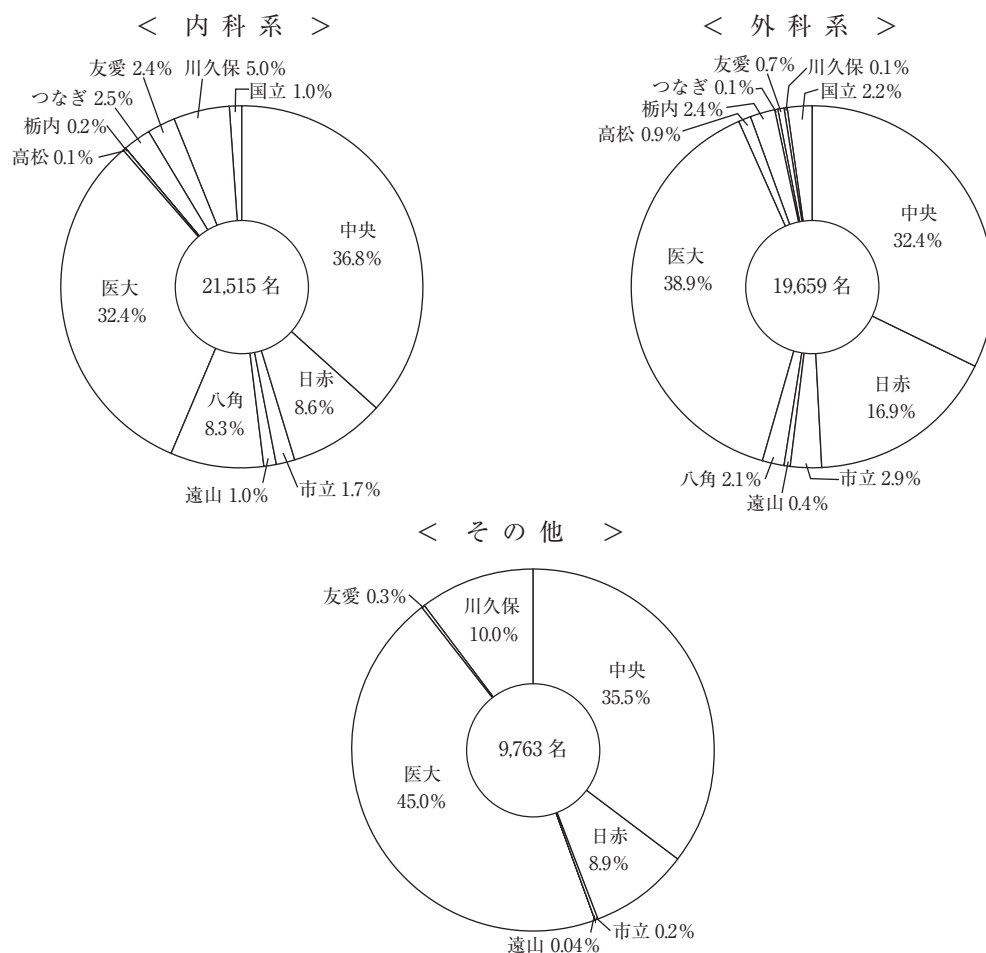


表 13 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	外 来						入 院					
	内 科 系		外 科 系		そ の 他		内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	5,821	32.8	5,090	30.2	2,937	34.4	2,103	55.8	1,281	45.8	532	43.6
日赤病院	1,474	8.3	2,458	14.6	711	8.3	381	10.1	869	31.1	161	13.2
市立病院	226	1.3	418	2.5	14	0.2	131	3.5	145	5.2	5	0.4
遠山病院	152	0.9	80	0.5	4	0.05	69	1.8	8	0.3	0	0.0
八角病院	1,660	9.4	401	2.4	0	0.0	124	3.3	14	0.5	0	0.0
岩手医大	6,404	36.1	7,336	43.5	3,882	45.4	559	14.8	303	10.8	511	41.9
高松病院	9	0.1	115	0.7	0	0.0	11	0.3	65	2.3	0	0.0
栃内病院	31	0.2	441	2.6	0	0.0	6	0.2	33	1.2	0	0.0
つなぎ温泉病院	407	2.3	22	0.1	0	0.0	134	3.6	0	0.0	0	0.0
友愛病院	458	2.6	127	0.8	26	0.3	54	1.4	6	0.2	3	0.2
川久保病院	960	5.4	15	0.1	968	11.3	123	3.3	3	0.1	9	0.7
国立盛岡病院	144	0.8	362	2.1	0	0.0	74	2.0	67	2.4	0	0.0
合 計	17,746	(100)	16,865	(100)	8,542	(100)	3,769	(100)	2,794	(100)	1,221	(100)

＜ 外来分布 ＞

＜ 内科系 ＞

病院	割合 (%)
中央	32.8%
医大	36.1%
日赤	8.3%
市立	1.3%
遠山	0.9%
八角	9.4%
高松	0.1%
榑内	0.2%
つなぎ	2.3%
友愛	2.6%
川久保	5.4%
国立	0.8%

17,746 名

＜ 外科系 ＞

病院	割合 (%)
中央	30.2%
医大	43.5%
日赤	14.6%
市立	2.5%
遠山	0.5%
八角	2.4%
高松	0.7%
榑内	2.6%
つなぎ	0.1%
友愛	0.8%
川久保	0.1%
国立	2.1%

16,865 名

＜ その他 ＞

病院	割合 (%)
中央	34.4%
医大	45.4%
日赤	8.3%
市立	0.2%
遠山	0.05%
川久保	11.3%
友愛	0.3%

8,542 名

＜ 入院分布 ＞

＜ 内科系 ＞

病院	割合 (%)
中央	55.8%
医大	14.8%
日赤	10.1%
市立	3.5%
遠山	1.8%
八角	3.3%
高松	0.3%
榑内	0.2%
つなぎ	3.6%
友愛	1.4%
川久保	3.3%
国立	2.0%

3,769 名

＜ 外科系 ＞

病院	割合 (%)
中央	45.8%
医大	10.8%
日赤	31.1%
市立	5.2%
遠山	0.3%
八角	0.5%
高松	2.3%
榑内	1.2%
つなぎ	0.2%
友愛	0.2%
川久保	0.1%
国立	2.4%

2,794 名

＜ その他 ＞

病院	割合 (%)
中央	43.6%
医大	41.9%
日赤	13.2%
市立	0.4%
川久保	0.7%
友愛	0.2%

1,221 名

表 14 二次救急医療病院における来院患者の外来・入院時間別分布 (2018. 1 ～ 2018. 12)

		外 来		入 院	
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
内 科 系	深 夜	2,365	13.3	542	14.4
	時 間 外 A	1,625	9.2	425	11.3
	土 曜 日 (1)	408	2.3	166	4.4
	土 曜 日 (2)	949	5.3	242	6.4
	日 祭 日	3,570	20.1	598	15.9
	時 間 外 B	4,495	25.3	1,005	26.7
	夜 間	4,334	24.4	791	21.0
	計	17,746	100	3,769	100
外 科 系	深 夜	1,415	8.4	350	12.5
	時 間 外 A	1,249	7.4	286	10.2
	土 曜 日 (1)	570	3.4	153	5.5
	土 曜 日 (2)	1,230	7.3	202	7.2
	日 祭 日	3,586	21.3	403	14.4
	時 間 外 B	4,558	27.0	795	28.5
	夜 間	4,257	25.2	605	21.7
	計	16,865	100	2,794	100
そ の 他	深 夜	1,231	14.4	244	20.0
	時 間 外 A	559	6.5	111	9.1
	土 曜 日 (1)	110	1.3	23	1.9
	土 曜 日 (2)	227	2.7	37	3.0
	日 祭 日	1,728	20.2	198	16.2
	時 間 外 B	2,360	27.6	314	25.7
	夜 間	2,327	27.2	294	24.1
	計	8,542	100	1,221	100
総 計		43,153		7,784	

図 8 二次救急医療病院における来院患者の外来・入院時間別分布

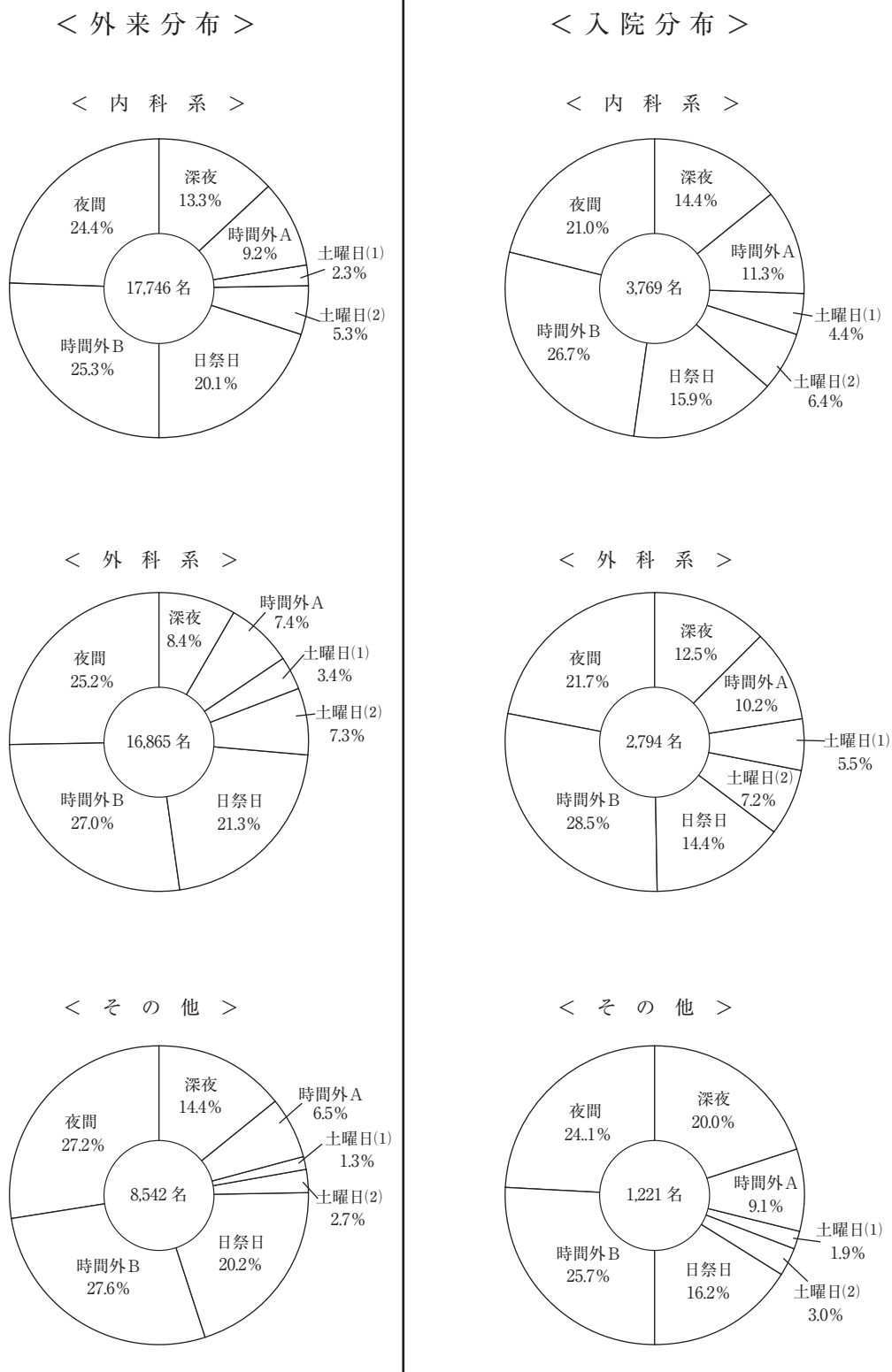


図 9 二次救急医療病院における時間帯別外来患者比率 (2018.1 ~ 2018.12)

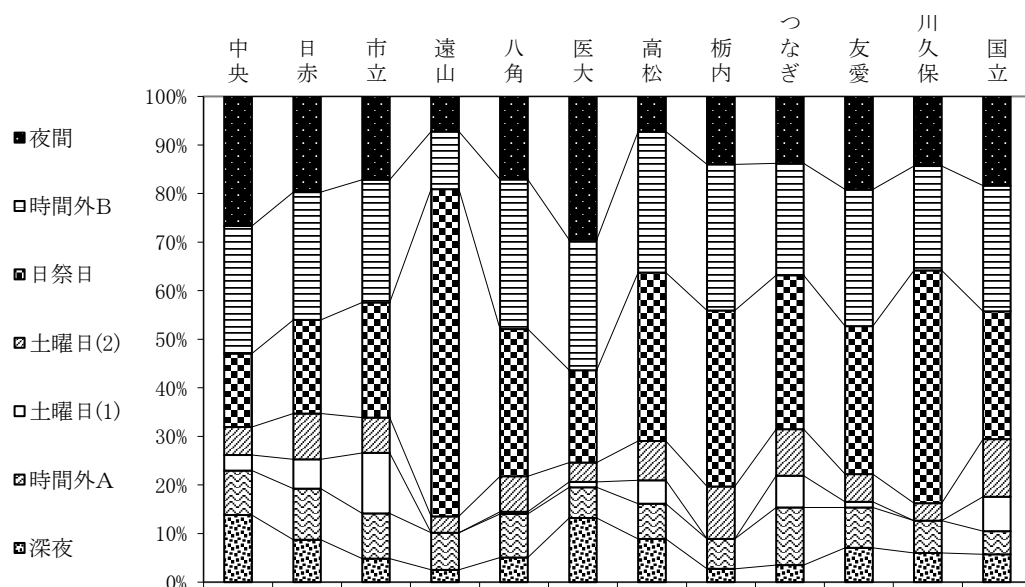


図 10 二次救急医療病院における時間帯別入院患者比率 (2018.1 ~ 2018.12)

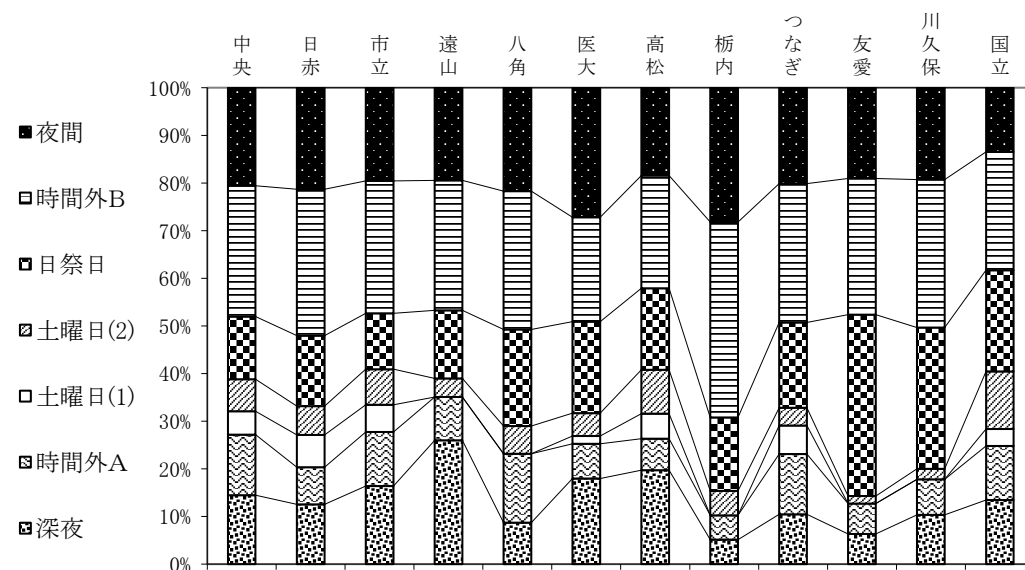


表 15 二次体制 39 年目の外来・入院分布（深夜）

深夜 (AM0～AM6)	2018.1～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	889	279	1,168	74.1	23.3	97.3
	外 科 系	547	167	714	45.6	13.9	59.5
	そ の 他	477	120	597	39.8	10.0	49.8
日 赤 病 院	内 科 系	155	50	205	12.9	4.2	17.1
	外 科 系	169	108	277	14.1	9.0	23.1
	そ の 他	80	19	99	6.7	1.6	8.3
市 立 病 院	内 科 系	14	25	39	1.2	2.1	3.3
	外 科 系	17	21	38	1.4	1.8	3.2
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
遠 山 病 院	内 科 系	6	20	26	0.5	1.7	2.2
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	93	9	102	7.8	0.8	8.5
	外 科 系	11	3	14	0.9	0.3	1.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	1,070	113	1,183	89.2	9.4	98.6
	外 科 系	632	31	663	52.7	2.6	55.3
	そ の 他	622	103	725	51.8	8.6	60.4
高 松 病 院	内 科 系	0	3	3	0.0	0.3	0.3
	外 科 系	11	12	23	0.9	1.0	1.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	外 科 系	7	2	9	0.6	0.2	0.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	15	14	29	1.3	1.2	2.4
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	36	4	40	3.0	0.3	3.3
	外 科 系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
	そ の 他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
川 久 保 病 院	内 科 系	69	12	81	5.8	1.0	6.8
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	48	2	50	4.0	0.2	4.2
国立盛岡病院	内 科 系	12	13	25	1.0	1.1	2.1
	外 科 系	17	6	23	1.4	0.5	1.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	2,365	542	2,907	197.1	45.2	242.3
	外 科 系	1,415	350	1,765	117.9	29.2	147.1
	そ の 他	1,231	244	1,475	102.6	20.3	122.9
総 合 計		5,011	1,136	6,147	417.6	94.7	512.3
				1 日平均	13.7	3.1	16.8

図 11 二次体制 39 年目の外来・入院分布（深夜）

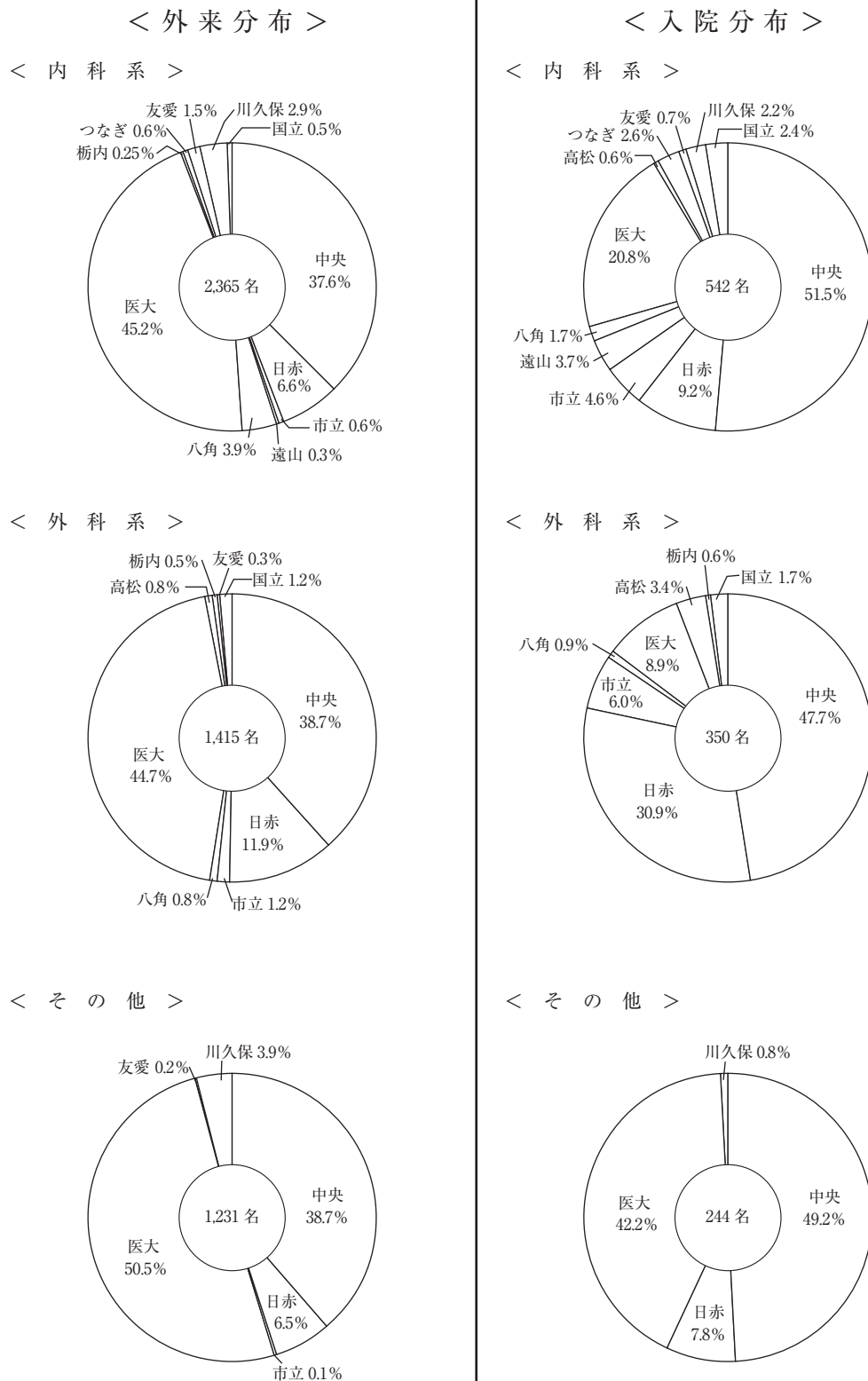


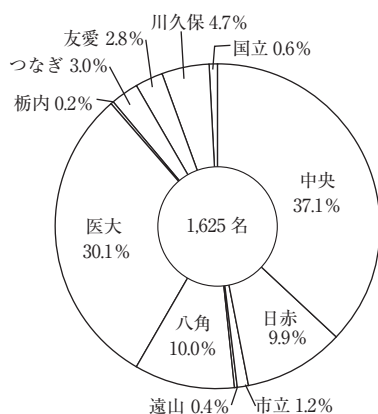
表 16 二次体制 39 年目の外来・入院分布（時間外 A）

時間外 A (AM6 ~ AM9)	2018.1 ~ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	603	280	883	50.3	23.3	73.6
	外 科 系	434	163	597	36.2	13.6	49.8
	そ の 他	233	56	289	19.4	4.7	24.1
日 赤 病 院	内 科 系	161	28	189	13.4	2.3	15.8
	外 科 系	268	69	337	22.3	5.8	28.1
	そ の 他	60	13	73	5.0	1.1	6.1
市 立 病 院	内 科 系	19	15	34	1.6	1.3	2.8
	外 科 系	40	17	57	3.3	1.4	4.8
	そ の 他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
遠 山 病 院	内 科 系	7	6	13	0.6	0.5	1.1
	外 科 系	10	1	11	0.8	0.1	0.9
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
八 角 病 院	内 科 系	162	20	182	13.5	1.7	15.2
	外 科 系	23	0	23	1.9	0.0	1.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	489	39	528	40.8	3.3	44.0
	外 科 系	420	19	439	35.0	1.6	36.6
	そ の 他	208	42	250	17.3	3.5	20.8
高 松 病 院	内 科 系	0	1	1	0.0	0.1	0.1
	外 科 系	9	4	13	0.8	0.3	1.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	外 科 系	26	2	28	2.2	0.2	2.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	49	17	66	4.1	1.4	5.5
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	45	4	49	3.8	0.3	4.1
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	4	0	4	0.3	0.0	0.3
川 久 保 病 院	内 科 系	77	10	87	6.4	0.8	7.3
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	51	0	51	4.3	0.0	4.3
国立盛岡病院	内 科 系	10	5	15	0.8	0.4	1.3
	外 科 系	14	11	25	1.2	0.9	2.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	1,625	425	2,050	135.4	35.4	170.8
	外 科 系	1,249	286	1,535	104.1	23.8	127.9
	そ の 他	559	111	670	46.6	9.3	55.8
総 合 計		3,433	822	4,255	286.1	68.5	354.6
				1 日平均	9.4	2.3	11.7

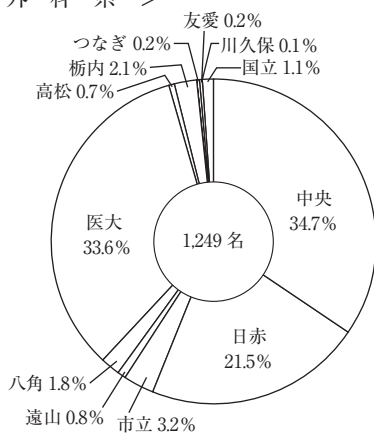
図 12 二次体制 39 年目の外来・入院分布（時間外 A）

< 外 来 分 布 >

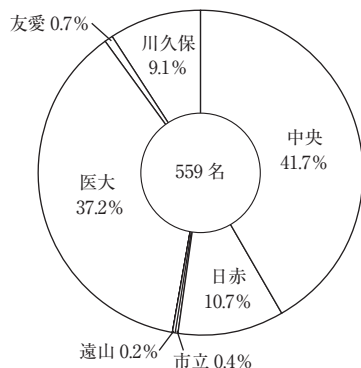
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

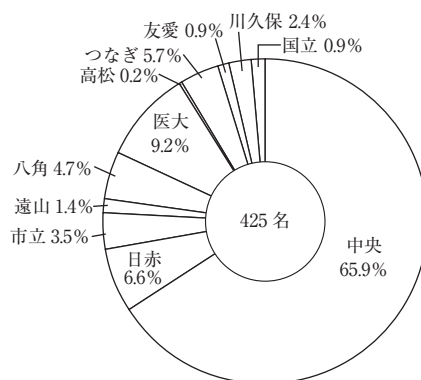


< そ の 他 >

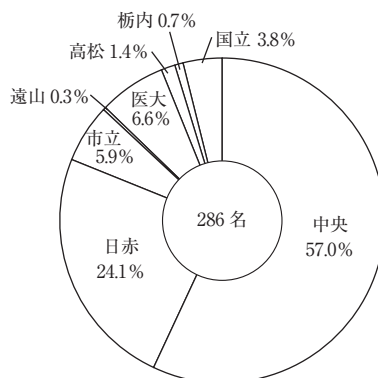


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

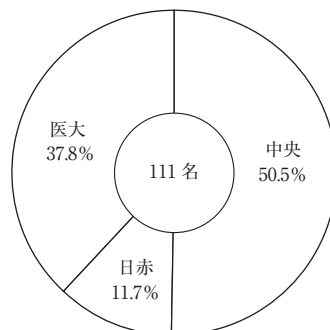


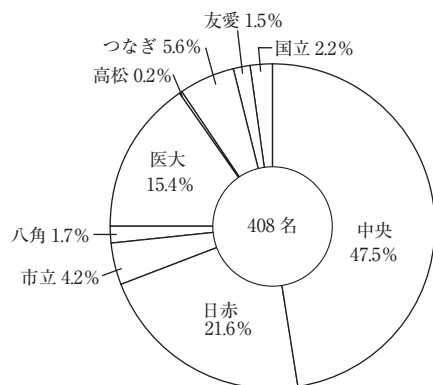
表 17 二次体制 39 年目の外来・入院分布（土曜日（1））

土曜日（1） （AM9～PM0）	2018.1～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	194	115	309	16.2	9.6	25.8
	外 科 系	210	67	277	17.5	5.6	23.1
	そ の 他	41	9	50	3.4	0.8	4.2
日 赤 病 院	内 科 系	88	28	116	7.3	2.3	9.7
	外 科 系	158	60	218	13.2	5.0	18.2
	そ の 他	35	8	43	2.9	0.7	3.6
市 立 病 院	内 科 系	17	3	20	1.4	0.3	1.7
	外 科 系	64	13	77	5.3	1.1	6.4
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
遠 山 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	7	0	7	0.6	0.0	0.6
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	63	8	71	5.3	0.7	5.9
	外 科 系	98	8	106	8.2	0.7	8.8
	そ の 他	33	6	39	2.8	0.5	3.3
高 松 病 院	内 科 系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	外 科 系	5	3	8	0.4	0.3	0.7
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	23	8	31	1.9	0.7	2.6
	外 科 系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
川 久 保 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
国立盛岡病院	内 科 系	9	3	12	0.8	0.3	1.0
	外 科 系	27	2	29	2.3	0.2	2.4
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	408	166	574	34.0	13.8	47.8
	外 科 系	570	153	723	47.5	12.8	60.3
	そ の 他	110	23	133	9.2	1.9	11.1
総 合 計		1,088	342	1,430	90.7	28.5	119.2
				1 日平均	3.0	0.9	3.9

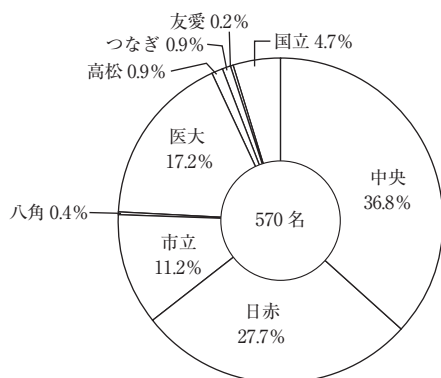
図 13 二次体制 39 年目の外来・入院分布（土曜日（1））

< 外 来 分 布 >

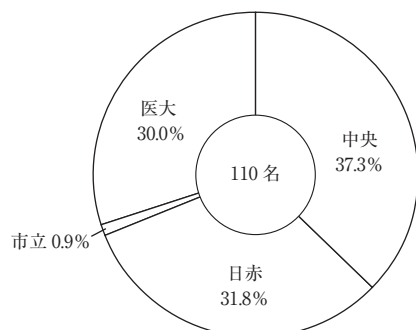
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

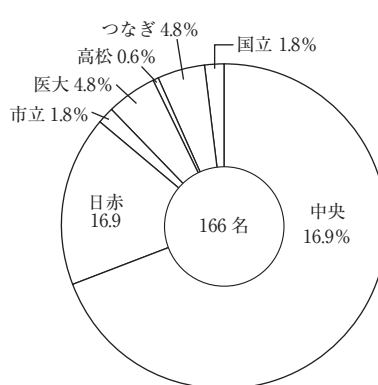


< そ の 他 >

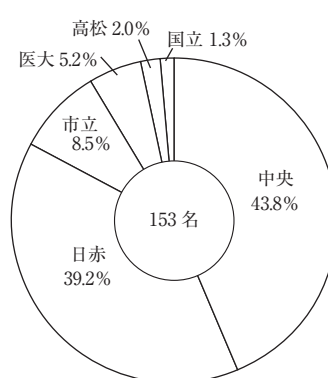


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

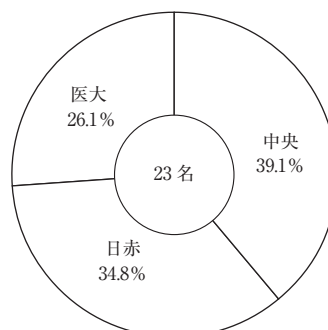


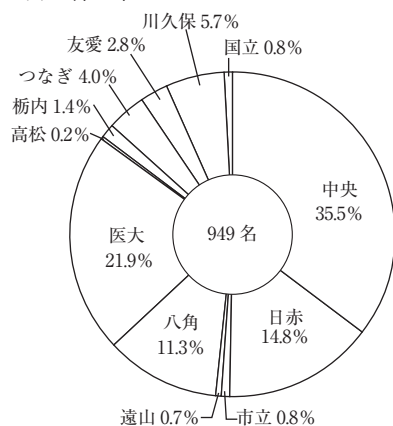
表 18 二次体制 39 年目の外来・入院分布（土曜日（2））

土曜日（2） （PM0～PM5）	2018.1～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	337	159	496	28.1	13.3	41.3
	外 科 系	386	93	479	32.2	7.8	39.9
	そ の 他	70	11	81	5.8	0.9	6.8
日 赤 病 院	内 科 系	140	33	173	11.7	2.8	14.4
	外 科 系	270	47	317	22.5	3.9	26.4
	そ の 他	28	5	33	2.3	0.4	2.8
市 立 病 院	内 科 系	8	3	11	0.7	0.3	0.9
	外 科 系	40	17	57	3.3	1.4	4.8
	そ の 他	0	1	1	0.0	0.1	0.1
遠 山 病 院	内 科 系	7	3	10	0.6	0.3	0.8
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	107	7	114	8.9	0.6	9.5
	外 科 系	44	1	45	3.7	0.1	3.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	208	23	231	17.3	1.9	19.3
	外 科 系	380	23	403	31.7	1.9	33.6
	そ の 他	113	20	133	9.4	1.7	11.1
高 松 病 院	内 科 系	2	1	3	0.2	0.1	0.3
	外 科 系	8	6	14	0.7	0.5	1.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	13	1	14	1.1	0.1	1.2
	外 科 系	38	1	39	3.2	0.1	3.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	38	5	43	3.2	0.4	3.6
	外 科 系	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	27	0	27	2.3	0.0	2.3
	外 科 系	6	1	7	0.5	0.1	0.6
	そ の 他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
川 久 保 病 院	内 科 系	54	3	57	4.5	0.3	4.8
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	14	0	14	1.2	0.0	1.2
国立盛岡病院	内 科 系	8	4	12	0.7	0.3	1.0
	外 科 系	52	13	65	4.3	1.1	5.4
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	949	242	1,191	79.1	20.2	99.3
	外 科 系	1,230	202	1,432	102.5	16.8	119.3
	そ の 他	227	37	264	18.9	3.1	22.0
総 合 計		2,406	481	2,887	200.5	40.1	240.6
				1 日平均	6.6	1.3	7.9

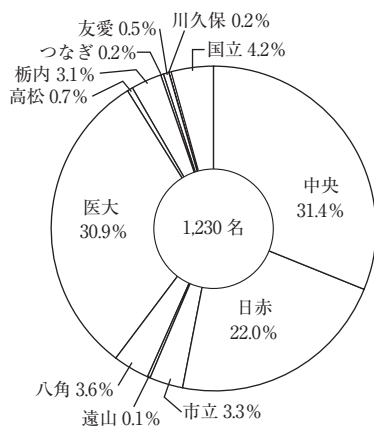
図 14 二次体制 39 年目の外来・入院分布（土曜日（2））

< 外 来 分 布 >

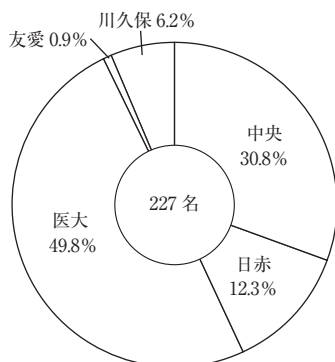
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

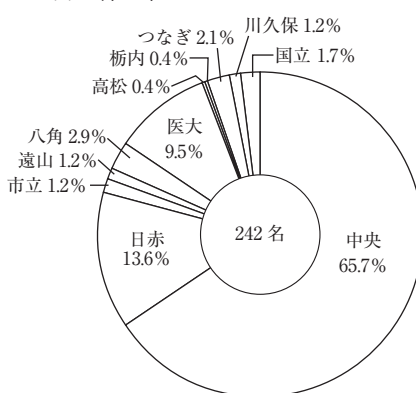


< そ の 他 >

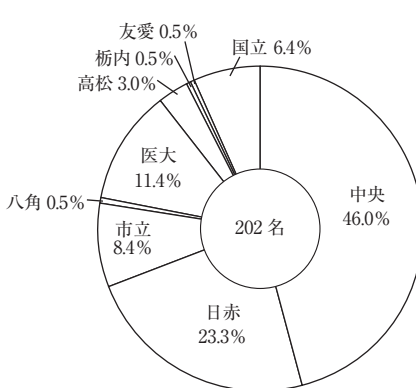


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

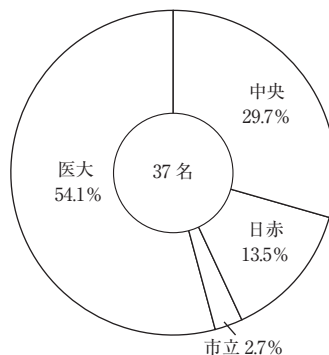


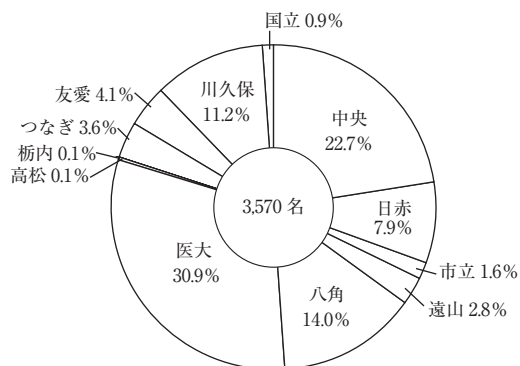
表 19 二次体制 39 年目の外来・入院分布（日祭日）

日 祭 日 (AM9～PM5)	2018.1～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	810	276	1,086	67.5	23.0	90.5
	外 科 系	861	173	1,034	71.8	14.4	86.2
	そ の 他	425	68	493	35.4	5.7	41.1
日 赤 病 院	内 科 系	283	62	345	23.6	5.2	28.8
	外 科 系	469	113	582	39.1	9.4	48.5
	そ の 他	142	34	176	11.8	2.8	14.7
市 立 病 院	内 科 系	56	18	74	4.7	1.5	6.2
	外 科 系	91	15	106	7.6	1.3	8.8
	そ の 他	9	0	9	0.8	0.0	0.8
遠 山 病 院	内 科 系	99	7	106	8.3	0.6	8.8
	外 科 系	57	4	61	4.8	0.3	5.1
	そ の 他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
八 角 病 院	内 科 系	500	26	526	41.7	2.2	43.8
	外 科 系	125	2	127	10.4	0.2	10.6
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	1,102	109	1,211	91.8	9.1	100.9
	外 科 系	1,629	62	1,691	135.8	5.2	140.9
	そ の 他	623	93	716	51.9	7.8	59.7
高 松 病 院	内 科 系	4	2	6	0.3	0.2	0.5
	外 科 系	39	11	50	3.3	0.9	4.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	外 科 系	166	6	172	13.8	0.5	14.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	130	24	154	10.8	2.0	12.8
	外 科 系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	147	20	167	12.3	1.7	13.9
	外 科 系	34	2	36	2.8	0.2	3.0
	そ の 他	5	2	7	0.4	0.2	0.6
川 久 保 病 院	内 科 系	401	36	437	33.4	3.0	36.4
	外 科 系	9	3	12	0.8	0.3	1.0
	そ の 他	521	1	522	43.4	0.1	43.5
国立盛岡病院	内 科 系	33	18	51	2.8	1.5	4.3
	外 科 系	100	12	112	8.3	1.0	9.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	3,570	598	4,168	297.5	49.8	347.3
	外 科 系	3,586	403	3,989	298.8	33.6	332.4
	そ の 他	1,728	198	1,926	144.0	16.5	160.5
総 合 計		8,884	1,199	10,083	740.3	99.9	840.3
				1 日 平 均	24.3	3.3	27.6

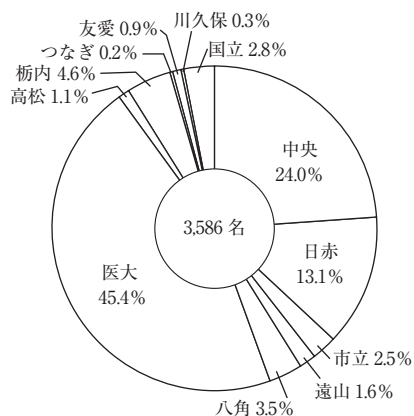
図 15 二次体制 39 年目の外来・入院分布（日祭日）

< 外 来 分 布 >

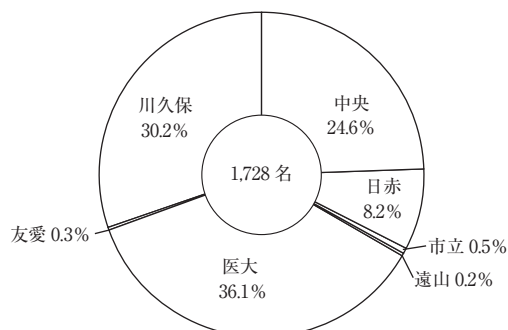
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

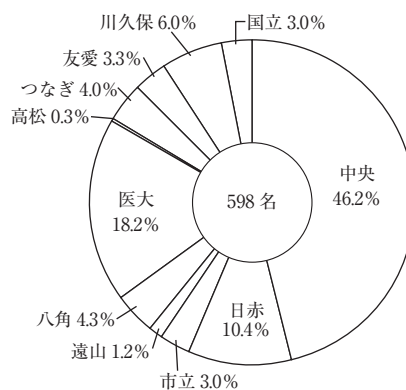


< そ の 他 >

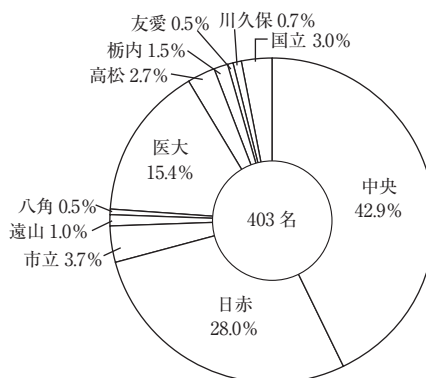


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

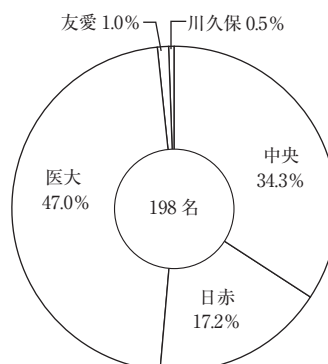


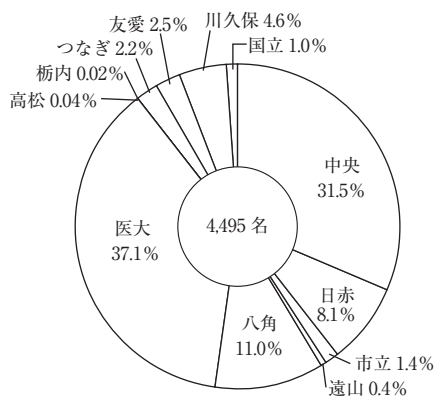
表 20 二次体制 39 年目の外来・入院分布（時間外 B）

時間外 B (PM5 ～ PM8)	2018.1 ～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	1,418	578	1,996	118.2	48.2	166.3
	外 科 系	1,359	353	1,712	113.3	29.4	142.7
	そ の 他	858	142	1,000	71.5	11.8	83.3
日 赤 病 院	内 科 系	366	107	473	30.5	8.9	39.4
	外 科 系	659	281	940	54.9	23.4	78.3
	そ の 他	198	45	243	16.5	3.8	20.3
市 立 病 院	内 科 系	64	43	107	5.3	3.6	8.9
	外 科 系	102	33	135	8.5	2.8	11.3
	そ の 他	0	2	2	0.0	0.2	0.2
遠 山 病 院	内 科 系	18	18	36	1.5	1.5	3.0
	外 科 系	10	3	13	0.8	0.3	1.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	493	36	529	41.1	3.0	44.1
	外 科 系	142	4	146	11.8	0.3	12.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	1,667	101	1,768	138.9	8.4	147.3
	外 科 系	1,974	79	2,053	164.5	6.6	171.1
	そ の 他	1,087	121	1,208	90.6	10.1	100.7
高 松 病 院	内 科 系	2	3	5	0.2	0.3	0.4
	外 科 系	34	15	49	2.8	1.3	4.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	1	3	4	0.1	0.3	0.3
	外 科 系	141	13	154	11.8	1.1	12.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	97	39	136	8.1	3.3	11.3
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	114	17	131	9.5	1.4	10.9
	外 科 系	50	1	51	4.2	0.1	4.3
	そ の 他	8	0	8	0.7	0.0	0.7
川 久 保 病 院	内 科 系	208	38	246	17.3	3.2	20.5
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	209	4	213	17.4	0.3	17.8
国立盛岡病院	内 科 系	47	22	69	3.9	1.8	5.8
	外 科 系	84	13	97	7.0	1.1	8.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	4,495	1,005	5,500	374.6	83.8	458.3
	外 科 系	4,558	795	5,353	379.8	66.3	446.1
	そ の 他	2,360	314	2,674	196.7	26.2	222.8
総 合 計		11,413	2,114	13,527	951.1	176.2	1,127.3
				1 日平均	31.3	5.8	37.1

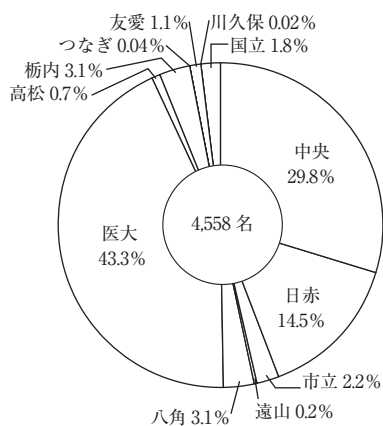
図 16 二次体制 39 年目の外来・入院分布（時間外 B）

< 外 来 分 布 >

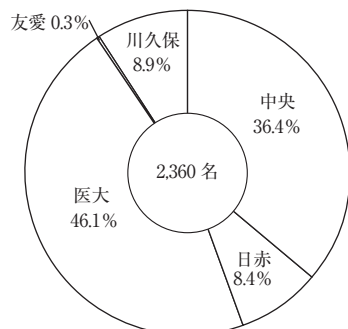
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

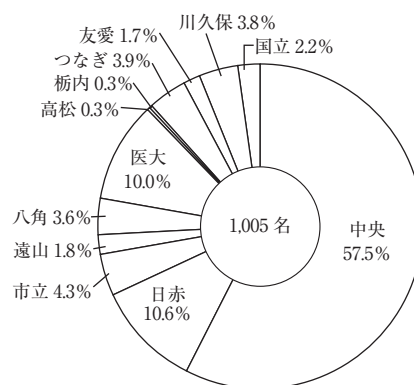


< そ の 他 >

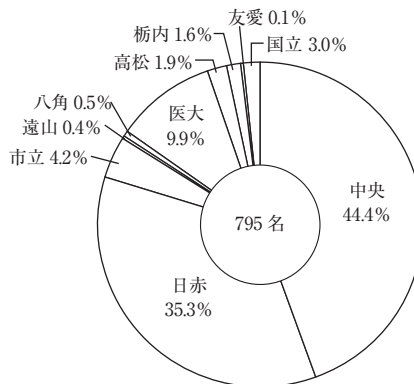


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

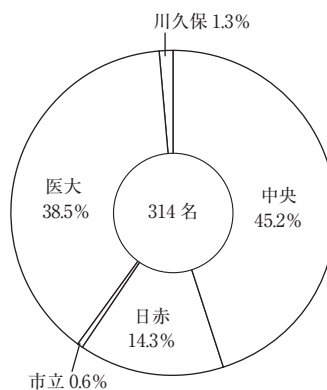


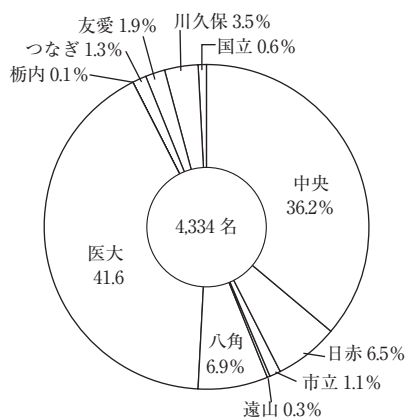
表 21 二次体制 39 年目の外来・入院分布（夜間）

夜 間 (PM8～PM12)	2018.1～ 2018.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	1,570	416	1,986	130.8	34.7	165.5
	外 科 系	1,293	265	1,558	107.8	22.1	129.8
	そ の 他	833	126	959	69.4	10.5	79.9
日 赤 病 院	内 科 系	281	73	354	23.4	6.1	29.5
	外 科 系	465	191	656	38.8	15.9	54.7
	そ の 他	168	37	205	14.0	3.1	17.1
市 立 病 院	内 科 系	48	24	72	4.0	2.0	6.0
	外 科 系	64	29	93	5.3	2.4	7.8
	そ の 他	1	2	3	0.1	0.2	0.3
遠 山 病 院	内 科 系	15	15	30	1.3	1.3	2.5
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	298	26	324	24.8	2.2	27.0
	外 科 系	54	4	58	4.5	0.3	4.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	1,805	166	1,971	150.4	13.8	164.3
	外 科 系	2,203	81	2,284	183.6	6.8	190.3
	そ の 他	1,196	126	1,322	99.7	10.5	110.2
高 松 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	9	14	23	0.8	1.2	1.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	3	2	5	0.3	0.2	0.4
	外 科 系	63	9	72	5.3	0.8	6.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内 科 系	55	27	82	4.6	2.3	6.8
	外 科 系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	83	9	92	6.9	0.8	7.7
	外 科 系	30	2	32	2.5	0.2	2.7
	そ の 他	4	1	5	0.3	0.1	0.4
川 久 保 病 院	内 科 系	151	24	175	12.6	2.0	14.6
	外 科 系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	そ の 他	125	2	127	10.4	0.2	10.6
国立盛岡病院	内 科 系	25	9	34	2.1	0.8	2.8
	外 科 系	68	10	78	5.7	0.8	6.5
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合 計	内 科 系	4,334	791	5,125	361.2	65.9	427.1
	外 科 系	4,257	605	4,862	354.8	50.4	405.2
	そ の 他	2,327	294	2,621	193.9	24.5	218.4
総 合 計		10,918	1,690	12,608	909.8	140.8	1,050.7
				1 日平均	29.9	4.6	34.5

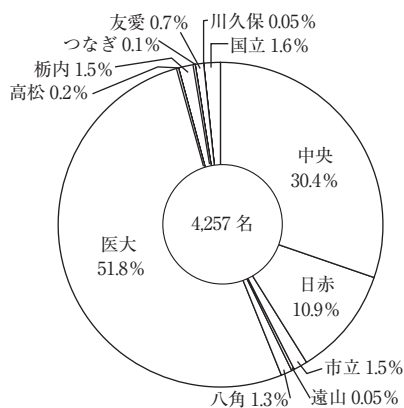
図 17 二次体制 39 年目の外来・入院分布（夜間）

< 外 来 分 布 >

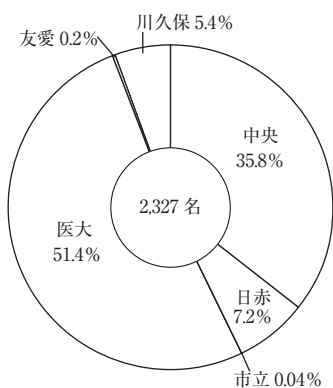
< 内 科 系 >



< 外 科 系 >

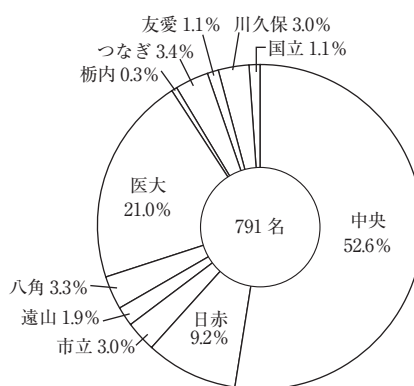


< そ の 他 >

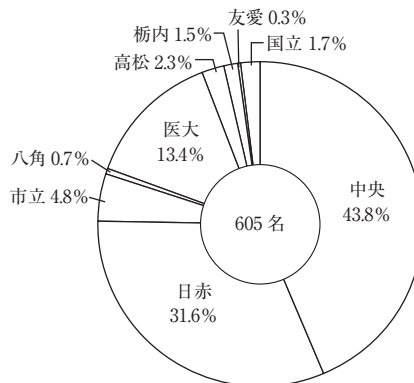


< 入 院 分 布 >

< 内 科 系 >



< 外 科 系 >



< そ の 他 >

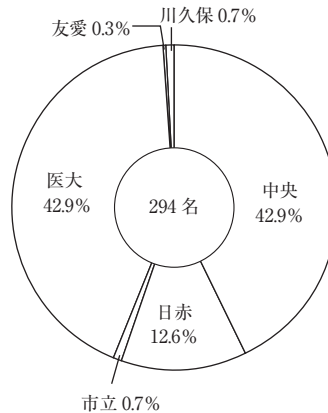
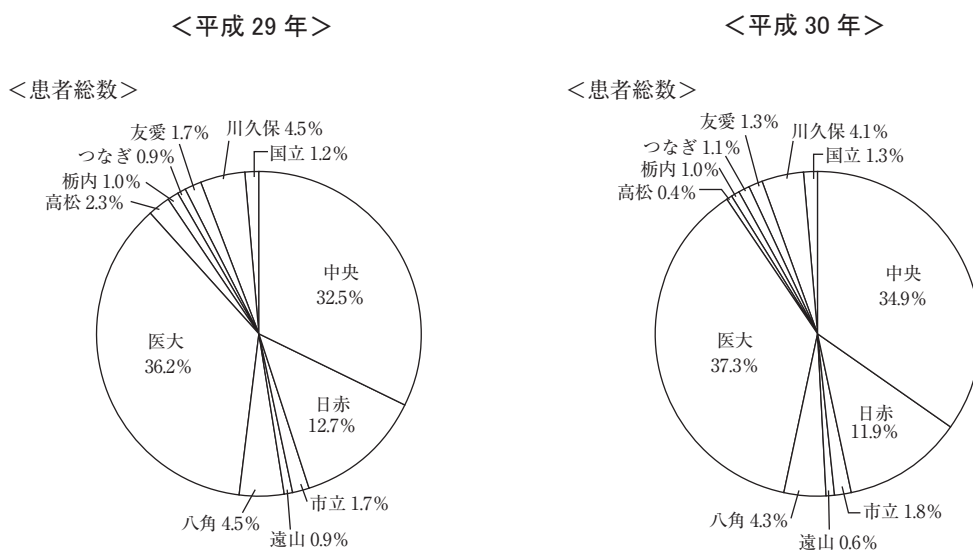


表 22 盛岡地区二次救急患者動態（前年との比較）

	外来患者数		入院患者数		救急車搬入患者数		総 数	
	平成 29 年	平成 30 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 29 年	平成 30 年
中央病院	12,874	13,848	3,746	3,916	4,641	5,348	16,620	17,764
日赤病院	4,922	4,643	1,595	1,411	1,583	1,460	6,517	6,054
市立病院	666	658	215	281	210	287	881	939
遠山病院	387	236	65	77	66	61	452	313
八角病院	2,125	2,061	168	138	202	164	2,293	2,199
岩手医大	17,239	17,622	1,252	1,373	471	465	18,491	18,995
高松病院	1,038	124	147	76	327	163	1,185	200
栃内病院	444	472	54	39	90	112	498	511
つなぎ温泉病院	312	429	134	134	124	132	446	563
友愛病院	772	611	78	63	147	109	850	674
川久保病院	2,159	1,943	141	135	180	191	2,300	2,078
国立盛岡病院	486	506	118	141	175	239	604	647
合 計	43,424	43,153	7,713	7,784	8,216	8,731	51,137	50,937

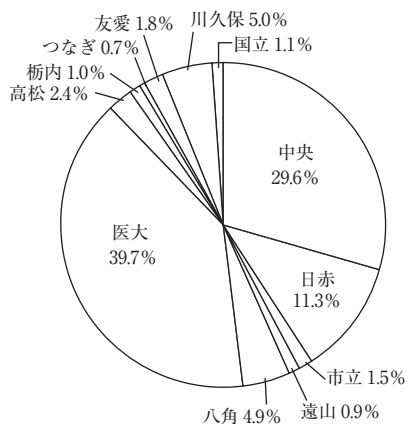
（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

図 18 二次救急患者病院別分布（前年との比較）

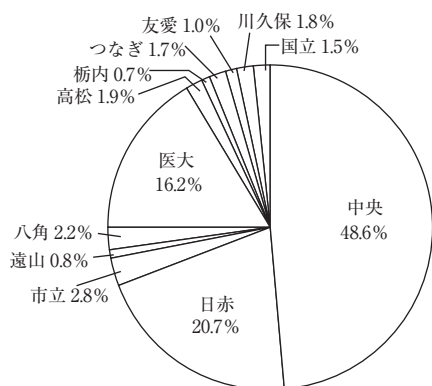


<平成 29 年>

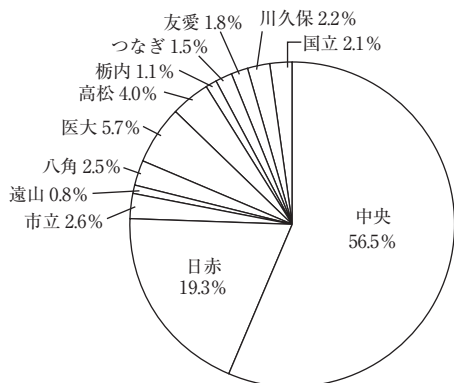
<外来患者数>



<入院患者数>

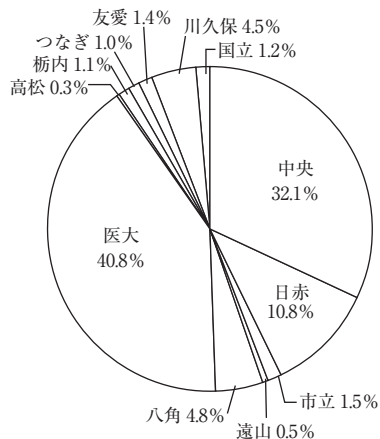


<救急車搬入患者数>

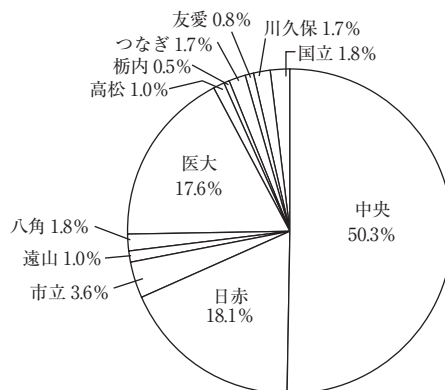


<平成 30 年>

<外来患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>

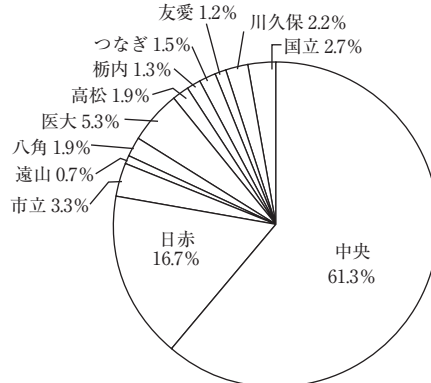
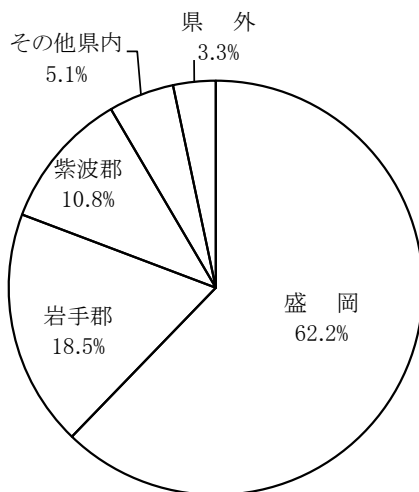


表 23 市町村別二次救急患者動態（平成 29 年 1 月～12 月）

市 町 村	外 来	入 院	合 計
盛 岡	27,333	4,365	31,698
雫 石	1,055	280	1,335
葛 巻	65	45	110
岩 手	1,135	236	1,371
滝 沢	3,962	660	4,622
紫 波	2,348	564	2,912
矢 巾	2,152	436	2,588
八 幡 平	1,670	327	1,997
その他県内	1,982	631	2,613
県 外	1,451	240	1,691
合 計	43,153	7,784	50,937

図 19 ＜地区別患者比率＞



小児救急病院群輪番制 19 年目のまとめ

図 20 ～ 22 および表 24 ～ 27 に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は 7,723 名で、うち救急車搬入患者数は 568 名（7.4%）であった。輪番日の受診者数は 5,412 名（総数の 70.1%）、救急車搬入数 431 名（輪番日受診者の 8.0%）、1 コマ単位平均 11.2 人であった。輪番日以外の受診者数は 2,311 名（総数の 29.9%）、救急車搬入数 137 名（輪番日以外受診者の 5.9%）、1 コマ単位平均 1.19 人であった。病院別では、総数では岩手医大が 3,355 名（43.4%）と最も多く、1 コマ平均では医大が 15.46 人、中央病院が 12.91 人と多かった。入院を必要とした患者は平均 1.3 人であった。輪番日以外日の受診者数は年々減少傾向にあり、輪番体制が市民に浸透してきた結果と思われる。

図 20 病院患者総数

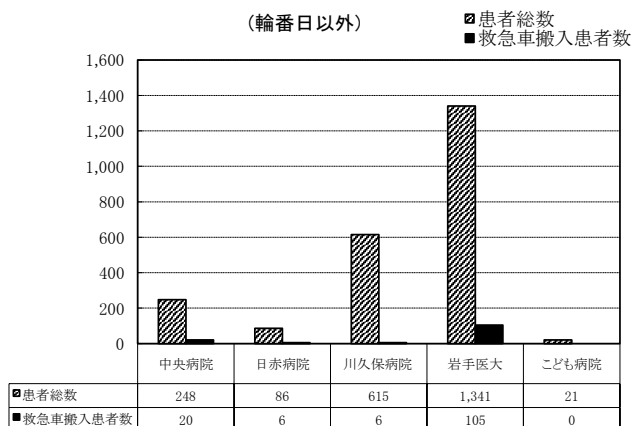
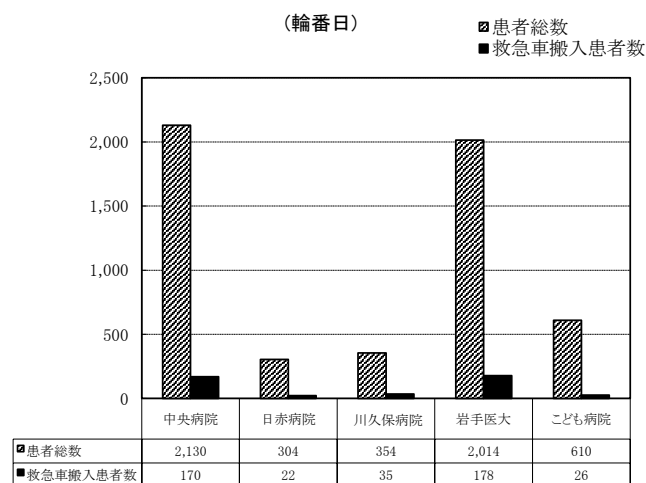


表 24 小児救急患者病院別合計表（輪番日）

平成 30 年 1 月～ 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,877	38.8	253	44.3	2,130	39.4	170	39.4
日 赤 病 院	259	5.4	45	7.9	304	5.6	22	5.1
川 久 保 病 院	347	7.2	7	1.2	354	6.5	35	8.1
岩 手 医 大	1,817	37.5	197	34.5	2,014	37.2	178	41.3
もりおかこども病院	541	11.2	69	12.1	610	11.3	26	6.0
合 計	4,841	100	571	100	5,412	100	431	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日）

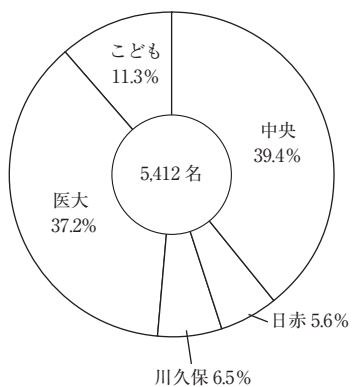
平成 30 年 1 月～ 12 月

病 院	外 患 者 数	入 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	10.67	1.43	12.10	0.97
日 赤 病 院	7.22	1.25	8.47	0.63
川 久 保 病 院	9.64	0.19	9.83	0.97
岩 手 医 大	9.94	1.06	11.01	0.97
もりおかこども病院	10.35	1.33	11.68	0.50
合 計	10.01	1.18	11.19	0.89

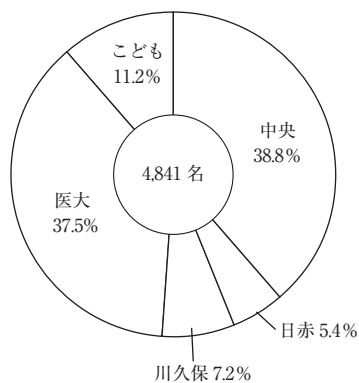
※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日）

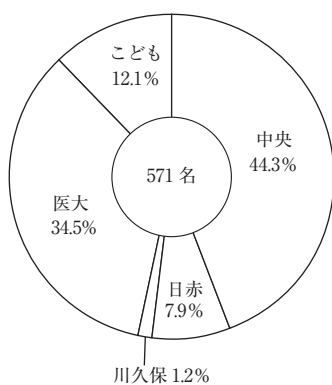
＜総患者比率＞



＜外来患者比率＞



＜入院患者比率＞



＜救急車搬入患者比率＞

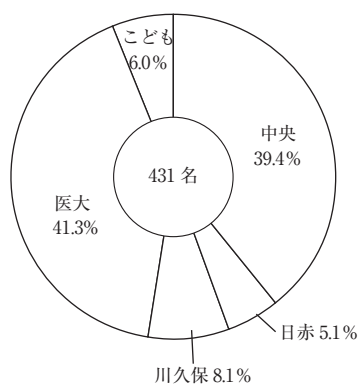


表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

平成 30 年 1 月～ 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	197	9.5	51	21.9	248	10.7	20	14.6
日 赤 病 院	63	3.0	23	9.9	86	3.7	6	4.4
川 久 保 病 院	613	29.5	2	0.9	615	26.6	6	4.4
岩 手 医 大	1,188	57.2	153	65.7	1,341	58.0	105	76.6
もりおかこども病院	17	0.8	4	1.7	21	0.9	0	0.0
合 計	2,078	100	233	100	2,311	100	137	100

表 27 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

平成 30 年 1 月～ 12 月

病 院	外 患 者 数	入 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.64	0.17	0.81	0.07
日 赤 病 院	0.14	0.05	0.19	0.01
川 久 保 病 院	1.33	0.004	1.34	0.01
岩 手 医 大	3.94	0.51	4.45	0.35
もりおかこども病院	0.04	0.01	0.05	0
合 計	1.07	0.12	1.19	0.07

※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

図 22 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）

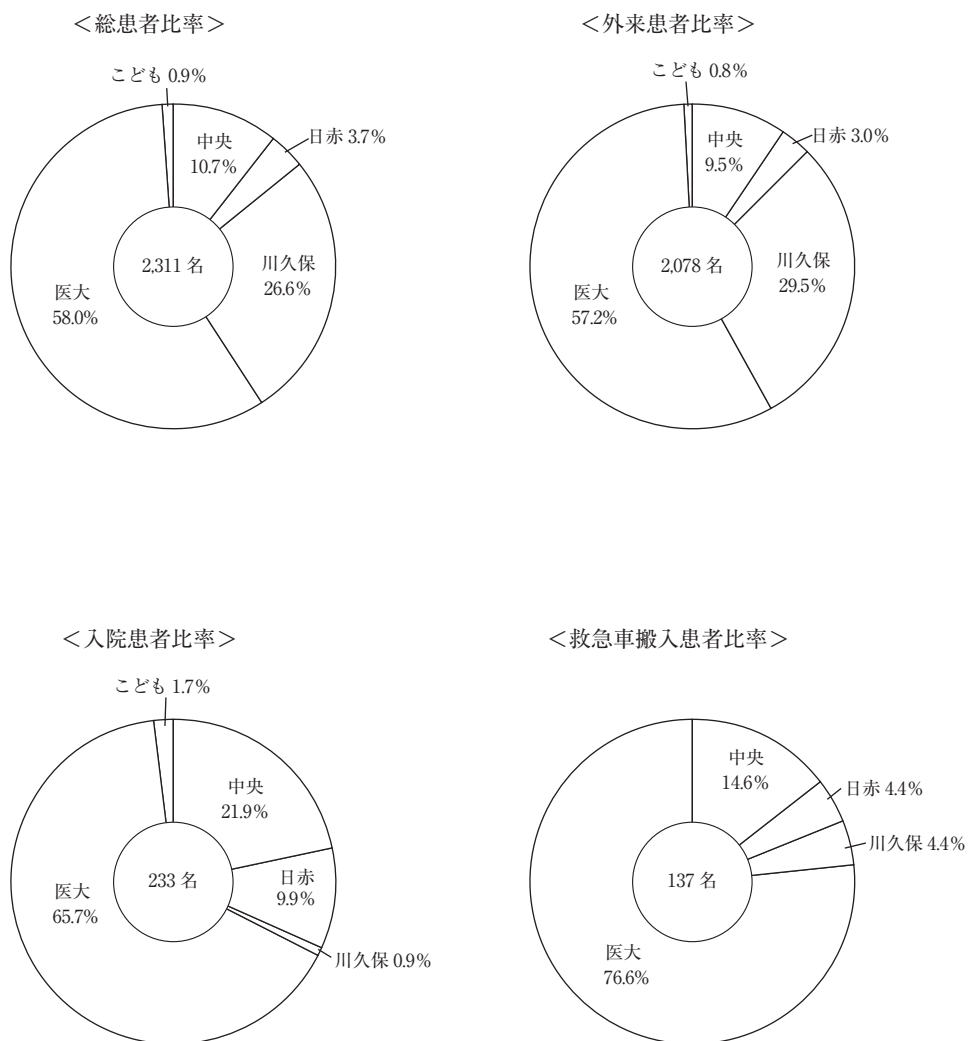


表 28 小児救急患者市町村別合計表（輪番日）

平成 30 年 1 月～ 12 月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	2,990	61.8	318	55.7	3,308	61.1
雫 石	88	1.8	10	1.8	98	1.8
葛 巻	11	0.2	0	0.0	11	0.2
岩 手	92	1.9	8	1.4	100	1.8
滝 沢	549	11.3	73	12.8	622	11.5
紫 波	283	5.8	39	6.8	322	5.9
矢 巾	304	6.3	43	7.5	347	6.4
八 幡 平	215	4.4	11	1.9	226	4.2
小 計	4,532	93.6	502	87.9	5,034	93.0
その他県内	161	3.3	47	8.2	208	3.8
県 外	148	3.1	22	3.9	170	3.1
合 計	4,841	100	571	100	5,412	100

表 29 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日）

平成 30 年 1 月～ 12 月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	6.18	61.7	0.65	55.6	6.83	61.1
雫 石	0.18	1.8	0.02	1.7	0.20	1.8
葛 巻	0.02	0.2	0.00	0.0	0.02	0.2
岩 手	0.19	1.9	0.02	1.4	0.21	1.9
滝 沢	1.13	11.3	0.15	12.9	1.29	11.5
紫 波	0.59	5.9	0.08	6.9	0.67	6.0
矢 巾	0.63	6.3	0.09	7.6	0.72	6.5
八 幡 平	0.45	4.4	0.02	1.9	0.47	4.2
小 計	9.37	93.6	1.03	87.9	10.41	93.0
その他県内	0.33	3.3	0.10	8.2	0.43	3.8
県 外	0.31	3.1	0.05	3.9	0.35	3.1
合 計	10.01	100	1.18	100	11.19	100

図 23 小児救急市町村別患者比率（輪番日）

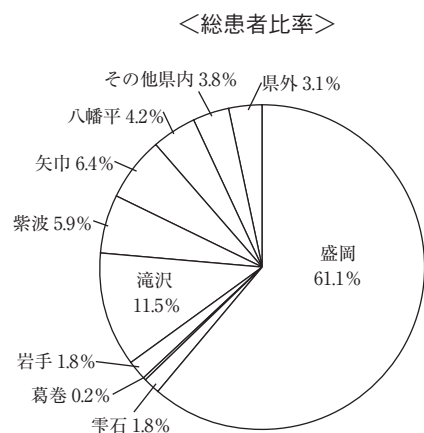


図 24 小児救急郡市別患者比率（輪番日）

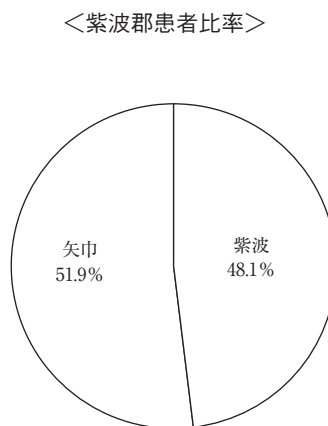
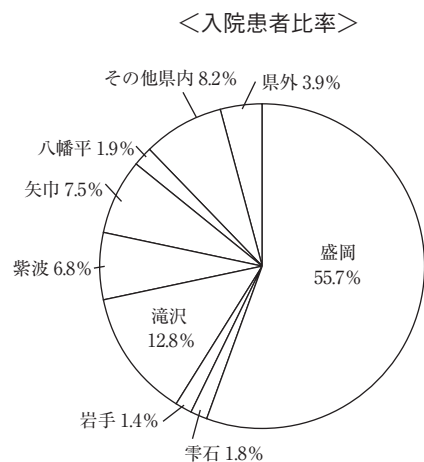
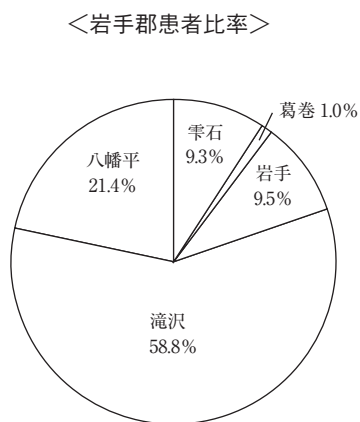
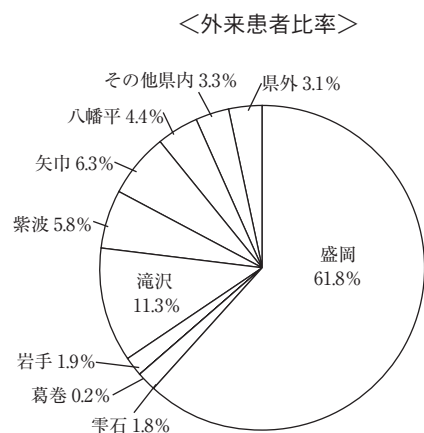
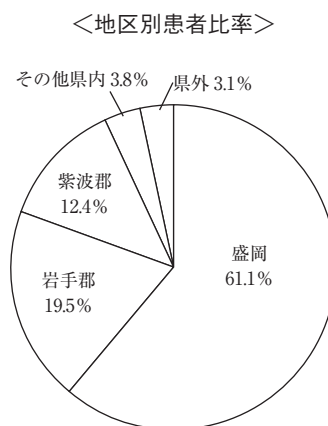


表 30 小児救急患者市町村別合計表（輪番日以外）

平成 30 年 1 月～ 12 月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	1,395	67.1	124	53.2	1,519	65.7
雫 石	27	1.3	3	1.3	30	1.3
葛 巻	1	0.05	0	0.0	1	0.04
岩 手	23	1.1	3	1.3	26	1.1
滝 沢	186	9.0	23	9.9	209	9.0
紫 波	134	6.4	11	4.7	145	6.3
矢 巾	129	6.2	13	5.6	142	6.1
八 幡 平	50	2.4	8	3.4	58	2.5
小 計	1,945	93.6	185	79.4	2,130	92.2
その他県内	69	3.3	42	18.0	111	4.8
県 外	64	3.1	6	2.6	70	3.0
合 計	2,078	100	233	100	2,311	100

表 31 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日以外）

平成 30 年 1 月～ 12 月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	0.72	67.2	0.06	53.4	0.78	65.8
雫 石	0.01	1.3	0.002	1.3	0.02	1.3
葛 巻	0.001	0.1	0.0	0.0	0.001	0.0
岩 手	0.01	1.1	0.002	1.3	0.01	1.1
滝 沢	0.10	9.0	0.01	9.8	0.11	9.1
紫 波	0.07	6.4	0.01	4.7	0.07	6.3
矢 巾	0.07	6.2	0.01	5.5	0.07	6.1
八 幡 平	0.03	2.4	0.003	2.6	0.03	2.4
小 計	1.00	93.6	0.10	79.5	1.09	92.2
その他県内	0.04	3.3	0.02	18.0	0.06	4.8
県 外	0.03	3.1	0.00	2.5	0.04	3.0
合 計	1.07	100	0.12	100	1.19	100

図 25 小児救急市町村別患者比率（輪番日以外）

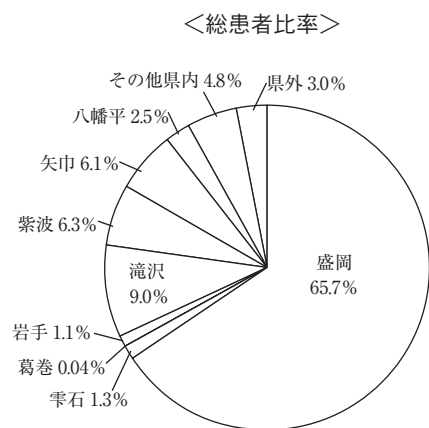
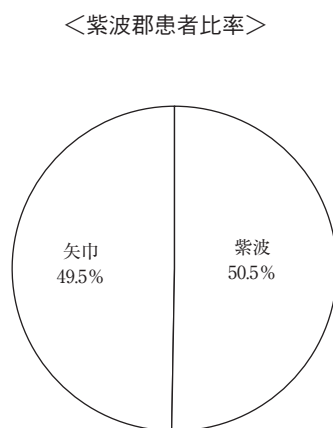
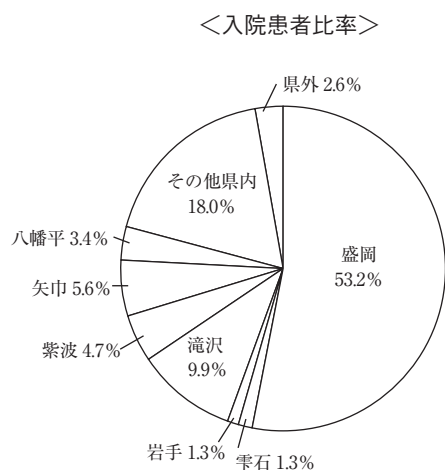
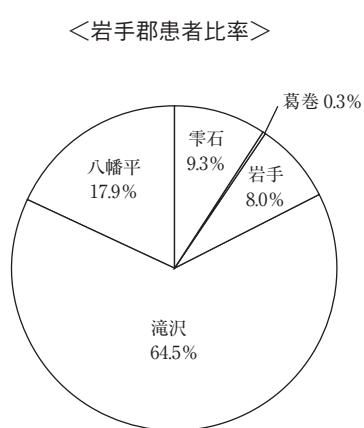
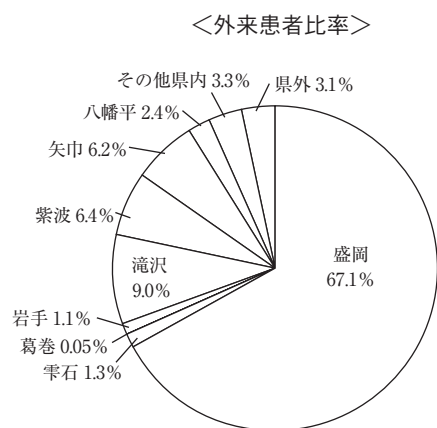
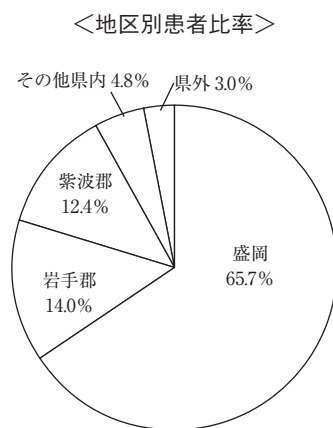


図 26 小児救急郡市別患者比率（輪番日以外）



2. 経過報告

- 平成30年 1月16日(火) 第159回小児救急電話相談事業事例検討会
30日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 2月13日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会(小児輪番に関わる)
14日(水) 平成29年度小児科救急医師研修(紫波郡医師会担当)
15日(木) 平成29年度盛岡市夜間急患診療所運営協議会
20日(火) 第160回小児救急電話相談事業事例検討会
27日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 3月9日(金) 盛岡地区二次救急病院事務長会議
20日(火) 第161回小児救急電話相談事業事例検討会
26日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
30日(金) 第14回岩手県小児救急電話相談事業運営協議会
- 4月17日(火) 第162回小児救急電話相談事業事例検討会
〃 第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 5月17日(木) 第163回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 6月19日(火) 第164回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 7月3日(火) 盛岡地区二次救急病院事務長会議
17日(火) 第165回小児救急電話相談事業事例検討会
24日(火) 平成30年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議
26日(木) 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会
27日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
31日(火) 第15回盛岡救急医療人のつどい
- 8月18日(土) 平成30年度盛岡市夜間急患診療所運営協議会・従事者打合せ会
21日(火) 第166回小児救急電話相談事業事例検討会
28日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 9月1日(土) 平成30年度盛岡市総合防災訓練
18日(火) 第167回小児救急電話相談事業事例検討会
27日(木) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 10月16日(火) 第168回小児救急電話相談事業事例検討会
29日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 11月7日(水) 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会(小児輪番に関わる)
20日(火) 第169回小児救急電話相談事業事例検討会
26日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 12月10日(月) 盛岡地区二次救急医療病院事務長会議
18日(火) 第170回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

3. 平成 30 年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議

日 時：平成 30 年 8 月 7 日（月） 午後 1 時
場 所：盛岡市保健所 7 階大ホール



【報告】

1) 平成 29 年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算について

(1)平成 29 年度盛岡地区二次救急医療事業決算書

(2)平成 29 年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急) 決算書

(1)、(2)の報告があり、問題無く了承された。

【協議】

1) 平成 30 年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について

(1)平成 30 年度盛岡地区二次救急医療事業予算書

(2)平成 30 年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急) 予算書

2) 平成 30 年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について

(1)平成 30 年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表

(2)平成 30 年度盛岡地区二次救急医療事業

市町別負担金割当表(小児救急)

1)、2) について収入、支出について昨年度とほぼ同じ予算、負担金割合が組まれた予算であった。病院群輪番制病院設備整備事業費補助金は盛岡つなぎ温泉病院へ補助される予定であることが説明された。

【その他】

1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会会計について

(1)平成 29 年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計決算書

(2) 成 30 年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計予算書

(1)、(2)について盛岡市医師会事務局より報告があり、いずれについても了承された。

(久保直彦)

平成30年度 盛岡地区二次救急医療関係市町会議 出席者名簿

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長 和田 利彦 盛岡市医師会（会長）
 常任委員 野崎 英二 盛岡市医師会（副会長）
 常任委員 吉田耕太郎 盛岡市医師会（副会長）
 常任委員 金子 博純 盛岡市医師会（副会長）
 常任委員 本間 博 盛岡市医師会（総括部長）
 常任委員 橋本 真生 盛岡市医師会（総務部長）
 常任委員 久保 直彦 盛岡市医師会（救急医療対策部長）
 事務局長 及川敬一郎 盛岡市医師会（事務局長）
 事務局員 水本 達彦 盛岡市医師会（次長）
 事務局員 谷藤 慎治 盛岡市医師会（係長）

県央保健所

医療介護課長 川村 康範

八幡平市

健康福祉課長 渡辺 信

滝沢市

健康推進課長 猿舘 睦子

雫石町

健康推進課長 柳屋るり子

葛巻町

健康福祉課長 楢木 幸夫

岩手町

健康福祉課長 民部田政彦
 健康福祉課地域医療対策室長 本田 桂一

紫波町

健康福祉課長 工藤 圭三

矢巾町

健康長寿課健康づくり係長 高谷 幸子

盛岡市

保健所長 高橋 清実
 保健所次長兼企画総務課長 藤井 優子
 保健所企画総務課課長補佐 佐々木一憲
 保健所企画総務課医事薬事係長 宮野 直子
 保健所企画総務課医事薬事係主任 田沼由紀枝

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：平成 30 年 2 月 27 日（火） 午後 7 時
場 所：盛岡グランドホテル



【報告】

1. 1 月分患者データについて

総数 5,233 名、救急車搬送数 796 名と前年比、先月比で増加した。参考として夜間急患診療所 941 名と前月比 350 名増加した。インフルエンザの流行の影響と思われる。

2. 28 ～ 29 年の患者データについて：

(1) 二次救急：総数 51,137 名と前年比 3,500 名減少した。救急車搬送数は 8,216 名と前年比 500 名増加した。

(2) 小児救急：小児輪番日 5,491 名と前年比 500 名減少した。非輪番日は 2,666 名と 300 名減少した。

(3) 休日救急当番医・夜間急患診療所：ともに前年比で減少した。

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（2/13）

来年度の診療体制、輪番日コマ数などについて話し合い、来年度も現体制を維持することで合意した。一部週末の輪番日につ

いて変更した。

4. 第 160 回小児救急電話相談事業事例検討会（2/20）および平成 29 年 1 月～ 12 月分データについて

5. 3 月分二次救急病院当番表について：事前に変更なく了承された。

【協議】

1. 平成 30 年度二次・小児当番表（案）について：原案の通り了承された。

2. 平成 30 年 4 月～ 6 月分の小児救急当番表（案）の公表について：原案の通り（小委員会で一部変更案）了承された。

3. 平成 30 年度二次救急対策委員会運営予算（案）について：原案の通り了承された。

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員の任期満了について：盛岡市医師会の役員改選に伴い、新委員の推薦を 4 月上旬頃に依頼予定。

5. 医大移転に伴う今後の救急医療体制について：大きな話題はなかった。

6. 今後の日程について

7. その他

盛岡地域救急高度化推進協議会に参加した委員より、特定行為実施患者の搬送に関して話題提供があった。救急救命士による特定行為を行った場合にはその特定行為

指示病院へ搬送するのが原則であるが、例えば終末期患者で、患者、家族、主治医と事前の合意がある場合には主治医の元へ搬送が可能とする案について意見交換した。

(久保直彦)

出席者		
委員長	和田利彦	
常任委員		
井上義博	小山耕太郎	須原誠
田中健太郎	近藤公亮	久保直彦
宮田剛	関博文	野崎英二
吉田耕太郎	金子博純	本間博
金濱誠己	久保田公宜	小林有一
智田文徳	佐藤直也	臼井由紀子
委員		
杉山徹	(井上義博)	森野禎浩
望月泉	松田壯正	加藤章信
千葉知	高松正之 (代理)	高松三郎
白石秀夫	遠藤重厚	田村茂
菊池喜博	米沢俊一	八角有紀
高橋邦尚	木村宗孝	
岩手県県央保健所		
所長	菅原智	
医療介護課主事	坂下雄飛	
盛岡市保健所		
所長	高橋清実	
次長兼企画総務課長	藤井優子	
盛岡市医師会事務局		
事務局長	及川敬一郎	
次長	水本達彦	
係長	佐藤泰之	

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：平成 30 年 6 月 25 日（月） 午後 7 時
場 所：ホテルロイヤル盛岡



【報告】



1. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員について：新委員の紹介があった。

2. 5 月分患者データに

和田利彦 委員長 ついて：二次救急患者の総数は 4,475 名で例年並みであったが、救急車搬送が 754 名と増加した。小児救急輪番日総数は 466 名と例年同様であった。輪番日以外は 161 名と減少している。

3. 平成 29 年度の患者データについて：昨年度の二次救急、小児救急、休日救急当番医・夜間急患診療所のデータ報告があった。二次救急：総数 52,033 名と前年より減少し、救急車搬入数は 8,486 名と増加した。小児救急：輪番日総数 5,786 名と前年より増加したが、輪番日以外は 2,628 名と減少した。

2. 第 164 回小児救急電話相談事業事例検討会（6/19）及び H29. 4 月から H30. 5 月ま

でのデータについて：平成 30 年 5 月分の合計相談件数は 376 件（1 日平均 12.1 件）、4 月は 374 件（1 日平均 12.5 件）、前年度同月は 391 件と比較して 15 件減少であった。平成 29 年度の相談総数は 3,988 件と前年より 685 件増加した。

5. 「第 15 回盛岡救急医療人のつどい」の開催について：「終末期類似状態患者の救急対応（心肺蘇生）のあり方」をテーマに 7 月 31 日（火）午後 7 時より盛岡グランドホテルにて開催される。

6. 第 36 回救急医療学術講演会について：瀧健治 札幌東徳洲会病院 救急科センター長を講師に迎え、平成 30 年 9 月 7 日（金）午後 6 時 40 分より開催される。

7. 病院名の変更について：独立行政法人国立病院機構盛岡病院の名称が、平成 31 年 4 月より独立行政法人国立病院機構盛岡医療センターに改称される。

【協議】

1. 7月分二次救急病院当番表について：原案通り了承された。
2. 10月～12月分の小児救急入院受入当番表（案）及び平成30年度二次・小児輪番日程表（8月以降）について：事務局案通りに了承された。
3. 平成30年度盛岡市総合防災訓練への参加について：9月1日土曜日開催であるため、主として病院が参加し、患者受け入れ訓練を国立病院機構盛岡病院で行われることが了承された。
4. 平成29年度二次救急対策委員会一般会計及び特別会計決算について：事務局より決算報告があり、原案通り了承された。
5. 医大移転後の救急医療体制について：小

笠原病院長より、矢巾移転後の、現時点での外来、救急体制構想の説明があったが、未決定であるので診療体制確定後に救急体制の協議を行うことになった。

（久保直彦）



出席者			
委員長	和田 利彦		
常任委員	井上 義博 吉田 幸恵 吉田 耕太郎 間 博生 橋本 真宣 久保田 公宜 臼井 由紀子	小近 山 耕太郎 藤 子 公亮 金子 保 純彦 久佐 藤 直也 小 林 有 一	須野 原 誠 崎馬 英二 相馬 文 智田 誠 金濱 博 関 文
委員	小笠原 邦昭 松田 壮正 千葉 知夫 白石 秀一 米沢 俊一	森加 野 禎 浩 高 藤 章 信 田 松 正 之 高 村 茂 高 橋 邦 尚	宮田 剛 遠藤 厚 菊池 博 八角 紀 木 村 宗 孝
岩手県県央保健所			
所 長	野 原 勝		
次 長	高 橋 幸 代		
盛岡市保健所			
所 長	高 橋 清 実		
次長兼企画総務課長	藤 井 優 子		
盛岡市医師会事務局			
事務局長	及 川 敬一郎		
次 長	水 本 達 彦		
係 長	佐 藤 泰 之		
係 長	谷 藤 慎 治		

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：平成 30 年 11 月 26 日（月） 午後 7 時
場 所：ホテルロイヤル盛岡



【報告】

- 1) 10 月分患者データについて：総数 3,684 名、救急車 656 台と昨年、先月に比較して大幅に減少した。小児救急も輪番日 362 名、輪番日以外 121 名と減少した。
- 2) 平成 29 年～30 年の患者データについて：平成 30 年は月平均 4,344 名と例年並みで推移している。
- 3) 第 169 回小児救急電話相談事業事例検討会（11/20）及び平成 29 年 10 月から平成 30 年 10 月までのデータについて
- 4) 盛岡地域メディカルコントロール協議会の書面会議の実施結果について：特定行為に関して、特定行為指示医療機関以外への搬送が認められるようになった。
- 5) 医療提供体制推進事業費補助金（医療提供体制設備整備事業）について：平成 31 年度は川久保病院の事業計画書を妥当とした。
- 6) 平成 30 年度小児科医師研修事業プロッ

ク別研修会の開催について：平成 30 年 11 月 28 日盛岡市医師会館で開催予定である。

【協議】

- 1) 12 月分二次救急病院当番表について：提案通り了承された。
- 2) 平成 31 年 1 月～3 月分の小児入院受入病院当番表（案）について：3 月 23 日、30 日（土）の日中の当番病院の変更があり了承された。
- 3) 2019 年 9 月の二次救急・小児救急輪番担当病院の変更について（岩手医科大学附属病院より）：2019 年 9 月 21 日岩手医科大学付属病院の矢巾移転のため、同年 9 月 19 日～24 日までの二次、小児救急受け入れ病院の除外要望があり了承された。
- 4) 小児救急輪番病院制への加入申込について（国立病院機構盛岡病院より）：国立病院機構盛岡病院より小児救急輪番病院加入の申し込みがあり了承された。

5) 平成 31 年度二次救急・小児救急輪番について:平成 31 年度は天皇即位によるゴールデンウィークの長期休日と岩手医大の移転という大きな行事がある。また小児救急輪番病院では新規参加する国立病院機構盛岡病院の救急診療開始時期がまだ未確定であるなどの不確定要素がある。平成 31 年度案は 12 月 25 日開催の常任委員会までに作成し、委員、各病院で検討していただいた後、1 月末の常任委員会で決定し 2 月開催の対策委員会で承認を得ることが了承された。

6) 広報もりおかへの年末年始の救急医療態勢記事掲載について:紙面の都合で例年より拡大枠で掲載される予定である。

7) 医大移転に伴う今後の救急医療体制につ

いて:本院移転後の救急診療体制については、岩手医科大学内丸医療センター(仮称)は、平日 17 時から 21 時まで一次救急のみ診療する。矢巾本院はこれまで通り全科当直にて対応する予定である。移転後の対応として、特に初期救急患者が重症入院受け入れ(A群)病院に集中しないように、夜間急患診療所、内丸医療センター、休日当番医への受診と、地域の二次救急B群病院、救急告知病院の受診を促していくために、マスコミ、医師会ホームページなどにより市民へ周知していく方針が了承された。

(久保直彦)

出席者名簿

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長	和田 利彦	
常任委員	井上 義博	小山耕太郎
	須原 誠	吉田 幸恵
	近藤 公亮	野崎 英二
	吉田耕太郎	金子 博純
	相馬 淳	本間 博
	久保 直彦	智田 文徳
	橋本 真生	佐藤 直也
	金濱 誠己	久保田公宜
	小林 有一	関 博文
	臼井由紀子	
委員	小笠原邦昭	森野 禎浩
	宮田 剛	松田 壮正
	加藤 章信	遠藤 重厚
	(代理 佐々木一裕)	
	千葉 知	高松 正之
	菊池 喜博	白石 秀夫
	田村 茂	八角 有紀
	米沢 俊一	高橋 邦尚
	木村 宗孝	

岩手県県央保健所

所長	野原 勝
次長	高橋 幸代

盛岡市保健所

所長	高橋 清実
次長兼企画総務課長	藤井 優子

盛岡市医師会事務局

事務局長	及川敬一郎
次長	水本 達彦
係長	佐藤 泰之
係長	谷藤 慎治

5. 盛岡地区二次救急医療対策小委員会

と き：平成 30 年 11 月 7 日（水） 午後 7 時

ところ：盛岡市医師会館 会議室

司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部

部 長 久 保 直 彦

出席者

岩手医科大学小児科学講座	助教（医局長）	和 田 泰 格
岩手県立中央病院	小児科長	三 上 仁
盛岡赤十字病院	小 児 科	渡 辺 悠 太
もりおかこども病院	院 長	米 沢 俊 一
〃	副 院 長	佐々木 美 香
川久保病院	小児科長	蒔 苗 剛
盛岡市医師会小児科医会	会 長	白 井 由紀子
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	久 保 直 彦
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常任委員	
盛岡市医師会	副 会 長	野 崎 英 二
〃	〃	吉 田 耕太郎
〃	〃	金 子 博 純
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常任委員	金 濱 誠 己
〃	〃	小 林 有 一

— 次 第 —

挨拶

議 題

1. 小児輪番制に関するお願いについて（こども病院より）
 - ・平成 31 年 4 月からもりおかこども病院の診療所化に伴い、病院閉鎖準備のため平成 31 年 3 月 23 日（土）、3 月 31 日（土）の輪番を県立中央病院、岩手医科大学附属病院に変更することが了承された。
2. 各小児救急輪番病院の現状と要望事項等について
3. 平成 31 年度小児救急輪番表（案）について
 - ・国立病院機構盛岡病院が 4～6 月の準備期間を経て 7 月頃をめどに参加することについて同意を得た。

平成 31 年度は、1) 天皇即位による祝日が増えるためゴールデンウィークが 4 月 27 日（土）～5 月 6 日（月祝）の 10 連休になること、2) 岩手医科大学附属病院移転に伴い救急診療の中断期間の 2 つの大きな行事があることから、この期間について各病院に協力を依頼した。

なお、1) については国立病院機構盛岡病院を除く 4 病院で対応し、川久保病院にも休日診療を依頼。2) については移転前週末まで医大に輪番診療を依頼し、入院患者については各病院へ転院治療を依頼する。
4. 盛岡市及び近隣市町村広報での小児救急の周知について

6. 第15回盛岡救急医療人のつどい

日 時：平成30年7月31日（火） 午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



1. 挨拶



盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療
対策委員会
和田 利彦 委員長

2. 研修会及びディスカッション

テーマ：「終末期類似状態患者の救急対応（心肺蘇生）のあり方」

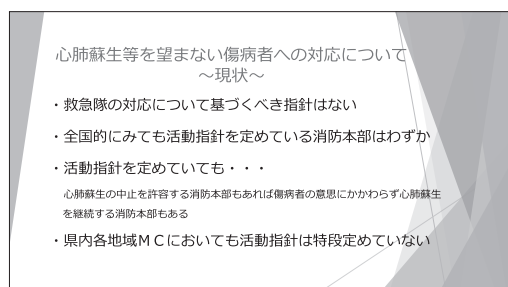
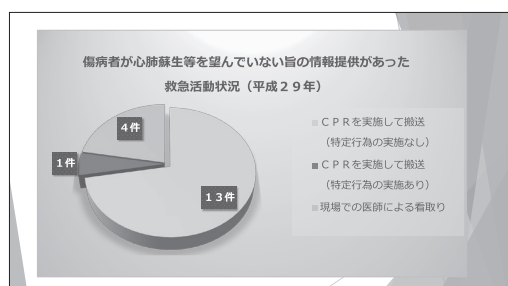
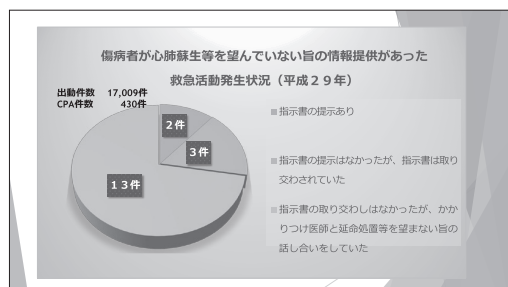


演題1：「DNAR指示書を
提出された救急活動事例
と救急隊の現状について」
講師：盛岡地区広域消防組
合 紫波消防署
小寺 潤 消防士長

講演要旨：救急要請された患者が心肺蘇生な

どを希望していない事例が発生している。しかし救急隊は各病態に応じた必要な医療行為を行うことを義務付けされており、心肺蘇生を望まない傷病者への対応について基づく指針はない。各メディカルコントロール委員会（MC）により対応が異なるのが現状である。紫波消防署管内で、Do Not Attempt Resuscitation（DNAR）指示がある、蘇生処置を望まないという家族の申し出があった3事例を提示する。いずれも指示書など確認できず、家族に説明の上必要な処置を行い搬送した。救急隊は、救急業務の原則と傷病者の意思の尊重という間に立ち苦慮することがある。今後このようなケースに対しては、法の整備、地域MCとの協議、患者家族、施設職員の教育が必要であると思われる。総務省消防庁の平成30年度救急業務のあり方に関する検討会で「傷病者の意思に沿った救急現場における心肺蘇生の実施に関する検討部会」が

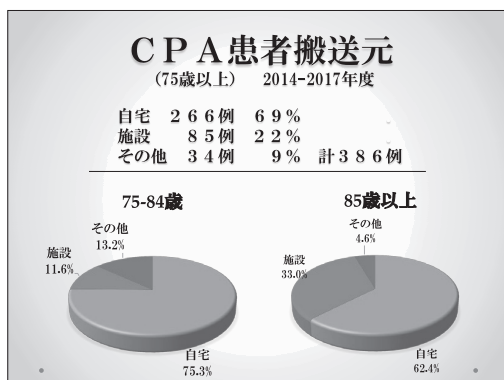
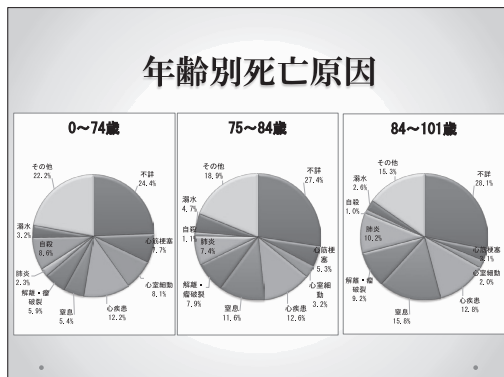
立ち上がった。傷病者個人の意思決定を尊重した活動ができるような活動要領の策定が早期に必要であると思われた。

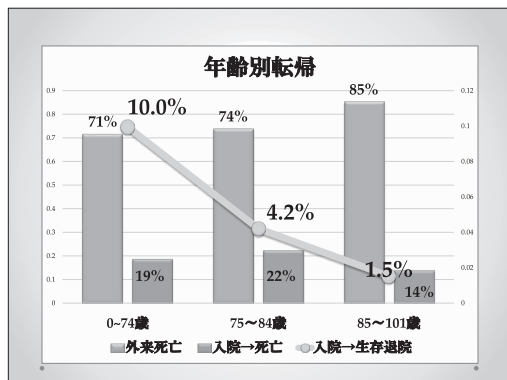


演題2：「高齢者心肺停止症例の現状と課題」
岩手県立中央病院
須原 誠 救急医療部長

講演要旨：近年、県立中央病院では年間約7,000件の救急車による搬送者を受け入れ、CPA患者は年間150名以上で、85歳以上の患者の割合が増加している。その75%は自宅からの搬送であるが、85歳以上では施設からの搬送が増えている。また高齢になればなるほ

ど転帰は不良である。97歳の女性が次第に衰弱し心肺停止に至り、救急要請されCPR対応した症例を提示する。このような人生の最終段階にある傷病者に対して、型通り心肺蘇生を行うことについては考慮を要する。平成29年日本臨床救急医学会より「人生の最終段階にある傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生などのありかたに関する提言」が出ている。今後の課題として、Advance Care Planning（ACP）や事前指示書準備の普及、心肺蘇生等を希望しない場合の救急隊活動指針やプロトコル策定、心肺蘇生等を中止した後の対応方法、そもそも救命を望まない場合は救急要請に至らないような社会的システムの構築が必要で、医療機関（医師会）、消防、介護・福祉関係および患者・家族（住民）の理解と協力が不可欠である。個人の尊厳が重んじられ、患者の意思がより尊重され、人生の最終段階を穏やかに過ごすことができる社会環境の整備が必要と思われる。





指定発言：「在宅患者について」

講師：医療法人葵会 もり
おか往診ホームケアクリ
ニック

木村 幸博 院長

講演要旨：当施設では1年間に10,471回の訪問診療を行い、往診は1,414回、夜間休日は363回である。患者内訳はガン終末期23%、

脳血管障害20%、認知症精神疾患17%である。在宅診療が得意とする患者は、器質性病疾患で入院したが、せん妄で管理ができなくなり自宅で過ごすことになった症例などである。急変時には可能な限り対応し、病態により救急搬送を依頼することもある。看取りは約16年間で4,314例で、うち末期がん患者は1,706例（56%）である。休日夜間帯の看取りが約半数である。

3. 質疑応答、意見交換：岩手県MC協議会では、上記の講演のような状況に配慮し、終末期患者の救急搬送先を拡大し、患者、家族の意思に沿った配慮することを協議中であるとの報告があった。

4. 情報交換会 寺口消防次長の乾杯で懇親会が開催された。参加者数は医師46名、従事者（看護師・事務等）53名、消防関係者71名の計170名と盛会であった。

（久保直彦）

7. 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会

日 時：平成 30 年 7 月 26 日（木） 午後 7 時
場 所：ホテル東日本盛岡



和田利彦会長、村上秀樹保健福祉部長、藤澤忠範子ども未来部長の順に挨拶の後、出席者の紹介があり議題に移った。

(1)平成 30 年度盛岡市保健福祉部・子ども未来部主要事業について説明があり、保健福祉部の新規事業として長寿社会課で「生活支援コーディネーター」の配置及び「認知症地域支援推進員」の増員、地域包括支援センターの充実、介護保険課では介護従事者確保事業で介護施設体験学習事業の開催、生活福祉第一課・第二課では「就労準備支援事業」、子ども未来部の新規事業として、子ども青少年課で、児童虐待の発生防止のため「子ども家庭総合支援センター」設置などが説明された。

(2)盛岡市医師会からの要望事項について、①盛岡市乳幼児インフルエンザ予防接種補助金交付事業について、②乳幼児総合審査後の受け入れ機関の充実について、③新生児聴覚スクリーニング検査の公費負担による一層の促進について回答があり、3 要望事項につい

ては行政も理解を示しており前向きな回答が得られた。

盛岡市医師会からの要望事項に対する回答
要望事項 No. 1

盛岡市幼児等インフルエンザ予防接種補助金交付事業について

1. 補助金交付事業の開始時期について

毎年 9 月下旬には市民からのインフルエンザ予防接種の問い合わせが始まります。

また、インフルエンザが 10 月中に発生する年も増えてきています。他県では補助金助成を 10 月 1 日より開始するところもありますので、盛岡市でもインフルエンザ予防接種補助金交付事業を 10 月 1 日から開始していただきますようお願いいたします。

2. 実施報告書・予診票の配布について

予診票は必要に応じて保健所へ連絡すれば送付して頂けるとのことでしたが応じて

もらえないことがありました。予診票の不足を医療機関でコピーして使用することも認められておりません。予診票が不足ないように医療機関に対して十分な枚数を配布していただきますようお願いいたします。

回答（保健予防課）

1. 補助金交付事業の開始時期について

開始時期を早めることにつきましては、平成30年度内での対応は困難であるものと存じますが、10月1日からの実施はインフルエンザのまん延防止に資するものと存じており、平成31年度以降の実施に向けて検討してまいります。なお、このことにつきましては、滝沢市、紫波町、矢巾町とも協議し、足並みを揃えた対応となるよう取り進めたいと存じます。

2. 実施報告書・予診票の配布について

各医療機関あてにお送りいたします予診票につきましては、前年度実績を基にした当初発送分のほか、御連絡をいただいた都度、各医療機関あてにお送りしております。在庫数の関係から、御要望の数を一度にお送りすることができない場合もありますことから、御理解いただきますようお願いいたします。なお、予診票のコピーにつきましては、今回、様式を整理しましたので、差し支えないものと存じております。

要望事項 No.2

乳幼児総合診査後の受け入れ機関の充実について

乳幼児総合診査後の受け入れ機関には、親子教室やひまわり学園、いるか教室などがありますが、いずれの機関においても年度の早い段階で定員越えてしまい、受け入れ機関の不足が問題となっております。受け入れ機関の充実と拡大活用をお願いいたします。

また、言語聴覚士や整形外科医など、現

場で働くスタッフも足りない状況が続いております。言語聴覚士からは「人手が足りず検査に十分な時間を掛けられない、場所が不備で適切な検査が実施できない」と声が上がっております。整形外科医も現場不在となり、2年余り経過しましたがまだ不在のままです。スタッフについても是非とも充実させて下さるようお願いいたします。

回答（母子健康課、障がい福祉課）

乳幼児総合診査後の受け入れ機関につきましては、親子教室においては、精神発達の遅れや行動上の問題が認められる乳幼児を受け入れ、障がいの早期発見と適切な療育に繋げることにより子どもの良好な発達を促していることから、今後の受け入れについても工夫しながら対応してまいりたいと存じます。

また、ひまわり学園及びいるか教室においては、定員を超えて受け入れているところであり、施設の情報や利用状況を確認し、保護者に対して情報提供してまいりたいと存じます。また、ひまわり学園やいるか教室のほかにも、未就学の障がい児を対象とする通所施設は14施設あります。

次に、言語聴覚士からの「人手が足りず検査に十分な時間を掛けられない、場所が不備で適切な検査ができない。」との指摘につきましては、総合診査常任委員と言語聴覚士、母子健康課の三者で協議を行い、対象児に合った検査方法について確認し、検査場所については、言語聴覚士ごとに別々の部屋を確保することとしたところがありますが、今後も円滑な総合診査の運営につきまして御意見を伺いながら進めてまいりたいと存じます。

次に、整形外科医の不在につきましては、現在、暫定的な対応として、理学療法士と作業療法士に従事いただき、必要時専門機

関へ紹介する対応としておりますが、今後、常任委員の先生方の御意見を伺いながら、人材の確保と充実に努めてまいりたいと存じます。

要望事項 No.3

新生児聴覚スクリーニング検査の公費負担による一層の促進について

出生後早期の聴覚スクリーニング検査は、聴覚異常の早期発見に役立ち、治療により予後の改善が認められています。産婦人科診療ガイドラインでは、検査を実施し母子健康手帳に結果を記載することを推奨度Bと定めており、実施しない事で結果的に難聴の早期治療が遅れた場合に責任を追及される可能性が出てきています。

この事業は国からの補助が地方交付税の形で一般財源化されており、2016年には厚生労働省母子保健課長から改正通知も発出され、市町村における一層の取り組みを促進しております。岩手県はスクリーニング体制が整っていますが、費用は殆どが患

者の負担となっています。新生児難聴を早期に発見し、早い段階で治療に入れるように公費負担による検査を実施して頂けるよう宜しくお願い致します。岩手県でも公費負担による実施が決定した市町村も増えてきていますので妊婦健診と同様に全市町村での早期実施を望みます。盛岡市でも実施に向けて更なるご検討の程宜しくお願いいたします。

回答（母子健康課）

新生児聴覚スクリーニング検査につきましては、検査により聴覚障害が早期に発見された場合は、適切な支援が行われ、障がいによる音声言語発達等への影響が最小限に抑えられることから、聴覚異常の早期発見に重要であると認識しておりますので、すべての新生児を対象として検査できるよう、本市においても公費負担に向け検討してまいりたいと存じます。

（工藤卓次）

出席者名簿

盛岡市医師会

会 長	和 田 利 彦	和田内科医院
副会長	野 崎 英 二	岩手県立中央病院 循環器内科
副会長	吉 田 耕太郎	産科婦人科吉田医院
副会長	金 子 博 純	金子胃腸科内科
理事（総括部長）	本 間 博	本間内科医院
理事（総務部長）	橋 本 真 生	はしもと眼科クリニック
理事（救急医療対策部長）	久 保 直 彦	盛岡赤十字病院 脳神経外科
理事（地域医療部長）	工 藤 卓 次	くどう医院
理事（保険部長）	鈴 木 知 己	鈴木内科医院
理事（地域医療部）	金 濱 誠 己	杜のこどもクリニック
理事（検診部長）	久保田 公 宣	久保田医院
理事（母子保健・思春期保健対策部長）	小 林 有 一	小林小児科クリニック
理事（看護学院部長）	智 田 文 徳	未来の風せいわ病院 精神科
理事（学幼保医部長）	千 葉 隆 史	ちば耳鼻咽喉科クリニック
理事（産業保健部長）	佐 藤 直 也	なおや脳神経・頭痛クリニック
事務局長	及 川 敬一郎	
次 長	水 本 達 彦	

盛 岡 市

保健福祉部

部長	村 上 秀 樹
次長	藤 原 真 人
参事兼生活福祉第一課長	大志田 進
地域福祉課長	藤 澤 多津子
障がい福祉課長	野 中 隆
長寿社会課長	下 田 法 子
介護保険課長	大志田 佳 子
生活福祉第二課長	舩 越 慈
(盛岡市保健所)	
保健所長	高 橋 清 実
次長兼企画総務課長	藤 井 優 子
参事兼生活衛生課長	佐 藤 圭
健康増進課長	工 藤 弘 幸
保健師長	小田島 晃 子
保健予防課長	梅 原 格
子ども未来部	
部長	藤 澤 忠 範
次長	石 橋 浩 幸
参事兼母子健康課長	根 本 雅 子
子ども青少年課長補佐	佐久山 久美子
子育てあんしん課長	藤 本 耕 也

8. 二次救急病院事務長会議

日時：平成 30 年 3 月 9 日（金） 午後 1 時

場所：盛岡市医師会館 会議室

盛岡市医師会 会 長 和 田 利 彦
副 会 長 野 崎 英 二
副 会 長 吉 田 耕 太 郎
副 会 長 金 子 博 純
総務部長 本 間 博
救急医療対策部長 久 保 直 彦

岩手医科大学附属病院
病院事務部長 齋 藤 俊 哉
医事課長 本 舘 孝 信

岩手県立中央病院
事務局長 小笠原 一 行

盛岡赤十字病院
事務部長 野 田 博 克

盛岡市立病院
医事課長 中 村 浩 三

遠山病院
事務部長 千 葉 俊 祐

栃内病院
事務部長代理 中 田 ヨシ子

高松病院
事 務 長 福 田 雄 介

盛岡つなぎ温泉病院
事 務 長 吉 田 譲 治

盛岡友愛病院
事 務 長 小 原 孝 文

川久保病院
事 務 長 片 方 直 樹

独立行政法人国立病院機構盛岡病院
事務部長 曾 我 理

もりおかこども病院
事務副部長 木 村 正 樹

八角病院
事 務 長 藤 原 正 孝

盛岡市保健所
企画総務課 医事薬事係長 開 米 洋

盛岡市医師会事務局
事務局長 及 川 敬一郎
次 長 水 本 達 彦
係 長 佐 藤 泰 之

一 次 第 一

挨拶
盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長
盛岡市医師会会長 和 田 利 彦

報 告

1. 1 月分患者データについて
2. 28 ～ 29 年の患者データについて
 - (1) 二次救急
 - (2) 小児救急
 - (3) 休日救急当番医・夜間急患診療所
3. 第 160 回小児救急電話相談事業事例検討会（2/20）及び H29.1 月～12 月分データについて
4. 3 月分二次救急病院当番表について
5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（2/13）
6. 平成 30 年度二次・小児当番表（案）について
7. 平成 30 年 4 月～6 月分の小児救急当番表の公表について
8. 平成 30 年度二次救急対策委員会運営予算について
9. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員の任期満了について
10. 医大移転に伴う今後の救急医療体制について

二次救急病院事務長会議

日時：平成 30 年 7 月 3 日（火） 午後 1 時
場所：盛岡市医師会館 2 階会議室

盛岡市医師会 会 長 和 田 利 彦
副 会 長 野 崎 英 二
副 会 長 吉 田 耕 太 郎
副 会 長 金 子 博 純
総括部長 本 間 博
総務部長 橋 本 真 生
救急医療対策部長 久 保 直 彦

— 次 第 —

挨拶
盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長
盛岡市医師会会長 和 田 利 彦

報 告

1. 1 月分患者データについて
2. 28 ～ 29 年の患者データについて
 - (1) 二次救急
 - (2) 小児救急
 - (3) 休日救急当番医・夜間急患診療所
3. 第 160 回小児救急電話相談事業事例検討会（2/20）及び H29.1 月～12 月分データについて
4. 3 月分二次救急病院当番表について
5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（2/13）
6. 平成 30 年度二次・小児当番表（案）について
7. 平成 30 年 4 月～6 月分の小児救急当番表の公表について
8. 平成 30 年度二次救急対策委員会運営予算について
9. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員の任期満了について
10. 医大移転に伴う今後の救急医療体制について

岩手医科大学附属病院
病院事務部長 塚 澤 仁 敏
医事課長 本 館 孝 信
岩手県立中央病院
事務局長 小笠原 一 行
盛岡赤十字病院
事務部長 野 田 博 克
盛岡市立病院
事務局長 佐 藤 輝 男
遠山病院
事務部長 千 葉 俊 祐
栃内病院
事務部長代理 中 田 ヨシ子
高松病院
事 務 長 小野里 雅 貴
盛岡つなぎ温泉病院
事務部長 吉 田 譲 治
盛岡友愛病院
事 務 長 小 原 孝 文
川久保病院
事務長 片 方 直 樹
独立行政法人国立病院機構盛岡病院
事務部長 曾 我 理
もりおかこども病院
事務副部長 木 村 正 樹
八角病院
事 務 長 藤 原 正 孝

盛岡市保健所
企画総務課 医事薬事係長 宮 野 直 子

盛岡市医師会事務局
事務局長 及 川 敬一郎
次 長 水 本 達 彦
係 長 佐 藤 泰 之
係 長 谷 藤 慎 治

二次救急病院事務長会議

日時：平成 30 年 12 月 10 日（月） 午後 7 時
場所：ホテルニューカーナ

盛岡市医師会 会 長 和 田 利 彦
副 会 長 野 崎 英 二
副 会 長 吉 田 耕 太 郎
副 会 長 金 子 博 純
総括部長 本 間 博 生
総務部長 橋 本 真 生
救急医療対策部長 久 保 直 彦

— 次 第 —

挨拶
盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長
盛岡市医師会会長 和 田 利 彦

報 告

岩手医科大学附属病院 医事課長 本 舘 孝 信
病院企画課長 佐 藤 嘉 英
岩手県立中央病院 事務局長 小笠原 一 行
盛岡赤十字病院 事務部長 野 田 博 克
盛岡市立病院 事務局長 佐 藤 輝 男
遠山病院 事務部長 千 葉 俊 祐
栃内病院 事務部長 金 野 靖
高松病院 事 務 長 福 田 雄 介
盛岡つなぎ温泉病院 事務部長 吉 田 譲 治
盛岡友愛病院 事 務 長 小 原 孝 文
川久保病院 事 務 長 片 方 直 樹
独立行政法人国立病院機構盛岡病院 事務部長 曾 我 理
もりおかこども病院 事務副部長 木 村 正 樹
八角病院 事 務 長 藤 原 正 孝

1. 10 月分患者データについて
2. 平成 30 年 1 月～10 月分の患者データについて
 - (1) 二次救急
 - (2) 小児救急
 - (3) 休日救急当番医・夜間急患診療所
3. 第 169 回小児救急電話相談事業事例検討会（11/20）及び H29.10 月から H30.10 月までのデータについて
4. 盛岡地域メディカルコントロール協議会の書面会議の実施結果について
5. 医療提供体制推進事業費補助金（医療提供体制設備整備事業）について
6. 12 月分二次救急病院当番表について
7. 平成 31 年 1 月～3 月分の小児救急入院受入病院当番表について
8. 2019 年 9 月の二次救急・小児救急輪番担当病院の変更について
（岩手医科大学附属病院より）
9. 小児救急輪番病院制への加入申込について
（国立病院機構盛岡病院より）
10. 平成 31 年度二次救急・小児救急輪番について
11. 広報もりおかへの年末年始の救急医療態勢記事掲載について
12. 医大移転に伴う今後の救急医療体制について

盛岡市保健所 企画総務課 医事薬事係長 宮 野 直 子

盛岡市医師会事務局
事務局長 及 川 敬一郎
次 長 水 本 達 彦
係 長 谷 藤 慎 治

9. 平成30年度 盛岡市総合防災訓練

日 時：平成30年9月1日（土） 午前8時

場 所：県営スケート場駐車場、盛岡市立城北小学校、国立病院機構盛岡病院



本年の盛岡市総合防災訓練は、平成30年9月1日(土)午前8時より、県営スケート場駐車場、盛岡市立城北小学校、国立病院機構盛岡病院を会場に、震度6弱の地震、建物倒壊による多数の傷病者発生という想定のもと開催された。

県営スケート場駐車場でのトリアージ訓練・応急救護訓練には、日赤救護班のほか盛岡市立病院から医師2名、看護師3名と岩手県大DMAT1チームが参加した。城北小学校では、災害発生数日後、避難所生活の一般住民が体調不良等による診察を想定し、盛岡市立病院の近藤公亮副院長および看護師による医療救護訓練が行われた。

また国立病院機構盛岡病院では病院スタッフ約60名（医師・看護師・事務）と県立中央病院DMATによる傷病者のトリアージ訓練

が行われた。住民・自主防災隊も含めると約2,000人の参加者であった。

数年前から地域住民、小学生も含めた参加型の防災訓練に移行しつつある。我々の医療救護訓練でも地域住民が被災現場から傷病者を救出し、応急手当をした上で、救護所へ搬送する訓練から始まった。災害時にはまず現場の住民同士で助け合わなければならない。

この報告を書き始めた9月6日未明、「平成30年北海道胆振東部地震」が発生した。岩手県内でもDMATを派遣、当院でも赤十字救護班を派遣している。まずは災害が起きないことであるが、このような防災訓練がさらに充実し、非常時の一助になることを期待したい。

（久保直彦）

寄稿

【トリアージ訓練・医療救護訓練】

盛岡市総合防災訓練に参加して

盛岡市立病院 看護師 兼 澤 恵 子

9月1日(土)県営スケート場駐車場において、盛岡市総合防災訓練が行われました。

私が会場に到着すると、既に上空にはヘリが飛び、地上では自衛官や消防士、消防団員や救急救命士、医師や看護師などが集まり、訓練に備えている状態でした。スケールの大きさに驚いたのと同時に、身の引き締まる思いでいっぱいになりました。

私は応急救護所におけるトリアージ訓練に参加させていただきました。大規模災害発生時に被災傷病者を重症度により選別し、応急処置を行い、より重症度の高い患者から後方支援病院へ搬送するという内容の訓練でした。私は主に緑エリアに配置され、医師の診断や実施した処置をトリアージタグに記録し、会話ができる被災傷病者からは名前や住所、電話番号、性別、年齢などを聞いて記録しました。初めてのトリアージタグの取扱いに最初は戸惑い、右往左往していましたが、次第に自ら声を出せるようになり、周囲を見渡せるようになってしまし

た。次々と搬送されてくる被災傷病者の情報管理を行うことは、看護師の役割において大切な責務だと感じました。

一次トリアージで緑タグと診断された被災傷病者が、クラッシュシンドロームを疑われ、赤タグへ変更になったケースもありました。赤エリアは医大DMATが担当しており、医師から医師へ情報伝達が行われていました。看護師は変更になった際、変更になった時刻と変更した医師名、どこでトリアージをしたか場所を記録する必要があることを学びました。

大規模な災害が発生した時、現場は混乱することが予想されます。指揮官の指示に従い、与えられた役割を各々が理解し、冷静に行動すること、コミュニケーションを密に行うことは非常に大切なことだと感じました。

近年、自然が猛威を振るい、自然災害が後を絶たない状態です。今回経験させていただいた訓練を生かし、災害発生時には看護師として役割を担っていきたいと思います。



寄稿

【医療機関負傷者受入訓練】

盛岡市総合防災訓練に参加して

国立病院機構盛岡病院 看護師長 高 橋 可奈子

9月1日に盛岡市総合防災訓練が行われました。当院からは医師、看護師等職員54名が参加し、傷病者60名が来院する想定で行われました。

私はトリアージエリア担当看護師として、医師、事務職員とともにトリアージを行い、各診療エリアへと振り分けをする訓練を実施しました。傷病者は、歩いてくる人、ストレッチャーで運び込まれる人、症状を訴えられる人、反応が全くない人等さまざまな状態で来院し、状態聴取や観察を行いながら医師へと引き継ぎ、的確なトリアージができるように心がけました。

今回は訓練ということで、傷病者の身体情報がある程度わかるようになっていましたが、実際の災害場面では、多くの傷病者が来院する中で、少ない情報で重症度と緊急度を速やかに判断することが求められます。トリアージチームにはSTART法で判断ができるようにタグが用意されていました。しかし、実際にそれを活用することはできず、傷病者

からの聞き取りと簡単な触診等で判断し振り分けを行っていたので、その判断が的確だったのか疑問に思うところがありました。また、各診療エリアからは、エリアによって傷病者が多い・少ない等といった情報が入ってしまうことで、的確な振り分けができず、トリアージに集中できなくなってしまう場面もありました。

振り返れば様々な反省点はありますが、多くの時間をかけて準備をしてきました。当院では7年ぶりの訓練ということで、初めて訓練に参加する職員が多く、地震発生から各診療エリアの設営、診療までスムーズに行うことができるのか心配事が多くありました。しかし、実際訓練が始まると職員の表情は変わり、汗をかきながら懸命に対応していました。職員それぞれが自分の役割を自覚し、協力して取り組めたと思います。震災はいつ発生するかわかりません。適切な対応ができるように繰り返し訓練を行い、職員一人ひとりが身につけていく必要があると感じました。



盛岡市総合防災訓練に参加して

岩手県立中央病院 看護師 千田綾子

今回、県統括DMATから参集命令を受け、当院は災害拠点病院の役割であるDMAT参集拠点本部を設置。当院DMAT、岩手医科大学附属病院DMATが参集。活動要請を受け当院DMATは国立病院機構盛岡病院へ出動しました。

盛岡病院の指揮命令に従い、医師は赤エリア（最優先治療群）、看護師2名、調整員1名は黄色エリア（待機治療群）で活動しました。最初はスタッフ間で声掛けができず、個々に対応していた部分もあり、搬送されてきた患者が滞る場面がありました。しかし、徐々にお互い声を出し合い、エリア内で協力することで診察・治療の流れがスムーズに進めることが出来たと思います。

実際の災害現場では情報も錯綜する中

で、混乱することが予測されます。その中で訓練とは違い、患者の情報収集から始まり、限られた時間、限られた資源の中での確かなアセスメントをしなければなりません。看護師として患者さんの配慮を忘れてはならないこと、個々の技術やアセスメント能力はもちろん大事なことです。チームでの協力、さらに現場スタッフ全員での声掛け、情報共有が重要である事を改めて感じました。

災害はいつ起きるかわかりません。万一災害が起きた時に、迅速な対応ができるよう日々の看護実践において知識・技術を身につけること、そして積極的に訓練へ参加し経験を積んで置く事が大切であると今回災害訓練に参加し実感できる良い機会となりました。



寄稿

平成30年度盛岡市総合防災訓練参加報告

岩手県立中央病院 救急医療部次長、整形外科長 松 谷 重 恒

平成30年9月1日、防災の日に盛岡市総合防災訓練が開催され、参加してきましたので報告いたします。災害の想定状況は、「盛岡を震央とする震源の深さ11km、マグニチュード6.5の地震が発生し、厨川・青山町で最も強い震度7を観測。同地域では建物の倒壊、土砂崩れなどにより多数の傷病者が発生」というもので、県営スケート場駐車場、盛岡市立城北小学校、国立病院機構盛岡病院を会場としての訓練です。私は県立中央病院からのDMAT隊として盛岡病院へ傷病者の診療応援に行くという設定で参加しました。

国立病院機構盛岡病院では、救急隊が扮する傷病者約60名のトリアージ訓練を行い、盛岡病院としても災害訓練には久しぶりの参加とのことでしたが、菊池院長やその他病院スタッフともに熱心に参加されており、検査や病棟への移動などスムーズに行われていた印象でした。途

中からは中央病院からDMATがもう一隊到着し、診療の応援を担って頂きました。感謝です。

火山列島日本では、今後も間違いなく自然災害は起きるでしょう。訓練後、9月6日には北海道胆振東部地震が発生しましたが、停電復旧の早さを見ても災害対策の進歩は感じて取れました。しかし想定を超えることがあるのが災害です。万全とはいかないまでも、ある程度起こり得ることは想定をしておくことで、初動が異なってくるものと思われます。今回の訓練でも、行政、自衛隊、警察、消防、電気、ガス、水道などインフラの関係者を含めて約2,000名の方々が参加していたそうです。普段の業務ではなかなか横の連携は取りにくいものですが、このような機会に顔を合わせておくことも必要なことではないでしょうか。皆さんお疲れ様でした！



トリアージ訓練・医療救護訓練・応急救護所開設訓練 (県営スケート場駐車場・盛岡市立城北小学校)



医療機関負傷者受入訓練 (国立病院機構盛岡病院)



入院患者の動向表示

氏名	年齢	性別	エリア	動向	診断	診療科	入院病棟	備考
山本 太郎	65	男	A	搬送	心臓病	内科	3床	
田中 花子	72	女	B	搬送	骨折	整形外科	2床	
佐藤 一郎	58	男	C	搬送	骨折	整形外科	3床	
鈴木 美咲	28	女	D	搬送	骨折	整形外科	4床	
高橋 健一	75	男	E	搬送	骨折	整形外科	5床	
中村 裕子	68	女	F	搬送	骨折	整形外科	6床	
小林 大輔	45	男	G	搬送	骨折	整形外科	7床	
渡辺 真由	35	女	H	搬送	骨折	整形外科	8床	
山崎 隆夫	70	男	I	搬送	骨折	整形外科	9床	
佐々木 千恵	60	女	J	搬送	骨折	整形外科	10床	

患者受付状況

色	人数
赤	10人
黄	24人
緑	26人
黒	1人

災害時院内状況一覧(1)

平成20年9月/日

病棟状況	病床数	入院患者数		負傷者入院数	入院患者数	
		(災害発生時点)	(時分現在)		(時分現在)	(時分現在)
4階西病棟 特殊	10	6	4			
4階西病棟 一般	40	40	0	1		
4階東病棟	51	48	3	1		
3階西病棟	51	45	6	3		
3階東病棟	51	33	18	12		

27 17 2
可能 搬送



10. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

平成 16 年 10 月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。この相談員は、岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用するものとし、10 名を登録している。

相談業務は年中無休で午後 7 時から午後 11 時まで行われ、登録した看護師のうち 2 名ずつで担当している。相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月 1 回相談員全員と小児科医 3～4 名が同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移 (H16.10～H30.12)

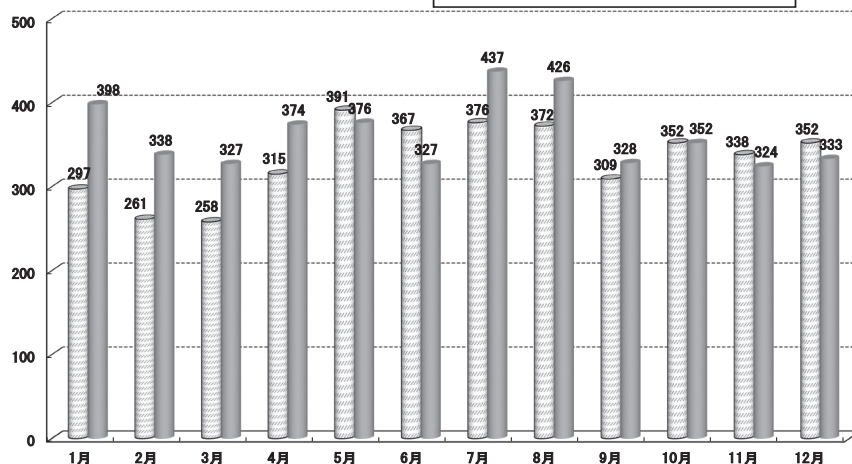
(件)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
平成 16 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	122	118	104	344	114.7
平成 17 年	118	224	281	185	219	199	191	145	138	200	169	248	2,317	193.1
平成 18 年	172	163	184	193	243	207	182	174	149	191	225	332	2,415	201.3
平成 19 年	220	221	271	245	239	226	189	175	191	172	251	347	2,747	228.9
平成 20 年	236	225	197	205	222	212	217	210	201	214	250	380	2,769	230.8
平成 21 年	296	266	262	242	276	274	209	249	309	454	493	494	3,824	318.7
平成 22 年	348	317	343	285	359	317	332	307	242	269	346	413	3,878	323.2
平成 23 年	368	325	297	262	350	314	351	345	307	303	331	360	3,913	326.1
平成 24 年	333	360	330	349	323	260	291	306	288	314	351	320	3,825	318.8
平成 25 年	305	255	277	303	331	297	297	334	362	314	292	353	3,720	310.0
平成 26 年	277	246	331	301	283	257	285	331	272	267	291	408	3,549	295.8
平成 27 年	364	256	240	245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成 28 年	301	337	337	369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成 29 年	297	261	258	315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3
平成 30 年	398	338	327	374	376	327	437	426	328	352	324	333	4,340	361.7

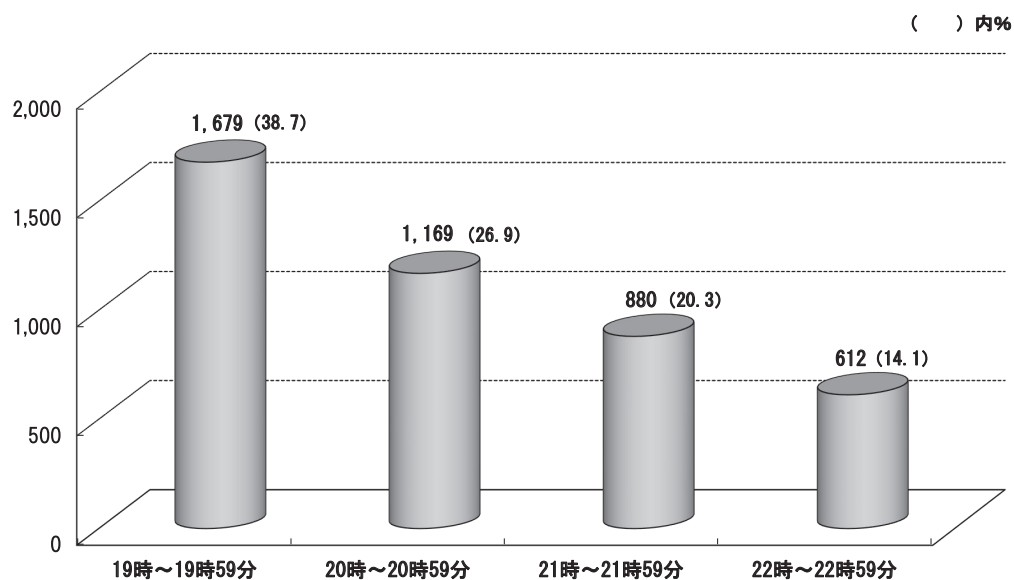
2. 月別件数 (前年度との比較)

◇平成29年 3,998件(平均:332.3件)
◆平成30年 4,340件(平均:361.7件)

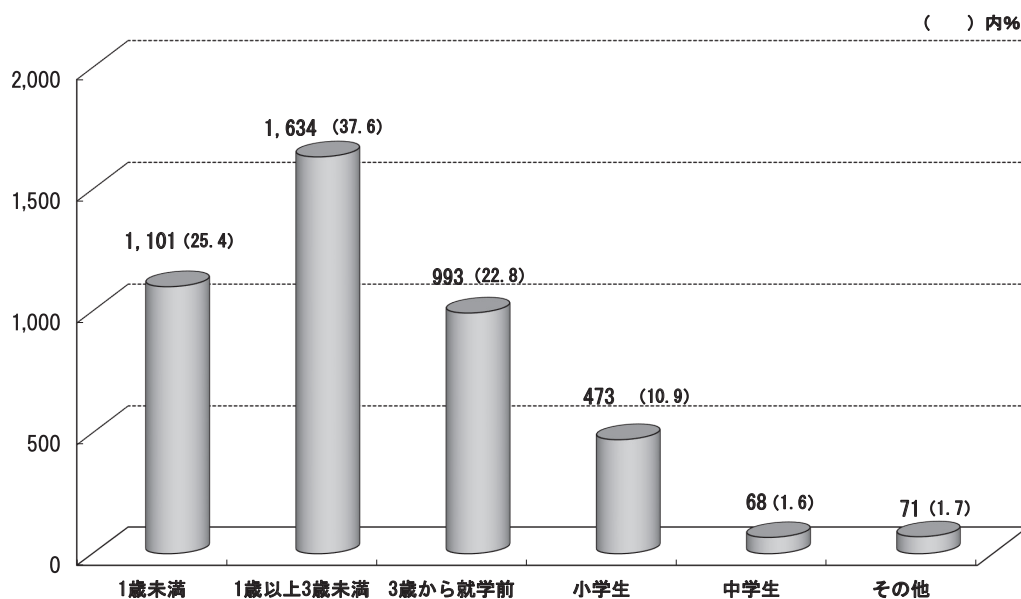
□平成29年
■平成30年



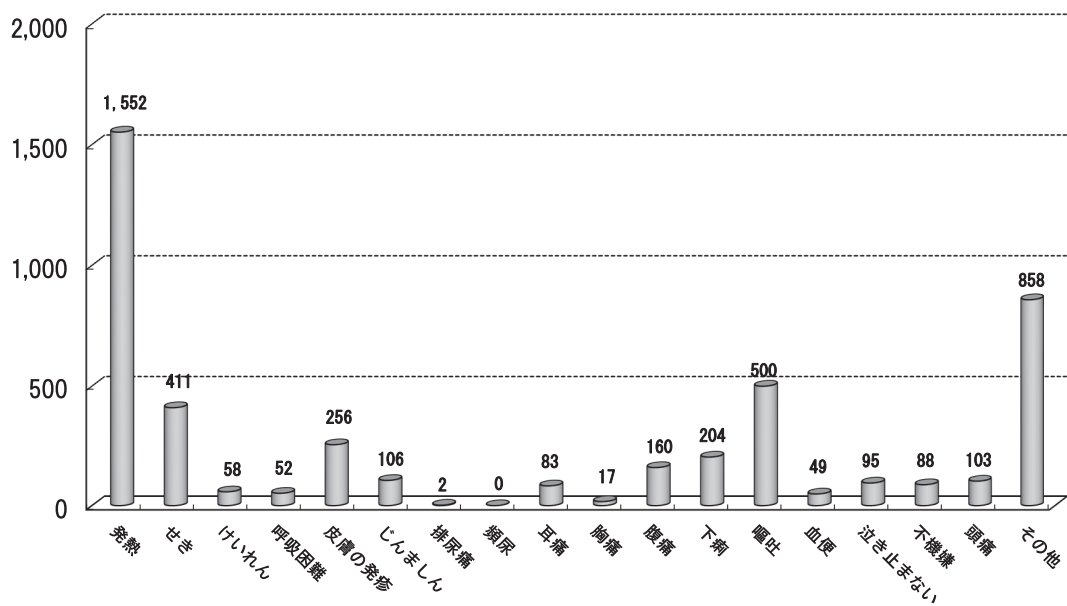
3. 時間帯別内訳 (H30. 1 ～ 12)



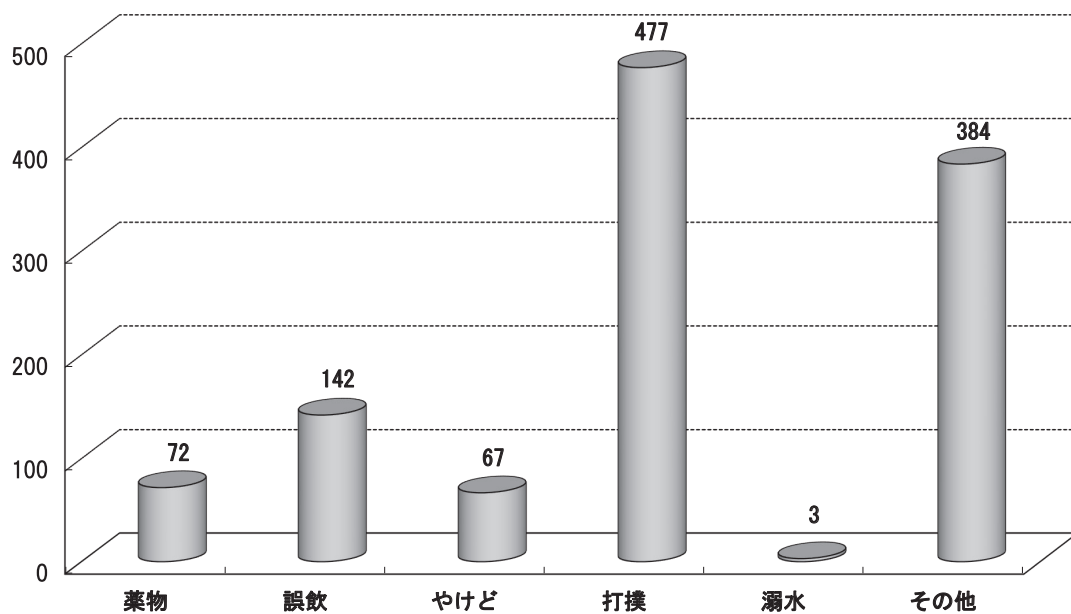
4. 年齢別内訳 (H30. 1 ～ 12)



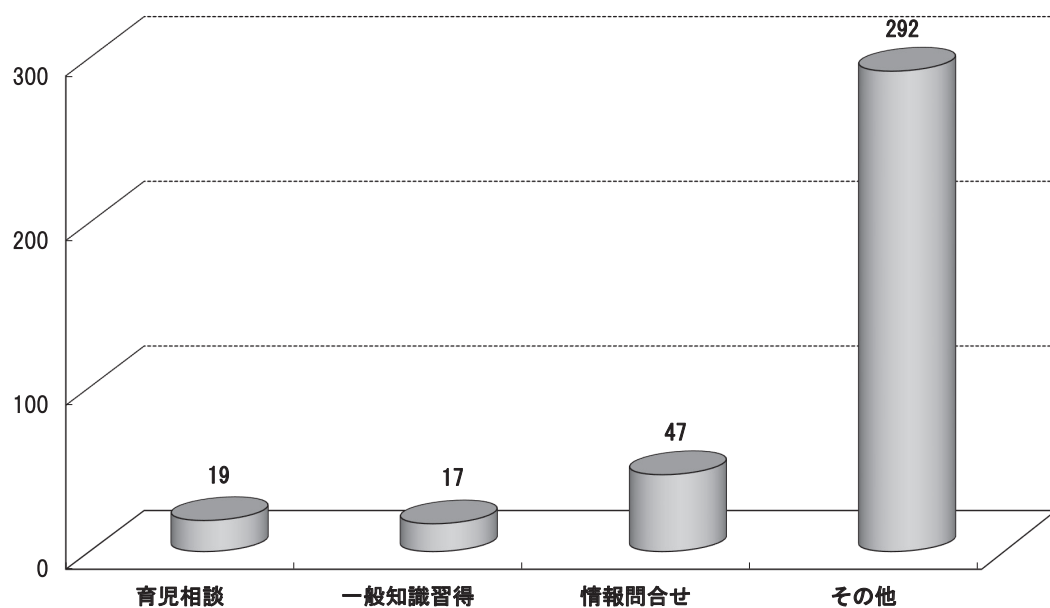
5. 相談別内容（病気）



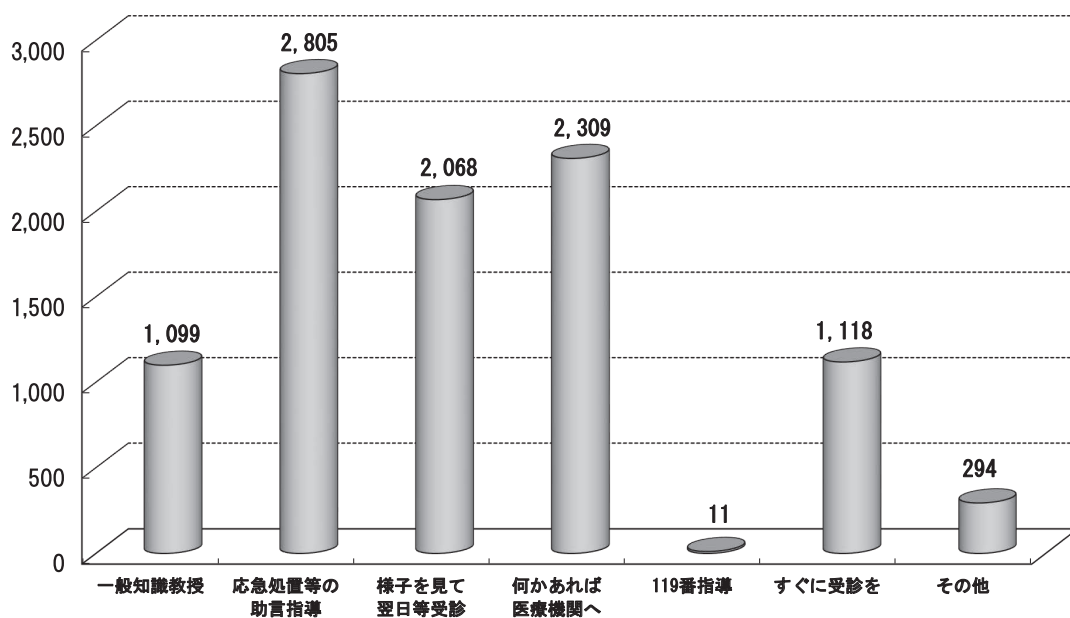
6. 相談内容別内訳（事故）



7. 相談内容別内訳（その他）

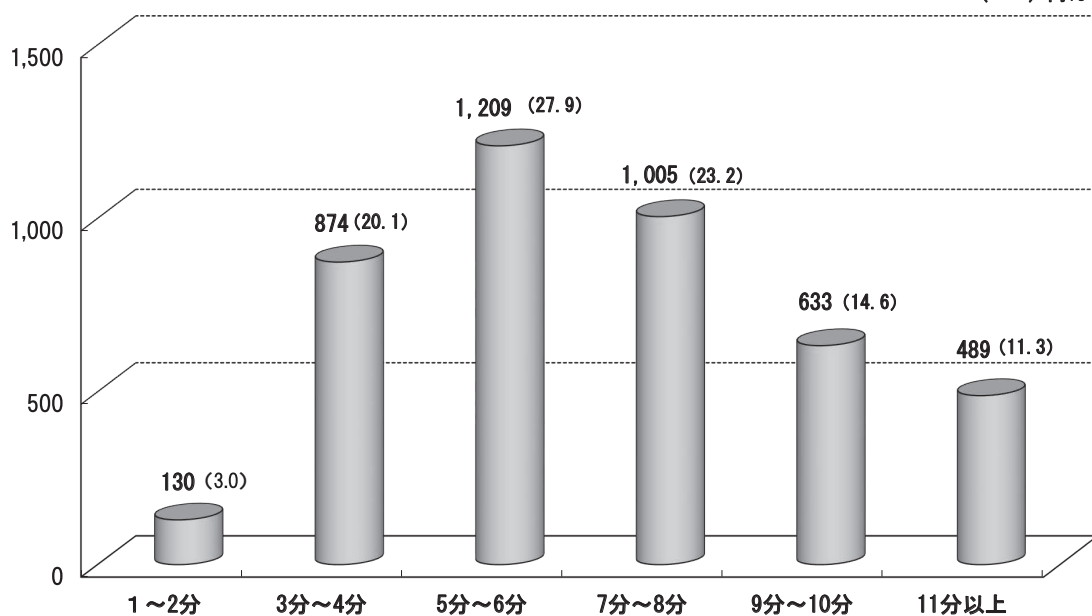


8. 対応内容別内訳（H30.1～12）



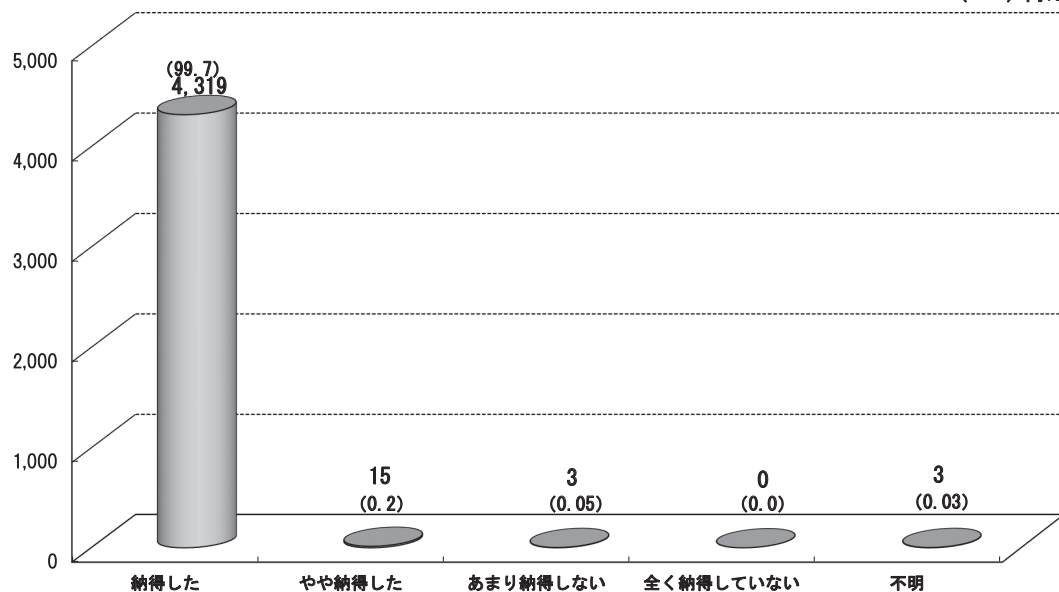
9. 相談時間別内訳 (H30. 1 ～ 12)

() 内%



10. 相談者の印象別内訳 (H30. 1 ～ 12)

() 内%



11. 市町村別件数（H30.1～12）

市町村名	相談件数	() 内%
市 部 計	3,781	(87.12)
盛岡市	1,469	(33.85)
宮古市	93	(2.14)
大船渡市	91	(2.10)
奥州市	372	(8.57)
花巻市	362	(8.34)
北上市	336	(7.74)
久慈市	63	(1.45)
遠野市	66	(1.52)
一関市	451	(10.39)
陸前高田市	31	(0.71)
釜石市	66	(1.52)
二戸市	46	(1.06)
八幡平市	76	(1.75)
滝沢市	259	(5.97)
岩手郡	88	(2.03)
雫石町	38	(0.88)
葛巻町	3	(0.07)
岩手町	47	(1.08)
紫波郡	252	(5.81)
紫波町	128	(2.95)
矢巾町	124	(2.86)
県 外	20	(0.46)
不 明	4	(0.09)

市町村名	相談件数	() 内%
和賀郡	14	(0.32)
西和賀町	14	(0.32)
胆沢郡	44	(1.01)
金ヶ崎町	44	(1.01)
西磐井郡	21	(0.48)
平泉町	21	(0.48)
気仙郡	5	(0.12)
住田町	5	(0.12)
上閉伊郡	12	(0.28)
大槌町	12	(0.28)
下閉伊郡	34	(0.78)
山田町	14	(0.32)
岩泉町	14	(0.32)
田野畑村	2	(0.05)
普代村	4	(0.09)
九戸郡	48	(1.11)
軽米町	11	(0.25)
洋野町	15	(0.35)
野田村	15	(0.35)
九戸村	7	(0.16)
二戸郡	17	(0.39)
一戸町	17	(0.39)
合 計	4,340 件	

おわりに

平成 30 年の電話相談の月平均は 361.7 件であった。平成 16 年の開設当初は月平均 114.7 件だったが、その後右肩上がりに増加し、平成 21 年以降は 300 件台前半で推移していたが、26 年に一度減少するも 28 年から増加傾向に転じ、平成 30 年は 360 件を超え過去最高となった。年齢別内訳では 3 歳未満が 63% を占め、発熱に関する相談 (25.4%) が最も多いという傾向は例年同じである。市町村別では、盛岡市からの相談が 33.8% と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も 0.5% 認めた。また、相談時間が長くなるケースもみられ、対応に苦慮する事例も少なくない。しかし相談者の 99.5% は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

V 救急医療年譜

- 昭和 40. 1.10 休日当番医制発足（内科、一日 2 ヲ所）
41. 7 休日当番医制に小児科および外科（それぞれ 1 日 1 ヲ所）が参加
- 51.12. 1 盛岡市夜間急患診療所が少年センター内（中の橋際、旧商工会議所）に開設
53. 3. 岩手県医業課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請
53. 6.16 盛岡市夜間急患診療所開設 1 周年記念式典開催
- 54.12. 1 盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制 9 病院にて開始
 岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
 岩手医科大学附属病院 遠山病院 高松病院
 栃内病院 河南病院 はらた病院
- 55.11. 1 岩手県高次救急センター開設
56. 9.10 盛岡市夜間急患診療所開設 5 周年記念懇談会開催
- 56.12 内丸病院が二次救急病院群輪番制に参加
57. 2. 6 盛岡市夜間急患診療所が若園町・市役所若園町分庁舎 1 階に移転、診療開始
- 57.10.15 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜 8:00 ～ 12:00 → 夜 7:30 ～ 11:30）
58. 7 はらた病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 62.11. 1 盛岡市夜間急患診療所が肴町盛岡市保健センター 2 階に新築移転、診療開始
- 62.11.14 盛岡市夜間急患診療所落成式開催
- 平成 4. 4. 1 盛岡市・都南村合併
5. 1 河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退
7. 4. 1 盛岡繋温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加
 輪番病院を南北 2 ヲ所におく
- 8.12. 7 盛岡市夜間急患診療所開設 20 周年記念式典開催
11. 4. 1 小児救急病院群輪番制 7 病院にて開始
 岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
 岩手医科大学附属病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
 もりおかこども病院
- 11.11. 1 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜 7:30 ～ 11:00 → 夜 7:00 ～ 11:00）
12. 4. 1 国立療養所盛岡病院が二次救急病院群輪番制に参加
12. 9. 1 南北にそれぞれおいていた輪番病院を A、B の二グループに変更
 A グループ
 岩手県立中央病院 盛岡赤十字病院 岩手医科大学附属病院
 B グループ
 盛岡市立病院 遠山病院 高松病院 栃内病院 内丸病院
 盛岡繋温泉病院 盛岡友愛病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
13. 2.22 盛岡地区二次救急医療体制 20 周年記念式典開催
14. 2. 1 岩手県高次救急センターを「岩手県高度救命救急センター」と改称
14. 9. 1 国立療養所盛岡病院が小児救急病院群輪番制を休止
- 16.10. 1 看護師によるこども救急電話相談の開設
17. 4. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
17. 9. 1 西根町・松尾村・安代町が合併し「八幡平市」となる
18. 1.10 玉山村が盛岡市と合併

- 19. 3.24 盛岡市夜間急患診療所開設 30 周年を祝う会開催
- 19. 4. 1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止（産婦人科も休止）
- 20. 4. 1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20. 4. 1 盛岡市が中核市となる
盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所（神明町：旧競馬会館ビル）に移転開設
- 20. 6.14 岩手・宮城内陸地震発生（最大震度 6 強）
- 20. 6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成（全会員へ送付）
- 20. 7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生（最大震度 6 強）
- 21. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21. 3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21. 5 新型インフルエンザの国内発生
- 21. 6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応（H 22.1.3 まで）
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制 30 周年記念式典開催
- 22. 4. 1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加（B 群病院として）
- 23. 3.11 東北太平洋沖地震発生（後に東日本大震災）
PM2：46 発災、マグニチュード 9.0（最大震度 7）、
津波による死者・行方不明者 19,000 人超
- 23. 3.12 遺体検案応援が始まる（盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は 6 月まで応援）
- 23. 5. 7 山田町保健センター救護所への当直応援開始（7/3 まで）
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 8. 7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始
※各診療部会で派遣対応
- 24. 5. 8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始（岩手医大矢巾キャンパス基地）
- 24.11.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援終了
- 25. 8. 9 大雨により「大雨洪水警報」発令
雫石町国道 46 号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25. 9.16 台風 18 号の影響により玉山区松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26. 1. 1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28. 3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了（閉所式）
- 28. 8.31 台風 10 号の影響により、岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有死者・行方不明者 24 名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式

VI 規程・協定書及び設置要項等資料

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日
昭和55年12月1日
平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決)

平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決)

平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 第1条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に置く。
(1) 盛岡市医師会
(2) 盛岡薬剤師会
(3) 岩手県看護協会
(4) 盛岡市
- 第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。
(1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
(2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
(3) 診療所の事務改善に関すること。
(4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 第4条 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
(1) 盛岡市医師会 7人
(2) 盛岡薬剤師会 2人
(3) 岩手県看護協会 1人
(4) 盛岡市 2人
- 第5条 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
協議会に会長及び副会長1人を置く。
(1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
(2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
(3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 第6条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。
- 第7条 協議会の事務を処理させるため協議会に事務局長及び事務局職員を置く。
2 事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱する。
- 第8条 この会則に定あるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定ある。
附 則
この規約は、昭和52年4月19日から施行する。
附 則
この規約は、昭和55年12月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成9年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成20年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成22年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成24年6月1日から施行する。
2 第4条の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する委員の任期については、従前のとおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石 川 育 成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判の的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では増があかず、体制確立と平行しての行政接衝を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものである。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 1988」より

① 岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県（以下「甲」という。）と社団法人岩手県医師会（以下「乙」という。）は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療班の派遣）

第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護所等に派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待っているとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（医療班に対する指揮）

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定するものを行う。

（医療班の業務）

第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。

2 医療班の業務は次の通りとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給するものとする。

（収容医療機関の指定）

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
- (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
- (3) 医療班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
- (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細 目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協 議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩 手 県

代表者 岩手県知事 増 田 寛 也

乙 盛岡市菜園二丁目8番20号

社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、平成元年４月２０日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第１条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必要な事項を定める。

（医療救護班の派遣）

第２条 甲は、医療救護活動を実施する必要がある場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。

２ 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。

（自主出動）

第２条の２ 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

２ 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

３ 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第３条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（指揮命令）

第４条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものとする。

（医療救護班の業務）

第５条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。

２ 医療救護班の業務は次のとおりとする。

- （１）傷病者に対する応急処置及び医療
- （２）傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- （３）被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第６条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、原則として岩手県が供給するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が甲に請求するものとする。

(1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費

(2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費

(3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金

(4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。

(費用弁償等の請求、報告)

第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協 議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間（以下「協定機関」という。）は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号

甲 社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

岩手県盛岡市愛宕町18番6号

乙 社団法人 盛岡市医師会

会 長 小 林 高

③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画（以下「防災計画」という。）に基づき、甲が乙の協力を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護婦等で編成する医療救護班（以下「医療救護班」という。）の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に派遣するものとする。

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待っているとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

（医療救護班の業務）

第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 助産
- (4) 死亡の確認

（医療救護班の輸送）

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所の設置）

第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。

2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

（使用医薬品等）

第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品（以下「医療品等」という。）は、原則として甲が備える医薬品等とする。

2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所における給食等）

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

（医療費）

第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。

2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。

- (1) 医療救護班を派遣したときの人件費災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定に基づく実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定める額
- (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
- (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用実費の額
- (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したものの甲、乙協議して定める額（扶助費）

第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。

(医事紛争の措置)

第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。

2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当な措置を講ずるものとする。

(報告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定あるところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費（以下「費用等」という。）を請求するときは、甲の定めるところにより行うものとする。

(支払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると認めたときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定める。

(協定期間)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの1通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市

代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番6号

社団法人盛岡市医師会

会 長 小 林 高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設 置 要 項

(設 置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会（以下委員会という）を置く。

(所 掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

(1) 盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項

(2) その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構 成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の常任委員を置く。

(任 期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委 員 長)

第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。

(1) 委員長は会務を総括し会議の議長となる

(2) 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会 議)

第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。

(1) 会議は委員会と常任委員会の二種とする

(2) 委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。

第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経 費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

(1) 拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

第 10 条 この要項は昭和55年4月1日から施行する。

この会則は、平成 2 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 7 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 8 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 9 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成12年4月 1 日一部改正する。

この会則は、平成20年4月 1 日一部改正する。

この会則は、平成22年4月 1 日一部改正する。

この会則は、平成24年6月26日一部改正する。

この会則は、平成31年3月 1 日一部改正する。

この会則は、平成31年4月 1 日一部改正する。

付 表

－ 委 員 －

岩 手 医 科 大 学 附 属 病 院	院 長	他 4 名
岩 手 県 立 中 央 病 院	院 長	他 1 名
盛 岡 赤 十 字 病 院	院 長	他 1 名
盛 岡 市 立 病 院	院 長	他 1 名
高 松 病 院	院 長	1 名
栃 内 病 院	院 長	1 名
遠 山 病 院	院 長	1 名
盛 岡 つ な ぎ 温 泉 病 院	院 長	1 名
盛 岡 友 愛 病 院	院 長	1 名
川 久 保 病 院	院 長	1 名
独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター	院 長	1 名
八 角 病 院	院 長	1 名

夜 間 急 患 診 療 所 運 営 委 員 4 名

盛 岡 市 医 師 会 理 事 8 名

岩 手 西 北 医 師 会 会 長 1 名

紫 波 郡 医 師 会 会 長 1 名

そ の 他 若干名
以上 37 名以内

Ⅶ 編集後記

平成 30 年の岩手県、盛岡地区の救急医療は、大きな災害や感染症の流行もなく大過のない 1 年であった。感染症についてはアフリカのコンゴではエボラ出血熱の流行があり、身近ではデング熱の日本上陸などが言われているが、このまま対岸の火事として収束して欲しいものである。

さて令和元年 9 月 21 日岩手医科大学附属病院が矢巾に移転する。本稿を書いた数日前に具体的な移転計画と診療休止などに関する記者会見があった。岩手医大移転前後には医大の全ての医療機能が停止するため、その間県民、市民の医療に滞りないよう関係各医療機関にお願いし準備し進めているという。本書のデータにあるように岩手医大は平成 30 年に年間約 18 千人の 1 次 2 次救急患者を診ている。移転によるその患者の受診行動がどうなるか予想困難だが、一部病院へ患者が集中することが予想される。これに対して初期救急の強化を各輪番病院へお願いし、適正受診を市民に周知させることを行政、医師会で行っている。岩手医大移転後も市民に安心、安全な医療を提供するために、今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。

最後に本書を発行にするにあたりご尽力いただいた編集委員の皆様、盛岡市担当職員の皆様、出版社、特に実務担当の盛岡市医師会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

久保 直彦

※盛岡地区救急医療体制のあゆみ編集委員

和田 利彦 ・ 小山 耕太郎 ・ 近藤 公亮 ・ 野崎 英二
吉田 耕太郎 ・ 金子 博純 ・ 本間 博 ・ 橋本 真生
久保田 公宣 ・ 金濱 誠己 ・ 小林 有一 ・ 臼井 由紀子
久保 直彦

盛岡地区救急医療体制のあゆみ

2019

発行日 令和元年 9 月 9 日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

印刷所 (株) 杜陵印刷